様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	中部大学
設置者名	学校法人中部大学

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
工学部	機械工学科	夜・通信	6	7	2	15	13	
	電気システム工学科	夜・通信			2	15		
	電子情報工学科	夜・通信			0	13		
	都市建設工学科	夜・通信			2	15		
	建築学科	夜・通信			2	15		
	応用化学科	夜・通信			2	15		
	情報工学科	夜・通信			2	15		
	ロボット理工学科	夜・通信			0	13		
	電気電子システム工学科	夜・通信			2	15		
	宇宙航空理工学科	夜・通信			2	15		
経営情報学部	経営総合学科	夜・通信	6	0	8	14	13	
国際関係学部	国際学科	夜・通信	6	0	8	14	13	
人文学部	日本語日本文化学科	夜・通信	6	8	2	16	13	
	英語英米文化学科	夜・通信			0	14		
	コミュニケーション学科	夜・通信			2	16		
	心理学科	夜・通信			2	16		
	歴史地理学科	夜・通信			2	16		
応用生物学部	応用生物化学科	夜・通信	6	0	8	14	13	
	環境生物科学科	夜・通信			7	13		

	食品栄養科学科 食品栄養科学専攻	夜・通信			8	14		
	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	夜・通信			8	14		
生命健康科学部	生命医科学科	夜・通信	6	1	6	13	13	
	保健看護学科	夜・通信			6	13		
	理学療法学科	夜・通信			6	13		
	作業療法学科	夜・通信			6	13		
	臨床工学科	夜・通信			6	13		
	スポーツ保健医療学科	夜・通信			6	13		
現代教育学部	幼児教育学科	夜・通信	6	2	6	14	13	
	現代教育学科 現代教育専攻	夜・通信			6	14		
	現代教育学科 中等教育国語数学専攻	夜・通信			6	14		

（備考）
工学部　電気システム工学科、電子情報工学科は 2018 年度入学より募集停止。
工学部　電気電子システム工学科、宇宙航空理工学科は 2018 年度より設置。（完成年度を超えていない学科となる。実務経験のある教員等による授業科目の単位数として未だ学生のいない学年の科目も計上している。）
経営情報学部　経営情報学科、経営学科、経営会計学科および国際関係学部　国際関係学科、国際文化学科、中国語中国関係学科は 2016 年度入学より募集停止中であり、かつ、修業年限で卒業できないことが確定した支援対象者となり得ない留年生のみが在籍する学科となるため、計上してない。

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/top.do

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	中部大学
設置者名	学校法人中部大学

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.chubu.jp/main/officer/

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	（独）国立高等専門学校機構特別顧問 倉敷芸術科学大学長	2017.4.1 ～ 2021.3.31	教学に関する指導・助言
非常勤	東洋電機（株）代表取締役会長 春日井商工会議所会頭	2019.6.7 ～ 2023.6.6	地域連携に関する指導・助言
非常勤	アライアンス・フォーラム財団代表理事 デフタ・パートナーズグループ会長 内閣府本府　参与	2017.4.1 ～ 2021.3.31	管理運営に関する指導・助言
非常勤	（株）ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長 CEO （株）IOT スクエア代表取締役 CEO （株）インターネット総合研究所代表取締役 （株）ユニモ取締役会長 （学）SBI 大学常務理事	2017.4.1 ～ 2021.3.31	管理運営に関する指導・助言
非常勤	アフラック生命保険（株）シニアアドバイザー	2019.6.7 ～ 2023.6.6	管理運営に関する指導・助言
非常勤	上海交通大学平野材料創新研究所長	2019.6.7 ～ 2023.6.6	教学に関する指導・助言
非常勤	星薬科大学長 東京大学 特任教授 原子力委員会委員	2019.6.7 ～ 2023.6.6	教学に関する指導・助言

（備考）

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	中部大学
設置者名	学校法人中部大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 【全学部・学科共通】 各科目担当者には、大学で定めたシラバス作成要領（刊行物）を配付し、この要領に基づいたシラバスの作成を依頼している。 シラバスの作成は、本学の Web システムを使用して、教員が各自入力する。 また、各担当者がシラバスを作成した後、各学部・学科において、第三者の教員によるシラバス内容の点検を実施している。要領で定めた内容と齟齬があった場合は、点検者からの指摘に応じて担当教員が修正を行っている。 第三者による点検実施および内容の修正が完了後、新年度オリエンテーション実施日の１週間～10 日前を目処にシラバスを公表している。 （新年度オリエンテーション：3 月下旬）

授業計画書の公表方法	https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/top.do

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 【全学部・学科共通】 各教員には、シラバス作成要領において、シラバスの“成績の評価方法”の項目に、どのような観点・方法により評価するかを示し、またその評価方法が全体（100%）に占める割合を明示している。 （例：レポート等の提出物：50%、期末試験：50%など） また、シラバスの“成績の評価基準”の項目に、評価方法で示した観点・方法で測定した学修成果に対して、どのような基準で成績をつけるのかを明示している。 また、シラバスの第三者点検を行い、シラバスに記載された評価方法が適正であるか各学部・学科において確認している。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。
（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） 【全学部・学科共通】 成績評価の客観的な指標として GPA を導入しており、大学 HP や学生に配付している学生便覧等の刊行物で、学生・学外へ公表している。 GPA の算定方法は、成績評価ごとに以下のポイントを設定し、 S：４、A：３、B：２、C：１、不合格（E、R、I）：０ 以下の通り、平均点を算出している。 ｛（４×S の取得単位数）＋（３×A の取得単位数）＋（２×B の取得単位数）＋（１×C の取得単位数)｝÷総履修単位数 なお、不合格となった科目を再度履修し、合格評価を得た場合や再度履修した結果、再び不可であった場合のそれぞれ再履修前の不可評価については GPA には算入していない。また、大学の定める期間内に履修の取消を行った科目については、その単位は GPA には算入していない。 春・秋の各学期開始時に、前学期までの成績を反映した GPA（前学期の取得単位のみで算出した GPA および前学期までの総取得単位で算出した GPA の 2 通り）を上述の方法で算出している。 また、学生に学内 Web システム上とオリエンテーションで配付する履修成績状況表で GPA を通知している。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/grade/

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

各学部・学科の「卒業の認定に関する方針」は、以下の通り。

【工学部】

方針概要

工学部の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、学科の各領域の工学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

各学科の専門技術について、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力、クリティカル思考力などを獲得し、工学的思考を基に、学科専門に係わる問題について対応、解決できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

各学科の専門知識と技術をもつ技術者として、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力など各学科の専門性を活かした工学的思考を身に付け、地域社会、国際社会にリーダーとして貢献できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

国際的視野と多様な価値観を理解でき、各学科の専門性をもつ技術者として、コミュニケーション力、傾聴・受信力、クリティカル思考力、ディスカッション力などを有し、様々な人々の立場を尊重し、協働して問題解決に当たることができる。

【機械工学科】

方針概要

機械工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、力学・制御、エネルギー・流体、生産プロセス及び工学設計の領域の機械工学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

機械工学における専門技術について、調査・情報収集力、課題設定力、クリティカル思考力を獲得し、工学的思考に基づき、機械工学全般について知識・能力を発揮し、問題解決できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

機械技術が社会や自然に及ぼす影響を理解し、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、論理的な観点から機械技術者として適切な判断ができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

科学技術に関する情報を的確に理解し、時代の潮流を把握した上で、課題設定力、企画・計画力、プレゼンテーション力を体得し、リーダーシップを発揮し統制のとれた協働作業の推進ができる。

＊【電気システム工学科】

方針概要

電気システム工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、電力・設備システム、電機・制御システム、電気情報システムの電気システム工学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身に付けたも

のに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
電気を有効に利用した快適な社会環境を確立するため、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、電力・設備システム、電機・制御システム、電気情報システムにおける知識・能力を発揮できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
現代社会に果たすべき役割と責任を理解できる電気技術者として、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、リーダーとして地域社会に貢献することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
社会を担う電気技術者としての誇りを持ち、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、多様な人の立場を尊重し、協働で物事に対処できる。

＊【電子情報工学科】
方針概要
電子情報工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、電子情報工学の基礎と応用、自然環境や人類の福祉、情報化社会への対応など、電子情報工学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
絶えず進歩する技術と社会の要求に対応するため、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力を獲得し、電磁気学、電気・電子回路、電子デバイス、通信工学および情報システムに関する知識・技能を発揮できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
データを収集、解析し、正確に考察できる電子情報技術者として、調査・情報収集力、データ解析力、ディスカッション力を獲得し、問題解決のための類推、創造、発見ができ、自分の考えを表現できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
国際的視野から情報発信できる電子情報技術者として、コミュニケーション力、傾聴・受信力、グローバルな思考力を獲得し、情報化社会におけるルールと技術者倫理を理解し、他のメンバーと協働して遂行できる。

【都市建設工学科】
方針概要
都市建設工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、土木工学を基盤として、計画、設計、施工、管理などの専門的かつ実務的な都市建設工学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
グローバルな視野から必要な知識、教養、専門基礎知識、専門知識ならびにデザイン能力を活用する技術者として、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力、ICT 活用力を獲得し、デザイン能力により安心・安全かつ快適な社会基盤の整備に貢献できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
多様な分野にわたる土木工学の専門知識を修得した技術者として、プレゼンテーション力、自己理解力、クリティカル思考力を身に付け、リーダーとして持続発展可能な地球環境の開発・保全に貢献することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

技術が及ぼす環境への影響を理解できる技術者として、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を活用し、多様な人の立場を尊重し、チームワーク力を発揮して協働で物事に対処できる。

【建築学科】
方針概要
建築学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、建築設計・計画、建築環境・設備、建築構造、建築生産、建築史、都市計画の領域などの、建築学に関する知識と能力を修得した「あてになる建築技術者」として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
地球的視野を有し、地域的・歴史的・人間的な多様な価値観を理解し、現代の社会的正義や良識を踏まえた上で、計画、構造、材料、環境、歴史、法・防災といった建築学諸分野およびその横断的領域の理論、技法、問題点、原理、仕組み、関係等を理解できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
建築に求められている内容を理解し、建築空間として構想し、構想された建築を正しく図面化しプレゼンテーションできる。建築学諸分野の事象を抽象化し数学的および論理的に理解でき、また、その情報の収集や問題の解決に ICT を活用できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
自分で考え、まとめ、コミュニケーションできる能力を身に付け、チームの一員として責任と協調性を持って行動できる。また、建築学諸分野における専門性の高い、発展的な知識・技術を理解し、学び続けることができる。

【応用化学科】
方針概要
応用化学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、環境化学、物理化学、無機化学、有機化学及び化学工学の応用化学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
化学系技術者として、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力、ICT 活用力を獲得し、デザイン能力により安心・安全かつ快適な社会基盤の整備に貢献できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
化学技術が人間社会、自然環境に及ぼす影響を理解すると共に、プレゼンテーション力、自己理解力、クリティカル思考力を身に付け、リーダーとして持続発展可能な地球環境の開発・保全に貢献することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
国際性も視野に入れた化学系技術者として、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を活用し、多様な人の立場を尊重し、チームワーク力を発揮して協働で物事に対処できる。

【情報工学科】
方針概要
情報工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、情報技術の専門知識の基礎と応用力、国際的な視野と教養、および語学力とコミュニケーション能力を身につけ、情報工学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
信頼性やセキュリティに責任があり、高い倫理観が必要とされることを理解し、調

査・情報収集力、ICT 活用力、課題設定力を獲得し、ソフトウェアとプログラミング、情報通信などの具体的な問題に対処できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
数学や自然科学の素養を活用する情報技術者として、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、ディスカッション力を獲得し、国際社会に貢献できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
技術を総合的に駆使できる技術者として、クリティカル思考力、傾聴・受信力、企画・計画力を獲得し、課題の分析と具体化、システムの設計、実装とデバッグ、評価と改善を実行できる。

【ロボット理工学科】
方針概要
ロボット理工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、システム設計、プログラミング、制御・信号処理、人工知能、生体医工学等のロボット工学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
ロボットがあらゆる分野に必要不可欠な存在であることを理解できる技術者として、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力を身に付け、工学的見地から問題解決に対処できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
ロボット領域における知識・能力、技術を備えた技術者として、プレゼンテーション力、クリティカル思考力、自己理解力を獲得し、高い倫理観と使命感を有する社会人として、国際社会に貢献できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
ロボット理工学分野における知見を備えた技術者として、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を獲得し、様々な立場の人々と協働し問題解決できる。

【電気電子システム工学科】
方針概要
電気電子システム工学科の課程を修め､必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、電力・設備、電機・計測制御、材料・デバイス、システム・通信の電気電子システム工学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身につけたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
電気エネルギーとエレクトロニクス技術を有効に利用した快適な社会環境を確立するため、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、電力・設備、電機・計測制御、材料・デバイス、システム・通信における知識・能力を発揮できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
現代社会に果たすべき役割と責任を理解できる電気電子システム技術者として、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身につけ、リーダーとして地域社会に貢献することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
社会を担う電気電子システム技術者としての誇りを持ち、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、多様な人の立場を尊重し、協働で物事に対処できる。

【宇宙航空理工学科】
方針概要
宇宙航空理工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、宇宙航空理工学の専門的知識・技術として航空宇宙機の設計・研究開発・製造技術・利活用などの宇宙航空理工学に関する知識と能力を修得するとともに、機械や電気・電子情報分野を横断した統合的な応用力を有する有能な技術者として、以下に示した力を身につけたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
航空宇宙機の設計・研究開発・製造に携わるものとして、宇宙航空理工学に必要な知識や教養、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力を獲得し、グローバルな社会でその能力を発揮・活躍できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
宇宙航空理工学分野に携わる技術者として、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力等の能力を活用し、プレゼンテーション力、クリティカル思考力を獲得し、問題解決のための類推、創造、発見ができ、リーダーシップを発揮できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
宇宙航空理工学分野における知見を備えた技術者として、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を獲得し、多様な人の立場を尊重し、チームワーク力を発揮して協働で物事に対処できる。

【経営情報学部】
方針概要
経営情報学部の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、現代　社会に不可欠な経営学と情報科学の基礎・基盤的な素養と専門的知識を身につけた有識社会人として、以下に示した力を身に付けたものに対し、学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
経営学と情報科学の素養を備えた専門職業人／有識社会人として、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を学修効果として身に付け、グローバル化した経済において、多様な進展が求められる企業を始めとした様々な組織の発展に貢献することができる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
経営学と情報科学の素養を備えた専門職業人／有識社会人として、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付けた「直接対面対話能力」のあるリーダーとして国内のみならず、グローバル化した経済社会において貢献することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
経営学と情報科学の素養を備えた専門職業人／有識社会人として「ヒューマン・ネットワークの大切さ」を理解し、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、多様な人の立場を尊重し、協働で物事に対処することができる。

【経営総合学科】
方針概要
経営総合学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、企業経営と情報技術に関する基礎・基盤的な素養と専門的知識を身につけた有識社会人として、以下に示した力を身に付けたものに対し、学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
経営情報分野の素養を備えた専門職業人／有識社会人として、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を学修効果として身に付け、グローバル化した経済におい

て、多様な進展が求められる企業を始めとした様々な組織の発展に貢献することができる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
経営情報分野の素養を備えた専門職業人／有識社会人として、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付けた「直接対面対話能力」のあるリーダーとして地域社会のみならず、グローバル化した経済社会において貢献することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
経営情報分野の素養を備えた専門職業人／有識社会人として「ヒューマン・ネットワークの大切さ」を理解し、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、多様な人の立場を尊重し、協働で物事に対処することができる。

**【経営情報学科】
知識・理解
［1］情報技術、経営、会計に関する知識やスキルを身につけ社会に役立てることができる。
［2］情報技術や経営、会計を理解し、それらの専門知識を様々な分野で活用することができる。
思考・判断
［3］社会のルールを遵守し、人のために役立つという気持ちをもちながら、行動できる。
［4］物事に対して、正確な情報に基づいて自分なりに考え、判断できる。
関心・意欲・態度
［5］思考力と創造力を培うための知識とスキルを身につけている。
［6］膨大な情報から必要な情報を選択し、その情報より論理的に思考し、行動できる。
［7］他人の考え方を理解しながら、自分の考えをまとめ、コミュニケーションできる。
技能・表現
［8］経営情報システム、企業経営、企業会計に関する知識とスキルを活用できる。
［9］経営情報システムの専門家や情報システムに強いビジネスパーソン・経営指導者として、様々な分野で活躍することを目指した行動がとれる。

**【経営学科】
知識・理解
［1］経営、経済、法律、情報、会計等に関する広範な知識習得し、これを活用することができる。
［2］基本的な教養を身につけたうえ、企業経営や組織行動に関する専門能力を活用して、社会の発展に貢献できる。
思考・判断
［3］自立心や公益意識を持ち、かつ社会的ルールを遵守し、自己責任のもと誠実に行動できる。
［4］グローバルな広い視野から物事を深く掘り下げ、バランス感覚を備えた自らの判断を行うことができる。
関心・意欲・態度
［5］旺盛な好奇心をもって、構想力、指導力、説得力等を培うため、知識とスキルを深めることができる。
［6］計画を自ら立案し、これを実行するとともに、率先垂範の意思を持って行動で

きる。
［7］他人の考え方や立場を理解しながら自分の考えを構築し、これを他人に伝えることができる。
技能・表現
［8］情報化社会における企業経営や組織的活動の仕組みや機能を理解し、専門的 スキルを実践的に応用できる。
［9］経営者・起業家や経営指導専門家として、また経営の分かるビジネスパーソンとして、様々な分野で活躍することを目指した行動がとれる。

**【経営会計学科】
知識・理解
［1］会計、経営、情報技術に関する知識やスキルを身につけている。
［2］企業会計や経営を理解し、それらの専門知識を様々な分野で活用することができる。
思考・判断
［3］社会のルールを遵守して行動できる。
［4］物事に対して正確な情報に基づいて自分なりに考え、判断できる。
関心・意欲・態度
［5］思考力と創造力を培うための知識とスキルを身につけている。
［6］膨大な情報から必要な情報を選択し、その情報より論理的に思考し、行動できる。
［7］他人の考え方を理解しながら、自分の考えをまとめ、コミュニケーションできる。
技能・表現
［8］企業会計の仕組み、企業経営、コンピュータの活用法に関する知識とスキルを活用できる。
［9］企業会計の専門家や会計に強いビジネスパーソンとして、様々な分野で活躍することを目指した行動がとれる。

【国際関係学部】
方針概要
国際関係学部が学科において定める課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、国際化する社会の様々な現場で活躍できる能力を身に付けた有識社会人として、次の力を付けた者に対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
世界各国・地域の人々の生活や社会制度に関する幅広い知識と、英語・中国語をはじめとする語学力と共に、傾聴・受信力、クリティカル思考力、コミュニケーション力を身に付け、環境の変化に柔軟に適応しながら、自らの意見を述べ、行動することができる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
文化や制度の多様性についての理解と、教員・学生との意見交換や討論を通じて獲得したコミュニケーション力、プレゼンテーション力、課題設定力、企画・計画力、クリティカル思考力により、自らが直面する諸問題を正確に分析し、適切に対処することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
異なる言語や文化的背景を持つ他者と自己との比較により得た自己理解力、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を活用し、多様な価値観を尊重しながら自らの主体性を損なうことなく、新しい物事や方法論を創出することができる。

【国際学科】

方針概要

国際学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、国際化する社会の様々な現場で活躍できる能力を身に付けた有識社会人として、次の力を付けた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

世界各国・地域の人々の生活や社会制度に関する幅広い知識と、英語・中国語をはじめとする語学力と共に、傾聴・受信力、クリティカル思考力、コミュニケーション力を身に付け、環境の変化に柔軟に適応しながら、自らの意見を述べ、行動することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

文化や制度の多様性についての理解と、教員・学生との意見交換や討論を通じて獲得したコミュニケーション力、プレゼンテーション力、課題設定力、企画・計画力、クリティカル思考力により、自らが直面する諸問題を正確に分析し、適切に対処することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

異なる言語や文化的背景を持つ他者と自己との比較により得た自己理解力、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を活用し、多様な価値観を尊重しながら自らの主体性を損なうことなく、新しい物事や方法論を創出することができる。

**【国際関係学科】

知識・理解

［1］国際関係に関する広い知識を持ち、国際社会で歴史的に、あるいは現代的に生起する出来事を読み解くことができる。

思考・判断

［2］国際関係的な観点から、多面的に物事を考えることができる。

［3］国際的な情報を自ら入手し、読み解き、解決策を探ることができる。

関心・意欲・態度

［4］日常的に国際的な事象・報道などに関心を抱き、それらが企業や生活に及ぼす影響を説明できる。

［5］世界の言語を自主的、継続的に学習できる。

技能・表現

［6］国際政治、国際経済、国際開発協力に関する知識を活用できる。

［7］国際関係の知識を背景として英語による適切なコミュニケーションを行うことができる。

**【国際文化学科】

知識・理解

［1］他文化に対する広い知識を持ち、それを偏見なく活かすことができる。

［2］他文化と出会ったときに、これを偏見なく理解しようと努めることができる。

［3］文化の持つ価値を客観的に認識することができる。

思考・判断

［4］自らの信条を大切にしながらも、文化の異なる他者の考えにも耳を傾け、その文化、習慣などに配慮しながら、その場における最善の問題解決法を得ることができる。

［5］他文化にかかることがらを、東西問題だけでなく南北問題としても理解し、適切に判断して行動に役立てることができる。

［6］広い視野を持ち、世界の大きな動きの中に自分を位置づけることができる。

関心・意欲・態度
［7］他文化の優れている点などを、偏見なく積極的に取り入れ、仲介することができる。
［8］社会の状況に応じた文化のあるべき形について、積極的に考え、情報発信　できる。
［9］文化の持つ価値について理解し、守るべきものは積極的に守ろうと努めることができる。
技能・表現
［10］英語、あるいはその他の言語を用いて、適切なコミュニケーションを行うことができる。
［11］文化の異なる相手に対して、筋道を立てて自らの考えを伝え、理解してもらうことができる。
［12］他文化に関する知識、経験、および外国語能力を活かして、多文化共生社会で責任感を持って行動できる。

**【中国語中国関係学科】
知識・理解
［1］社会科学、人文科学の基礎知識を踏まえ、中国の政治、ビジネス、文化や社会について解釈することができる。
［2］アジアや世界の中でグローバルな視点から中国を位置づけて説明することができる。
思考・判断
［3］自らの設定した問題意識に基づいて、中国を含めた国際社会や国際ビジネスについての事柄を適切に分析することができる。
［4］現地で得た経験や情報に基づいて、中国にまつわる諸問題を的確に判断し、解決することができる。
関心・意欲・態度
［5］海外で発生した事柄に常に関心を持ち、専門職業人として国際社会の現地・現場において活躍できる。
［6］異なる言語や文化を持つ人々と協調し、共生することができる。
技能・表現
［7］中国語の充分かつ実践的な能力を身につけ、コミュニケーションを行うことができる。
［8］中国語を用いて中国語圏の情報を適切に手に入れることができる。

【人文学部】
方針概要
人文学部では、各学科学位プログラムの課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、人間や文化を探求する自発性や創造性、豊かな教養をもった品位ある人格の形成を目指し、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
社会人として身の周りの人間や文化を知るために、他者から学ぶ傾聴・受信力を身に付けることで社会で必要とされる人文学の知識を所有でき、ICT 活用力などをもつことで知識を分析、整理、統合する技能を駆使できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
人間や文化についての知識・技能を活用するために企画・計画力、クリティカル思考力を向上させ、物事を的確に判断することができ、かつ、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を身に付け、その内容を正確に表現できる。
③主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

人文学の素養を備えた社会人として人間や文化を客観視するために自己理解力やディスカッション力を身に付けることで、主体性をもって多くの人々と協働し、学び続ける態度を身に付けることができる。
④広い関心・自律的意欲
たくましい社会人として人間や文化について調査･情報収集力を身に付けることで、幅広い関心をもつことができ、自ら課題設定力をもつことで、その課題を深く探求しようとする自律的意欲をもつことができる。

【日本語日本文化学科】
方針概要
日本語日本文化学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、世界の中の日本という視点から、日本語や日本文化を深く理解し、国際社会の中での日本文化の意義を探求するための読解力、思考力、表現力を修得した有識社会人として、次の力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
日本語・日本文学・日本文化を考究するために、他者から学ぶ力である傾聴・受信力をもつことで豊かな人文学の知識を所有でき、さらに、ICT 活用力などをもつことでその知識を分析、整理、統合する技能を駆使することができる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
日本語・日本文学・日本文化をより深く理解するために企画・計画力をもち、クリティカル思考力を磨くことにより思考力を高め、コミュニケーション力やプレゼンテーション力をもって、他者に的確に表現することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
日本語・日本文学・日本文化を客観視し、自己理解力を深め、更にディスカッション力をもつことで、他者と協働して学ぶ態度ができ、さらに学んだことを生かして社会に貢献する姿勢をもつことができる。
④ 広い関心・自律的意欲
日本語・日本文学・日本文化について、調査・情報収集力を身に付け、幅広い関心をもつことができ、かつ、関心をもつことに対しての自らの課題設定力を駆使し、その課題を深く探求しようとする自律的意欲をもつことができる。

【英語英米文化学科】
方針概要
英語英米文化学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、英語圏の言語･文化についての深い知識と高い英語コミュニケーション能力を備えた「たくましいグローバル人材」として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
英語圏の言語・文化についての深い知識と高い英語コミュニケーション能力を備えた職業人・社会人として、調査・情報収集力、ICT 活用力を備え、自分の持つ知識・技能を国内・外の多文化共生社会に還元できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
グローバルな見地からの発想力・判断力・表現力を備えた職業人・社会人として、クリティカル思考力、プレゼンテーション能力、課題設定力を身に付け、物事を批判的・論理的に捉え日英両言語で議論することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
多様な価値観を尊重しながらも、日本という基軸に立ち、主体性をもってグローバル社会で活躍する職業人・社会人として、ディスカッション力、企画・計画力を活用し、協働して物事に対処することができる。

④ 広い関心・自律的意欲
英語圏の言語・文化についての広い関心と自律的意欲を備えた職業人・社会人として、自己理解力、傾聴・受信力、責任と自覚をもって高いレベルで物事を達成しようという意欲的な態度と行動力をもつことができる。

【コミュニケーション学科】
方針概要
コミュニケーション学科の課程を修め､必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、優れたコミュニケーション・デザインやコミュニティ・デザインなどで社会の文化情報環境の向上に寄与できる「文化情報デザイナー」として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
他者から学ぶ傾聴・受信力でコミュニケーション・デザイン、コミュニティ・デザインの基礎的知識を身に付け、ICT 活用力でメディア情報やメディア文化を分析するための諸アプローチの技能を駆使することができる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
高い企画・計画力とクリティカル思考力で情報の価値や真偽を調査して判断でき、情報を的確に表現するコミュニケーション力、プレゼンテーション力をもって責任ある情報発信を行うことができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
自己理解力とディスカッション力をもって他者と協働して学ぶことができ、情報格差の少ない社会を実現するコミュニケーション・デザイン、コミュニティ・デザインで社会に貢献する姿勢をもつことができる。
④ 広い関心・自律的意欲
高い調査・情報収集力をもってグローバルな視点から様々な情報に幅広く関心を抱き、課題設定力を駆使して文化情報環境に関する課題を深く探求し、解決しようとする自律的意欲をもつことができる。

【心理学科】
方針概要
心理学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、心理学に基づいた問題解決ができる専門家・社会人として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
社会で役立つ心理学の知識を備え、調査・情報収集力を駆使して問題を発見し、ICT 活用力によって問題を分析することで正確に把握し解決法を模索することができる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
クリティカル思考力、企画・計画力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を獲得し、説得力をもって現代社会における心理学的な課題への解決法を提案できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
自己理解力に基づいて自己の立場を明確にしつつ、多様な人の立場を尊重し、ディスカッション力を駆使して協働で心理学的な課題に対処して社会に貢献する姿勢をもつことができる。
④ 広い関心・自律的意欲
傾聴・受信力や課題設定力を獲得し、幅広い関心や視野から現代社会の心理学的な課題を系統立てて捉え、自ら解決する意欲をもつことができる。

【歴史地理学科】
方針概要
歴史地理学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、あらゆる事象や問題を歴史的経緯と地理的視野をあわせて総合的に考察し、現代を生きぬくために必要な深い洞察力と見識を身に付けた人物として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
他者から学ぶ柔軟な傾聴・受信力をもって、歴史的経緯と地理学的視点から、過去および現在の様々な事象や問題についての深い知識を身に付け、ICT 活用力によってその知識を分析、整理、統合する技能を駆使することができる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
過去および現在の様々な事象や問題について、歴史的経緯と地理学的視点から、調査･分析する企画･計画力､クリティカル思考力を身に付け､高いコミュニケー　ション力、プレゼンテーション力をもってその成果を社会に提供することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
歴史的経緯と地理学的視点から、過去および現在の様々な事象や問題を客観的に把握し、深い自己理解力と高いディスカッション力をもって他者と協働し、社会に貢献する姿勢をもつことができる。
④ 広い関心・自律的意欲
各地域の様々な過去および現在の事象に広く関心をもち、歴史的経緯や地理学的視点に即して自ら深く探求できる課題設定力、調査・情報収集力を身に付け、その課題を解決するための意欲をもつことができる。

【応用生物学部】
方針概要
応用生物学部の課程を修め、124 単位を修得し必修等の条件を満たしたうえで、グローバルな視野に立った教養と応用生物学に関する専門知識・技能を修得し、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
応用生物学に取り組む専門職業人や有識社会人として活躍するために社会で必要とされる知識・技能、調査・情報収集力、課題設定能力を修得し、持続的社会の実現に貢献できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
応用生物学分野に取り組む専門職業人や有識社会人として、知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力を修得し、リーダーとして地域社会に貢献できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
応用生物学の知識や技能を担保としたコミュニケーション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度が身に付いている。

【応用生物化学科】
方針概要
応用生物化学科の課程を修め、124 単位を修得し必修等の条件を満たしたうえで、「遺伝子と生物機能」に関する基本的な考え方・知識・スキルとそれらを実社会で活用する能力、そして自ら学び続ける能力を身に付けた、専門職業人・有識社会人として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
「遺伝子と生物機能」を理解する基盤となる自然科学の知識と技術を身に付けるとともに、専門職業人・有識社会人として必要な情報調査収集力、課題設定力、情報

通信技術の活用力等々の知識・技能を身に付け、様々な分野で活用できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
「遺伝子と生物機能」を活用する専門職業人・有識社会人として、知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力を修得し、リーダーとして地域社会に貢献できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
「遺伝子と生物機能」を活用する専門職業人・有識社会人として、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度が身に付いている。

【環境生物科学科】
方針概要
環境生物科学科の課程を修め、124 単位を修得し必修等の条件を満たしたうえで、「環境生物学（生態系における個体の生物学）」に関連する高度な専門知識や技術を理解し、それらを実社会で活用する能力、さらに自ら学び続ける能力を有した有識社会人として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
「環境生物学」を理解する基盤となる自然科学の知識と技術を身に付けるとともに、専門職業人・有識社会人として活躍するために要求される知識・技能、調査・情報収集力、課題設定力を修得し、生物多様性を担保した持続可能な社会の実現に貢献できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
「環境生物学」に関わる専門職業人・有識社会人として、知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力を修得し、リーダーとして地域社会に貢献できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
「環境生物学」に関わる専門職業人・有識社会人として、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度が身に付いている。

【食品栄養科学科　食品栄養科学専攻】
方針概要
食品栄養科学科食品栄養科学専攻の課程を修め、124 単位を修得し必修等の条件を満たしたうえで、グローバルな視野に立った教養と「食」と「栄養」に関する専門知識・技能を修得し、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
食産業に従事する専門職業人や有識社会人として活躍するために社会で必要とされる知識・技能、調査・情報収集力、課題設定能力を修得し、「安全で美味しく、栄養価の高い食品」を安定して提供していくことのできる社会の実現に貢献できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
食産業に従事する専門職業人や有識社会人として、知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力を修得し、リーダーとして地域社会に貢献できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
食産業に従事する専門職業人や有識社会人として、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度が身に付いている。

【食品栄養科学科　管理栄養価学専攻】
方針概要
食品栄養科学科管理栄養科学専攻の課程を修め、124 単位を修得し必修等の条件を満たしたうえで、バイオサイエンスおよびバイオテクノロジーを基盤とした、21 世紀型の管理栄養士に必要な知識と技術を身に付けた有識社会人として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能
栄養管理を通した健康保持・増進や疾病予防・改善に強い 21 世紀型の管理栄養士として社会で必要とされる知識・技能、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、健康長寿社会の実現に貢献できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
栄養管理を通した健康保持・増進や疾病予防・改善に強い 21 世紀型の管理栄養士として、知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力を修得し、リーダーとして健康長寿社会の実現に貢献できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
栄養管理を通した健康保持・増進や疾病予防・改善に強い 21 世紀型の管理栄養士として、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度が身に付いている。

【生命健康科学部】
方針概要
各学科の課程を修め、必修等の条件を満たした単位を修得し、各学科独自の教育理念を身に付けた有識社会人として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
各学科独自の教育目標から、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、それぞれの医療専門職として活躍できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
各学科独自の教育目標から、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、リーダーとして職域あるいは地域社会に貢献することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
各学科独自の教育目標から、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、多様な人の立場を尊重し、協働で物事の対処ができる。

【生命医科学科】
方針概要
生命医科学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 128 単位を修得し、以下の 3 種類の領域それぞれの能力を十分に身に付けたと判断された者に学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、21 世紀の疾病構造を把握しその病態解明や予防・治療のために生命医科学の基礎を修得しており、豊かな人間性と修得した生命医科学を基盤として、健康予防の重要性を正しく伝えることができる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、生命医科学の知識やその技術の背景を説明することができ、その知識や技術を活用できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、生命医科学の知識やその技術の修得を通じて、人々の健康に関心をもち、科学的根拠に基づいた健康予防対策を講じることができる。

【保健看護学科】
方針概要
保健看護学科の課程を修め、必修などの条件を満たした 130 単位を修得し、ヘルスプロモーションの理念に基づき対応できる高度な専門性を備えた看護師・保健師

および養護教諭として、以下に示す力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
看護の知と技の修得により、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、人々の健康と生活に関する問題に対して、科学的根拠をもとに判断し解決できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
自律性を高め、保健・医療・福祉チームにおける多職種との協働の重要性を理解し、ディスカッション力、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、人々の健康に関する問題に対して、科学的根拠をもとに判断し　解決できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
命の尊厳を理解し、心のふれあいを重視し、自己啓発力を高める中で、コミュニケーション力、自己理解力を身に付け、多様な価値観をもって社会で生活する人々の尊厳と権利を擁護できる。

【理学療法学科】
方針概要
理学療法学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 128 単位を修得し、専門職業人の理学療法士をめざすものとして、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
理学療法士として必要な基本的知識・技能を修得することにより多様な疾患・障がいを理解し、またそのために必要な情報収集力を身に付け、最新医療に必要な知識・技能向上のために課題設定をして自己研鑽ができる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
チーム医療の中で得られる多くの情報から問題点を総合的に判断し、自身の考えを患者やチーム内で説明でき、実際に行動に移すことができる。その際、ICT 活用力も駆使して様々なデータを有効活用できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
医療チーム内および患者やその家族との会話や討論を通して傾聴･受信力を発揮し、自己理解力をもとに、自身とは異なる多様な人の立場を尊重し、同時に自身の考えもしっかりもって協働して医療に従事できる。

【作業療法学科】
方針概要
作業療法学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 128 単位を修得し、作業療法士に必要な専門知識・技術と豊かな人間性をもつ有識社会人として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
医療技術の進歩や社会構造の変化の中で活躍できる作業療法士として調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、医療・保健・福祉の分野から社会に貢献することができる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
医療・保健・福祉の実践家として、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、リーダーシップを発揮して地域社会に貢献することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
リハビリテーションを担う専門職の一員として、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活かし、対象者や他職種の立場を尊重し、生活に一番近い医療専門職として物事に対処できる。

【臨床工学科】
方針概要
臨床工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 128 単位を修得し、専門職業人の臨床工学技士をめざすものとして、以下に示す項目の能力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
臨床工学技士に必要とされる、医学・工学・医用工学の知識や技能を修得でき、さらに、医療人として必要とされる幅広い教養をもった豊かな感性、人間への深い洞察力、倫理観、生命の尊厳についての深い認識を身に付けることができる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
患者やチーム医療のスタッフから得られる多くの情報を関連付けて考察し、総合的に問題点を判断できる。また、臨床工学に関する知識や技術の背景を説明することができ、その知識や技術を医療人として応用できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
チーム医療のスタッフ、患者やその家族と十分なコミュニケーション力を発揮し、チーム医療の一員としての役割を果たすことができる。修得した臨床工学体系を基礎として、臨床工学の役割を正しく語ることができる。

【スポーツ保健医療学科】
方針概要
スポーツ保健医療学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 128 単位を修得し、国民の生活の質（QOL）の向上に役立つ能力を身に付けた有識社会人として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、健康社会の実現に貢献できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、リーダーとして地域社会に貢献することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、多様な人の立場を尊重し、協働で物事に対処できる。

【現代教育学部】
方針概要
現代教育学部の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、保育・教育のありかたについての理論と技能を身に付けた専門職業人となるべく、次に示す能力・資質などを身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、子どもの成長発達、保育・教育について研究を行うことができる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、保育・教育系や社会が求める多様な保育・教育実践と支援に貢献することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、保育・教育のありかたについて、多様な人の立場を尊重し協働で物事に対処できる。

【幼児教育学科】

方針概要

本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、次のような教育内容のコースを配置して授業を実施し、教育評価を行う。ナンバリングとカリキュラムマップ（教育課程系統図）によってカリキュラムの体系を分かりやすく示し、コースの意味を明確化する。

幼児教育学科履修モデル

A：保育・幼児教育コース（保育士資格、幼稚園教諭免許状取得）
B：保育重点コース（保育士資格取得）
C：幼児教育重点コース（幼稚園教諭免許状取得）

① 教育内容

(1) 学修の基礎となる保育・教育学、教育心理学領域の履修を通して、幅広い知識を修得し、自らのキャリア形成の方向付けができるようにしている。

(2) 保育・幼児教育についての理論と技能を身に付けた専門職業人として求められる知識・技能の修得のために、調査・情報収集力（必要な情報を調査・収集し、選択・分析する力）、課題設定力（修得した知識・技能をもとに、物事を観察し、課題を設定する力）、ICT 活用力を獲得できる科目を体系的に配置している。

(3) 多様化する保育・幼児教育の場で貢献するため、思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、プレゼンテーション力、企画・計画力（課題解決についての見通しを持ち、指導計画を立てる力）、クリティカル思考力（物事を客観的に観察・思考し、結論を導く力）を身に付けられる科目を体系的に配置している。

(4) 保育・幼児教育のありかたについて、主体性をもち多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、コミュニケーション力、ディスカッション力（テーマに沿って円滑に議論を進める力）、傾聴・受信力（他者の考えを正確に受けとめる力）を身に付けた専門職業人となるべく、1 年次から体系的・系統的に科目を配置している。

② 教育方法

(5) 主体的な学びの力を伸ばすために、アクティブラーニングの要素を多く取り入れる。また、学修課題に合わせた適切な授業形態（講義、演習、実習など）を系統的に組み合わせた教育課程を展開することで学生の主体的な学びを促す。

(6) 創造的表現力を高めるために、音楽・造形・身体・言語表現を体験的・統合的に学ぶ機会を取り入れる。

(7) 正課・正課外教育において、保育・幼児教育の場で適用できる指導力・実践力を高めるため、幼稚園、保育所、子育て支援センター等の保育・幼児教育機関と連携を取りながら 1 年次から 4 年次まで系統的に体験的学修の機会を設ける。

③ 教育評価

(8) 各科目で授業の主旨や達成目標・到達点を明確にし、ディプロマ・ポリシーに照らして学生の伸びを客観的・多面的に評価する。

(9) 各科目の評価を総合して、学修の達成度を総括的に評価し、不足する部分を重点的に指導・強化することで、学生一人ひとりのディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(10) 3 年次のゼミナールでの研究成果を踏まえ、4 年間の学修成果を卒業研究で集大成し、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【現代教育学科　現代教育専攻】

方針概要

本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、次のような教育内容のコースを配置して授業を実施し、教育評価を行う。ナンバリングとカリ

キュラムマップ(教育課程系統図)によってカリキュラムの体系を分かりやすく　示し、コースの意味を明確化する。
現代教育専攻履修モデル
　A：小学校教育重点コース
　B：小学校教育＋中学校理科教育コース
　C：小学校教育＋特別支援教育コース
中等教育国語数学専攻履修モデル
　D：中学校国語教育コース
　E：中学校数学教育コース
① 教育内容
(1) 学修の基礎となる教育学、教育心理学領域の履修を通して、幅広い知識を修得し、自らのキャリア形成の方向付けができるようにしている。
(2) 教育についての理論と技能を身に付けた専門職業人として求められる知識・技能の修得のために、調査・情報収集力（必要な情報を調査・収集し、選択・分析する力)、課題設定力（修得した知識・技能をもとに、物事を観察し、課題を設定する力)、ICT 活用力を獲得できる科目を体系的に配置している。
(3) 多様化する教育の場で貢献するため、思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、企画・計画力（課題解決についての見通しを持ち、企画・計画を立てる力)、クリティカル思考力（物事を客観的に観察・思考し、結論を導く力）を身に付けられる科目を体系的に配置している。
(4) 教育のありかたについて、主体性をもち多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、コミュニケーション力、ディスカッション力（テーマに沿って円滑に議論を進める力)、傾聴・受信力（他者の考えを正確に受けとめる力）を身に付けた専門職業人となるべく、1 年次から体系的・系統的に科目を配置している。
② 教育方法
(5) 主体的な学びの力を伸ばすために、アクティブラーニングの要素を多く取り入れる。また、ICT を活用した授業指導力を高めるため、積極的に ICT を取り入れ、様々な活用方法について習熟を図る。
(6) 言語表現力を充実させるとともに、芸術・身体表現の体験的な学びを通して、創造的な表現力を高める。
(7) 地域の教育委員会など教育関係機関との連携のもと、学校現場で学習・生活支援を行う活動を通して、実践的な指導力を培う。
③ 教育評価
(8) 各科目で授業の主旨や達成目標を明確にし、ディプロマ・ポリシーに照らして学生の伸びを客観的・多面的に評価する。
(9) 各科目の評価を総合して、学修の達成度を総括的に評価し、不足する部分重点的に指導・強化することで、学生一人ひとりのディプロマ・ポリシーの実現を図る。
(10) 3 年次のゼミナールでの研究成果を踏まえ、4 年間の学修成果を卒業研究で集大成し、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【現代教育学科　中等教育国語数学専攻】
方針概要
本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、次のような教育内容のコースを配置して授業を実施し、教育評価を行う。ナンバリングとカリキュラムマップ（教育課程系統図）によってカリキュラムの体系を分かりやすく示し、コースの意味を明確化する。
現代教育専攻履修モデル

Ａ：小学校教育重点コース
Ｂ：小学校教育＋中学校理科教育コース
Ｃ：小学校教育＋特別支援教育コース
中等教育国語数学専攻履修モデル
Ｄ：中学校国語教育コース
Ｅ：中学校数学教育コース

① 教育内容

(1) 学修の基礎となる教育学、教育心理学領域の履修を通して、幅広い知識を修得し、自らのキャリア形成の方向付けができるようにしている。

(2) 教育についての理論と技能を身に付けた専門職業人として求められる知識・技能の修得のために、調査・情報収集力（必要な情報を調査・収集し、選択・分析する力)、課題設定力（修得した知識・技能をもとに、物事を観察し、課題を設定する力)、ICT 活用力を獲得できる科目を体系的に配置している。

(3) 多様化する教育の場で貢献するため、思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、企画・計画力（課題解決についての見通しを持ち、企画・計画を立てる力)、クリティカル思考力（物事を客観的に観察・思考し、結論を導く力）を身に付けられる科目を体系的に配置している。

(4) 教育のありかたについて、主体性をもち多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、コミュニケーション力、ディスカッション力（テーマに沿って円滑に議論を進める力)、傾聴・受信力（他者の考えを正確に受けとめる力）を身に付けた専門職業人となるべく、1 年次から体系的・系統的に科目を配置している。

② 教育方法

(5) 主体的な学びの力を伸ばすために、アクティブラーニングの要素を多く取入れる。また、ICT を活用した授業指導力を高めるため、積極的に ICT を取り入れ、様々な活用方法について習熟を図る。

(6) 言語表現力を充実させるとともに、芸術・身体表現の体験的な学びを通して、創造的な表現力を高める。

(7) 地域の教育委員会など教育関係機関との連携のもと、学校現場で学習・生活支援を行う活動を通して、実践的な指導力を培う。

③ 教育評価

(8) 各科目で授業の主旨や達成目標を明確にし、ディプロマ・ポリシーに照らして学生の伸びを客観的・多面的に評価する。

(9) 各科目の評価を総合して、学修の達成度を総括的に評価し、不足する部分を重点的に指導・強化することで、学生一人ひとりのディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(10) 3 年次のゼミナールでの研究成果を踏まえ、4 年間の学修成果を卒業研究で集大成し、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

各学科の卒業の要件は本学学則（第１８条）において定められている。

卒業の判定は、学生の修得単位数を事務（教務支援課）において集計し、卒業判定資料を作成した後、各学部の教授会で上述の方針に基づいて卒業の認定可否が審議され、その審議結果に基づいて学長が決定している。

＊ は 2018 年度入学より募集停止。
**は 2016 年度入学より募集停止。

卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	中部大学
設置者名	学校法人中部大学

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www3.chubu.ac.jp/about/finance/
収支計算書又は損益計算書	https://www3.chubu.ac.jp/about/finance/
財産目録	https://www3.chubu.ac.jp/about/finance/
事業報告書	https://www3.chubu.ac.jp/about/finance/
監事による監査報告（書）	https://www3.chubu.ac.jp/about/finance/

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：　　対象年度：　　）
公表方法：
中長期計画（名称：　　対象年度：　　）
公表方法：

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法： https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/evaluate/self_evaluation/2017report/

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法： http://www.jihee.or.jp/achievement/archive_year/index.cgi?fyear=9

（3）学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　工学部

教育研究上の目的
（公表方法：https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/aim_engineering/）

（概要）

【工学部】
個の人間形成に必要な教養、時代を超えた普遍的な幅広い基礎知識、専門知識と実務知識ならびにその応用力を自ら学ぶことによって修得し、発想を現実のものにするための複眼的な論理的思考法を訓練することにより、地域社会を中心にして、日本さらには国際社会において、状況の変化や時代の要請に応じて柔軟に対応して活躍できる能力を身に付け、開拓者精神に満ちた心身ともに健全な技術者（教育者、研究者を含む。）を育成する。

【機械工学科】
数学と物理学における基礎的な理解力・応用力と、これらに基づいた機械工学の最も基礎的・普遍的な専門知識と概念を修得させるとともに、各種機械の設計・製作・評価・管理に関する学術分野の教育を行い、主として力学・制御、エネルギー・流体、生産プロセスおよび工学設計の領域の知識・能力を身に付けた有能な人間を育成する。

【都市建設工学科】
土木工学を基盤として、人間が生活する上で安心・安全かつ快適な社会基盤の整備や持続発展可能な地球環境の開発・保全に関する学術分野の教育を行い、主として、計画、設計、施工、管理などの専門的または実務的な領域の知識・能力を修得した有能な人間を育成する。

【建築学科】
建築は機能を満たし、安全、快適で美しさが求められる。歴史、都市、社会との関わりを基礎に、空間創造のための建築デザイン、安全な建築を造るための材料と構造、建築内外の環境の学術分野の教育を行う。そして、建築設計・計画、建築環境・設備、建築構造、建築生産、建築史、都市計画の領域の知識を修得し、デザイン能力があり、人間の幸福を実現できる有能な人間を育成する。

【応用化学科】
物質の変化に関する化学の基礎的概念を理解させ、これに基づいた化学の専門知識を修得させるとともに、化学計測、無機・有機およびナノ複合材料、エネルギー、環境に関する学術分野の教育を行い、主として環境化学、物理化学、無機化学、有機化学および化学工学の領域の知識・能力を身に付けた有能な人間を育成する。

【情報工学科】
情報工学の技術と知識の基礎を身に付け、システムモデルを構築する能力を伸ばすための教育を行い、主としてソフトウェア、通信ネットワーク、ハードウェア、システム制御に関する知識・能力を修得した有能な人間を育成する。

【ロボット理工学科】
ロボット理工学の基礎となる理学並びにシステム設計、プログラミング、制御・信号処理、人工知能、生体医工学等の基盤的工学知識を修得させるとともに、複合的な新しいロボット技術に関する教育を行い、ロボット領域における知識・能力、技術を身につけ

たロボット共存社会を支えるグローバルな技術者を育成する。

【電気電子システム工学科】
地球規模で持続可能な電気エネルギーシステムやエレクトロニクス分野の電子機器・システム等を利用した快適な社会環境を確立するために、電気工学と電子工学を基盤とする学術分野の教育研究を行い、電力・設備、電機・計測制御、材料・デバイス、システム・通信等の各領域の知識・能力を修得した有能な技術者を育成する。

【宇宙航空理工学科】
宇宙航空理工学の基礎となる基盤的専門知識を修得させるとともに、航空機開発や宇宙航行等の学際的・複合的な宇宙航空理工学に関する教育研究を行い、新しい航空機やロケット、人工衛星、宇宙探査機、宇宙ステーション等を包含する次世代宇宙航空産業における開発製造技術に関わる生産現場のリーダーとなりうる技術者を育成する。

＊【電気システム工学科】
地球規模で持続可能な電気エネルギーシステムと、電気を有効に利用した快適な社会環境を確立するため、電気工学を基盤とする学術分野の教育を行い、主として、電力・設備システム、電機・制御システム、電気情報システムにおける各領域の知識・能力を修得した有能な人間を育成する。

＊【電子情報工学科】
現代産業の根幹を担う分野がエレクトロニクスを中心とした電子情報工学であると言っても過言ではない。通信、情報処理、電子ディバイス、電子情報応用の学術分野の教育を行い、主として電子情報工学の基礎と応用、自然環境や人類の福祉、情報化社会への対応、能動的な行動力と問題解決、国際化への対応の領域の知識・能力を修得した有能な人間を育成する。

＊ は 2018 年度入学より募集停止。

卒業の認定に関する方針
(工学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_engineering/)
(機械工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_mechanical/)
(都市建設工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_civil/)
(建築学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_architecture/)
(応用化学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_applied_chemistr/)
(情報工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_computer_science/)
(ロボット理工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_robot/)
(電気電子システム工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_electric/)
(宇宙航空理工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_astronautics_aeronautics/)
(電気システム工学科：

https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_electrical/)
(電子情報工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_electronics/)

(概要)

【工学部】

方針概要

工学部の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、学科の各領域の工学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

各学科の専門技術について、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力、クリティカル思考力などを獲得し、工学的思考を基に、学科専門に係わる問題について対応、解決できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

各学科の専門知識と技術をもつ技術者として、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力など各学科の専門性を活かした工学的思考を身に付け、地域社会、国際社会にリーダーとして貢献できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

国際的視野と多様な価値観を理解でき、各学科の専門性をもつ技術者として、コミュニケーション力、傾聴・受信力、クリティカル思考力、ディスカッション力などを有し、様々な人々の立場を尊重し、協働して問題解決に当たることができる。

【機械工学科】

方針概要

機械工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、力学・制御、エネルギー・流体、生産プロセス及び工学設計の領域の機械工学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

機械工学における専門技術について、調査・情報収集力、課題設定力、クリティカル思考力を獲得し、工学的思考に基づき、機械工学全般について知識・能力を発揮し、問題解決できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

機械技術が社会や自然に及ぼす影響を理解し、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、論理的な観点から機械技術者として適切な判断ができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

科学技術に関する情報を的確に理解し、時代の潮流を把握した上で、課題設定力、企画・計画力、プレゼンテーション力を体得し、リーダーシップを発揮し統制のとれた協働作業の推進ができる。

【都市建設工学科】

方針概要

都市建設工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、土木工学を基盤として、計画、設計、施工、管理などの専門的かつ実務的な都市建設工学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

グローバルな視野から必要な知識、教養、専門基礎知識、専門知識ならびにデザイン能力を活用する技術者として、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力、ICT 活用力を獲得し、デザイン能力により安心・安全かつ快適な社会基盤の整備に貢献でき

る。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
多様な分野にわたる土木工学の専門知識を修得した技術者として、プレゼンテーション力、自己理解力、クリティカル思考力を身に付け、リーダーとして持続発展可能な地球環境の開発・保全に貢献することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
技術が及ぼす環境への影響を理解できる技術者として、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を活用し、多様な人の立場を尊重し、チームワーク力を発揮して協働で物事に対処できる。

【建築学科】
方針概要
建築学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、建築設計・計画、建築環境・設備、建築構造、建築生産、建築史、都市計画の領域などの、建築学に関する知識と能力を修得した「あてになる建築技術者」として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
地球的視野を有し、地域的・歴史的・人間的な多様な価値観を理解し、現代の社会的正義や良識を踏まえた上で、計画、構造、材料、環境、歴史、法・防災といった建築学諸分野およびその横断的領域の理論、技法、問題点、原理、仕組み、関係等を理解できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
建築に求められている内容を理解し、建築空間として構想し、構想された建築を正しく図面化しプレゼンテーションできる。建築学諸分野の事象を抽象化し数学的および論理的に理解でき、また、その情報の収集や問題の解決に ICT を活用できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
自分で考え、まとめ、コミュニケーションできる能力を身に付け、チームの一員として責任と協調性を持って行動できる。また、建築学諸分野における専門性の高い、発展的な知識・技術を理解し、学び続けることができる。

【応用化学科】
方針概要
応用化学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、環境化学、物理化学、無機化学、有機化学及び化学工学の応用化学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
化学系技術者として、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力、ICT 活用力を獲得し、デザイン能力により安心・安全かつ快適な社会基盤の整備に貢献できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
化学技術が人間社会、自然環境に及ぼす影響を理解すると共に、プレゼンテーション力、自己理解力、クリティカル思考力を身に付け、リーダーとして持続発展可能な地球環境の開発・保全に貢献することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
国際性も視野に入れた化学系技術者として、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を活用し、多様な人の立場を尊重し、チームワーク力を発揮して協働で物事に対処できる。

【情報工学科】
方針概要
情報工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、情報技術の専門知識の基礎と応用力、国際的な視野と教養、および語学力とコミュニケーション能

力を身につけ、情報工学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

信頼性やセキュリティに責任があり、高い倫理観が必要とされることを理解し、調査・情報収集力、ICT 活用力、課題設定力を獲得し、ソフトウェアとプログラミング、情報通信などの具体的な問題に対処できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

数学や自然科学の素養を活用する情報技術者として、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、ディスカッション力を獲得し、国際社会に貢献できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

技術を総合的に駆使できる技術者として、クリティカル思考力、傾聴・受信力、企画・計画力を獲得し、課題の分析と具体化、システムの設計、実装とデバッグ、評価と改善を実行できる。

【ロボット理工学科】

方針概要

ロボット理工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、システム設計、プログラミング、制御・信号処理、人工知能、生体医工学等のロボット工学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

ロボットがあらゆる分野に必要不可欠な存在であることを理解できる技術者として、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力を身に付け、工学的見地から問題解決に対処できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

ロボット領域における知識・能力、技術を備えた技術者として、プレゼンテーション力、クリティカル思考力、自己理解力を獲得し、高い倫理観と使命感を有する社会人として、国際社会に貢献できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

ロボット理工学分野における知見を備えた技術者として、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を獲得し、様々な立場の人々と協働し問題解決できる。

【電気電子システム工学科】

方針概要

電気電子システム工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、電力・設備、電機・計測制御、材料・デバイス、システム・通信の電気電子システム工学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身につけたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

電気エネルギーとエレクトロニクス技術を有効に利用した快適な社会環境を確立するため、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、電力・設備、電機・計測制御、材料・デバイス、システム・通信における知識・能力を発揮できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

現代社会に果たすべき役割と責任を理解できる電気電子システム技術者として、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身につけ、リーダーとして地域社会に貢献することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

社会を担う電気電子システム技術者としての誇りを持ち、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、多様な人の立場を尊重し、

協働で物事に対処できる。

【宇宙航空理工学科】
方針概要
宇宙航空理工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、宇宙航空理工学の専門的知識・技術として航空宇宙機の設計・研究開発・製造技術・利活用などの宇宙航空理工学に関する知識と能力を修得するとともに、機械や電気・電子情報分野を横断した統合的な応用力を有する有能な技術者として、以下に示した力を身につけたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
航空宇宙機の設計・研究開発・製造に携わるものとして、宇宙航空理工学に必要な知識や教養、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力を獲得し、グローバルな社会でその能力を発揮・活躍できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
宇宙航空理工学分野に携わる技術者として、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力等の能力を活用し、プレゼンテーション力、クリティカル思考力を獲得し、問題解決のための類推、創造、発見ができ、リーダーシップを発揮できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
宇宙航空理工学分野における知見を備えた技術者として、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を獲得し、多様な人の立場を尊重し、チームワーク力を発揮して協働で物事に対処できる。

＊【電気システム工学科】
方針概要
電気システム工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、電力・設備システム、電機・制御システム、電気情報システムの電気システム工学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
電気を有効に利用した快適な社会環境を確立するため、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、電力・設備システム、電機・制御システム、電気情報システムにおける知識・能力を発揮できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
現代社会に果たすべき役割と責任を理解できる電気技術者として、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、リーダーとして地域社会に貢献することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
社会を担う電気技術者としての誇りを持ち、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、多様な人の立場を尊重し、協働で物事に対処できる。

＊【電子情報工学科】
方針概要
電子情報工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、電子情報工学の基礎と応用、自然環境や人類の福祉、情報化社会への対応など、電子情報工学に関する知識と能力を修得した有能な技術者として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
絶えず進歩する技術と社会の要求に対応するため、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力を獲得し、電磁気学、電気・電子回路、電子デバイス、通信工学および情報システムに関する知識・技能を発揮できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
データを収集、解析し、正確に考察できる電子情報技術者として、調査・情報収集力、データ解析力、ディスカッション力を獲得し、問題解決のための類推、創造、発見ができ、自分の考えを表現できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
国際的視野から情報発信できる電子情報技術者として、コミュニケーション力、傾聴・受信力、グローバルな思考力を獲得し、情報化社会におけるルールと技術者倫理を理解し、他のメンバーと協働して遂行できる。

＊は2018年度入学より募集停止。

教育課程の編成及び実施に関する方針
(工学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_engineering/)
(機械工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_mechanical/)
(都市建設工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_civil/)
(建築学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_architecture/)
(応用化学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_applied_chemistr/)
(情報工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_computer_science/)
(ロボット理工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_robot/)
(電気電子システム工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_electric/)
(宇宙航空理工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_astronautics_aeronautics/)
(電気システム工学科：
https://www3.chubu.　ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_electrical/)
(電子情報工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_electronics/)

(概要)
【工学部】
方針概要
工学部ではディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、工学部共通教育科目、学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。
① 教育内容
学修の基礎となる全学共通教育科目、工学部共通教育科目、学科専門教育科目の履修を通して、幅広い知識を修得するとともに、自らのキャリア形成ができるように科目を配置している。各学科の特性に対応した知識・技能の修得のために、調査・情報収集力、課題設定力、ICT活用力が獲得できる科目を体系的に配置している。ディプロマ・ポリシーに示す思考力・判断力・表現力の能力の修得のために、スキル教育科目、外国語教育科目、教養課題教育科目、特別課題教育科目も配置している。さらに、国際性も視野に入れ、実務的能力を有する技術者育成のために、コミュニケーション力、

ディスカッション力、傾聴・受信力が身に付く科目を体系的・系統的に配置している。

② 教育方法

各学科の特性に応じて必要となる基礎力が身に付くような教育方法を実施する。主体的な学びの力を向上させるため、創成的な演習、実験、実習を積極的に取り入れ、講義の深い理解を補完している。指導教授制、学生カルテの活用によって各学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

③ 教育評価

各科目ごとに達成目標・到達目標を明確にし、学生の伸びを評価する。系統的に配置された各科目は、学習・教育到達目標に対して達成度を評価し、足りない部分は指導・強化する。さらに、4 年間の学修成果をその集大成となる卒業研究を通してディプロマ・ポリシーに掲げた目標が達成されたかどうか総合的に判断する。

【機械工学科】

方針概要

機械工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、工学部共通教育科目、機械工学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1)　将来の職業とそれに向けたキャリア形成を意識した主体的な学修ができるように、初年次教育科目、キャリア教育科目を配置している。

(2)　ディプロマ・ポリシーに示した知識・技能の修得のために、数学や物理などの工学の基礎を学修する工学部共通教育科目、機械工学に関する幅広い専門技術を学修する学科専門教育科目を配置している。

(3)　ディプロマ・ポリシーに示した思考力・判断力・表現力等の能力の修得のために、スキル教育科目、外国語教育科目、教養課題教育科目、特別課題教育科目を配置している。

(4)　ディプロマ・ポリシーに示した主体性をもって多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、実習、実験、演習及び創成科目を 4 年間にわたり系統的に配置しており、4 年次の卒業研究においてその育成が完成するように構成されている。

② 教育方法

(5)　機械工学の基礎となる重要な力学科目については、個々の学生の習熟度に応じたクラス編成とすることで、これらの科目の理解を深める教育を展開している。

(6)　実験や実習科目では、講義科目との連携に注力することで、機械工学における原理や法則について理解を深める教育を展開している。

(7)　機械技術者に求められている工学設計能力を修得するために、コンピュータを応用した CAD/CAM/CAE 教育を導入している。

③ 教育評価

(8)　各科目において試験、演習、レポート、プレゼンテーション等の手段により、各科目に設定された具体的達成目標、並びに当該科目に掲げられた身に付けるべき力の達成度を評価する。

(9)　大学 4 年間の集大成となる卒業研究を通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標が達成されたか総合的に評価する。

【都市建設工学科】

方針概要

都市建設工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、工学部共通教育科目、都市建設工学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップ

によってカリキュラムの体系やコースの意味を明確にしている。
アドバンスドコース
グローバルな視野と公正な判断力を備え、専門技術を駆使し、リーダーシップを発揮しながら、専門分野において活躍できる。
ノーマルコース
公正な判断力を備え、実務的技術を活用し、他者と協調しながら、総合的に活躍できる。

① 教育内容

(1)　学修の基礎となる全学共通教育科目、工学部共通教育科目、都市建設工学科専門教育科目の履修を通して、幅広い知識を修得するとともに、自らのキャリア形成の方向付けができるように科目を配置している。

(2)　専門基礎知識、専門知識ならびにデザイン能力を活用する技術者として求められる知識・技能の修得のために、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力、ICT活用力が獲得できる科目を体系的に配置している。

(3)　環境倫理観ならびに技術者としての使命感を有する社会人として求められる思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、プレゼンテーション力、自己理解力、クリティカル思考力が身に付く科目を体系的に配置している。

(4)　国際性も視野に入れ、実務的能力を活用でき、高いチームワーク力を発揮し協働して学ぶ技術者を育成するために、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力が身に付けられる科目を体系的・系統的に配置している。

② 教育方法

(5)　都市建設工学科の科目については、土木工学についての基礎力が身に付くような教育方法を実施する。

(6)　指導教授制を敷くとともに学生カルテを活用して、学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(7)　主体的な学びの力を伸ばすために、創成科目を中心に実践学修の要素を多く取り入れる。

③ 教育評価

(8)　科目ごとに達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。

(9)　都市建設工学科で定めている学習・教育到達目標に対する評価方法および評価基準により評価し、足らない部分は指導・強化する。

(10) 4年間の学修成果を、都市建設工学科で定めている学習・教育到達目標に対する評価方法および評価基準により評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【建築学科】

方針概要

建築学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、工学部共通教育科目、建築学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1)　学修の基礎となる全学共通教育科目、工学部共通教育科目、建築学科専門教育科目を通して、幅広い知識を修得するとともに、自らのキャリア形成の方向付けができるように科目を配置している。

(2)　地球的視野を有し、地域的・歴史的・人間的な多様な価値観を理解し、現代の社会的正義や良識を踏まえた建築技術者に求められる知識・技能修得のために、調査・情報収集力、傾聴・受信力、クリティカル思考力等が獲得できる科目を体系的に配置している。

(3)　建築を構想・図面化し他者にアイデアを伝える能力、事象を抽象化し数学的お

よび論理的に理解・収集・解決する能力修得のために、調査・情報収集力、ICT 活用力、課題設定能力、企画・計画力、プレゼンテーション力等が身に付く科目を体系的に配置している。

(4)　主体性を有し、多様な人間と協働し、建築学における専門性の高い知識・技術を継続して理解・学習する能力修得のために、コミュニケーション力、ディスカッション力、自己理解力、課題設定能力、クリティカル思考力等が身に付く科目を体系的に配置している。

② 教育評価

(5)　建築学科の科目については、建設工学、建築学の基礎力が身に付くような教育方法を実施する。

(6)　指導教授制を敷くとともに学生カルテを活用して、学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(7)　主体的な学びの力を伸ばすために、実践学修の要素を多く取り入れる。

③ 教育評価

(8)　科目ごとに達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。

(9)　建築学科で定めている学習・教育到達目標に対する達成度を評価し、足らない部分は指導・強化する。

(10) 4 年間の学修成果を、建築学科で定めている学習・教育到達目標に対する評価方法および評価基準により評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【応用化学科】

方針概要

応用化学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、工学部共通教育科目、応用化学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系やコースの意味を明確にしている。

スペシャリストコース

応用化学の専門技術者や大学院に進学して上級の化学技術者を育成する。

エンジニアコース

化学関連分野を中心に幅広く学修し、実行力を伴った化学技術者を育成する。

① 教育内容

(1)　学修の基礎となる全学共通教育科目、工学部共通教育科目、応用化学科専門教育科目の履修を通して、幅広い知識を修得する。

(2)　専門知識ならびにデザイン能力を活用する技術者として求められる知識・技能の修得のために、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力、ICT 活用力が獲得できる科目を体系的に配置している。

(3)　環境倫理観ならびに技術者としての使命感を有する社会人として求められる思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、プレゼンテーション力、自己理解力、クリティカル思考力が身に付く科目を体系的に配置している。

(4)　国際性も視野に入れた対話能力ならびに実務的能力を活用する技術者として求められる、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を身に付けた有識社会人となるべく 1 年次から体系的・系統的に科目配置をしている。

② 教育方法

(5)　応用化学科の科目については、化学に関する基礎力が身に付くような教育方法を実施する。

(6)　指導教授制を敷くとともに学生カルテを活用して、学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(7)　主体的な学びの力を伸ばすために、創成科目を中心に実践学修の要素を多く取り入れる。

③ 教育評価

(8)　科目ごとに達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。

(9)　応用化学科で定めている学習・教育到達目標に対する評価方法および評価基準により評価し、足らない部分は指導・強化する。

(10) 4 年間の学修成果を、応用化学科で定めている卒業研究等の学習・教育到達目標に対する評価方法および評価基準により評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【情報工学科】

方針概要

情報工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、工学部共通教育科目、情報工学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1)　社会人としての素養を学ぶ全学共通教育科目、工学者として必要な素養を学ぶ工学部共通教育科目、および情報工学の専門技術を学ぶ学科専門教育科目を配置している。また、理解の進展を考慮して最初の 2 年間は基礎技術科目、3 年次からは高度な応用力を身に付ける専門科目を配置している。

(2)　)数学や物理を基礎として論理的な考え方を身に付け、新しいものを創り出す能力を養わせるよう配慮し、科目を配置している。

(3)　講義で学修した知識を実験や演習で実践し、方法を考えて解決する経験を積むことができるカリキュラム構成としている。

(4)　グローバル化する世界で活躍できる人材を育成するために、国際的な視野と教養および語学力とコミュニケーション能力を養う教育科目を配置している。

② 教育方法

(5)　「あてになる情報技術者」を育成するために、講義科目においては演習を積極的に組込んで、理論の着実な修得を図り、実験・演習科目においては具体的な課題を与えて問題解決能力やリーダシップの向上を目指す。

(6)　指導教授制を敷くとともに学生カルテを活用して、学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(7)　主体的な学びの力を伸ばすために、創成科目を中心に実践学修の要素を多く取り入れる。

③ 教育評価

(8)　科目ごとに達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。

(9)　情報工学科で定めている学習・教育到達目標に対する評価方法および評価基準により評価し、足らない部分は指導・強化する。

(10) 4 年間の学修成果を卒業研究で行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【ロボット理工学科】

方針概要

ロボット理工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、工学部共通教育科目、ロボット理工学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1)　学修の基礎となる全学共通教育科目、工学部共通教育科目、ロボット理工学科専門教育科目の履修を通して、幅広い知識を修得するとともに、自らのキャリア形成

の方向付けができるように体系的に科目を配置している。
(2)　専門基礎知識、専門知識を活用する技術者として求められる知識・技能の修得のために、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力、ICT 活用力が獲得できる科目を体系的に配置している。
(3)　倫理観ならびに技術者としての使命感を有する社会人として求められる思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、プレゼンテーション力、自己理解力、クリティカル思考力が身に付く科目を体系的に配置している。
(4)　国際性も視野に入れた対話能力、実務的能力を活用する技術者として求められる、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を身に付けた有識社会人となるべく 1 年次から体系的・系統的に科目配置している。

② 教育方法
(5)　ロボット理工学についての基礎力が身に付くような教育方法を実施する。
(6)　指導教授制を敷くとともに学生カルテを活用して、学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
(7)　主体的な学びの力を伸ばすために、創成科目を中心に実践学修の要素を多く取り入れる。

③ 教育評価
(8)　科目ごとに達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。
(9)　ロボット理工学科で定めている学習・教育到達目標に対する評価方法および評価基準により評価し、足らない部分は指導・強化する。
(10) 4 年間の学修成果を卒業研究で行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【電気電子システム工学科】
方針概要
電気電子システム工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、工学部共通教育科目、電気電子システム工学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容
(1)　4 年間を通した学修の基礎となる全学共通教育科目、工学部共通教育科目、電気電子システム工学科専門教育科目の履修を通して、様々な基礎力を幅広く修得するとともに、自らのキャリア形成の方向付けができるように体系的に科目を配置している。
(2)　電気を有効に利用した快適な社会環境を確立できる能力として求められる知識・技能の修得のために、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得できるように体系的に科目を配置している。
(3)　倫理観ならびに技術者としての使命感を有する社会人として求められる思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、プレゼンテーション力、自己理解力、クリティカル思考力を身に付けられるように体系的に科目を配置している。
(4)　国際的立場に立ち、情報発信能力を有する電気電子システムの技術者として、コミュニケーション力、傾聴・受信力、クリティカル思考力を獲得できるように体系的に科目を配置している。

② 教育方法
(5)　電気電子システム工学の基礎となる力が身に付くように、基板となる科目については、講義、演習、実験の授業形態により行う。
(6)　主体的な学びの力を向上させるために、創成的な講義・演習科目とともに実験実習科目を多く配置し、履修上限単位数を設け、自己学修時間を確保する。
(7)　指導教授制、GPA 等の学生指導システムの活用により、組織的な教育指導を行い、達成度が不十分な学生には個別に指導を強化する。

③ 教育評価

(8)　科目ごとに達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。

(9)　電気電子システム工学科で定めている学修教育到達目標に対する評価方法および評価基準により評価する。

(10) 4 年間の学修成果を卒業研究で行い、学科教員全員で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【宇宙航空理工学科】

方針概要

宇宙航空理工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、工学部共通教育科目、宇宙航空理工学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1)　学修の基礎となる幅広い知識を修得するとともに、将来の職業とそれに向けたキャリア形成の方向付けができるように、全学共通教育科目、工学部共通教育科目、宇宙航空理工学科専門教育科目を、体系的に配置している。

(2)　快適な社会環境を確立できる能力として求められる知識・技能の修得のために、教養、調査・情報収集力、課題設定力、企画・計画力を獲得できる科目を体系的に配置している。

(3)　現代社会に果たすべき役割と責任を理解できる技術者として求められる調査・情報収集力、課題設定・企画・計画力等の能力を活用し、ディスカッション力、クリティカル思考力を身に付けられる科目を体系的に配置している。

(4)　主体性をもって多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、学内・学外での実習、実験、演習科目を配置し、4 年次の卒業研究においてその育成が完成するように構成している。

② 教育方法

(5)　宇宙航空理工学の基礎力が身に付くように基盤となる専門科目については、講義、演習、実験の授業形態により行う。

(6)　実践的な技術の経験と理解、知識修得を確認するために、実験や実習を組み込んだ科目を開講している。また、社会で必要とされる経験と知識を修得するために、企業等で見学・実習を行う科目を開講している。

(7)　宇宙航空理工学の知識と宇宙航空産業界の実践的な技能・技術を結びつけた真の課題解決能力、創造力を育成するため、企業や企業の専門家と連携した講義課目等を開講している。

(8)　指導教授制、GPA 等の学生指導システムを活用して、学修・教育到達目標の達成度をチェックする。達成度が不十分な学生は個別指導を行う。

③ 教育評価

(9)　科目ごとに達成目標・到達点をシラバス等により明確にし、試験、演習、レポート、プレゼンテーション等の手段により、具体的達成目標が達成されたかを評価する。

(10)　大学 4 年間の集大成となる「卒業研究」を通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標が達成されたか総合的に評価する。

＊【電気システム工学科】

方針概要

電気システム工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、工学部共通教育科目、電気システム工学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1)　学修の基礎科目としての電気回路および電気磁気学領域の履修を通して、幅広い知識を修得し、キャリア形成の方向付けができるようにするとともに、様々な基礎力を幅広く修得できるようにしている。

(2)　電気を有効に利用した快適な社会環境を確立できる能力として求められる知識・技能の修得のために、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力が獲得できる科目を体系的に配置している。

(3)　現代社会に果たすべき役割と責任を理解できる電気技術者として求められるプレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付けられるように体系化している。

(4)　社会を担う電気技術者としての誇りをもち、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を身に付けた有識社会人となるべく 1 年次から体系的・系統的に科目配置をしている。

② 教育方法

(5)　電気システム工学の各科目においては、基礎となる力が身に付くような教育方法を実践する。

(6)　指導教授制を敷くとともに学生指導にかかる情報共有をはかり、学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(7)　主体的な学びの力を伸ばすために、実践学修(実験実習および自宅学修)の要素を多く取り入れる。

③ 教育評価

(8)　各科目で達成目標・到達目標を明確にし、学生の伸びを評価する。

(9)　系統的に配置された科目の達成度を評価し、足らない部分は指導・強化する。

(10) 4 年間の学修成果を卒業研究で行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

＊【電子情報工学科】

方針概要

電子情報工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、工学部共通教育科目、電子情報工学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1)　学修の基礎となる全学共通教育科目、工学部共通教育科目、電子情報工学科専門教育科目の履修を通して、幅広い知識を修得するとともに、自らのキャリア形成の方向付けができるように科目を配置している。

(2)　電子情報工学の基礎知識、理論およびそれらを活用できる能力を身に付けるために「電子情報基礎学」「電子デバイス」「通信工学」「情報システム」および「電子情報工学一般」の科目群を配置している。

(3)　データを収集、解析し、正確に考察できる技術者に求められる調査・情報収集力、データ解析力、ディスカッション力を獲得できるよう体系的に科目を配置している。

(4)　国際的視野から情報発信できる電子情報技術者として、コミュニケーション力、傾聴・受信力、グローバルな思考力を獲得できるよう体系的に科目を配置している。

② 教育方法

(5)　電子情報工学の理解を深めるとともに理解度を認識させるため、電子情報工学の基盤となる専門科目には演習形式の講義を行う。

(6)　実践的な技術の経験と理解、知識修得を確認するために、実験形式の科目を各学年で開講している。また、主体的な学びの力を高めるために創成的な講義・演習科目を開講している。

(7)　履修上限を設け、自己学修時間を確保している。主体的な学び、自己学修を援助するために、授業時間外に学習支援室を設けている。
(8)　指導教授制、学生カルテの活用によって、学習・教育到達目標の達成度をチェックする。達成度が不十分な学生は、呼び出しなどによって個別指導を行う。

③ 教育評価

(9)　科目ごとに達成度を評価する。ディプロマ・ポリシーに掲げた学習・教育到達目標を達成できたかを評価する。
(10)「卒業研究」によって、電子情報技術者として十分な情報収集・選別力、口頭発表力、文章作成力およびコミュニケーション力に到達しているかを評価する。

＊は2018年度入学より募集停止。

入学者の受入れに関する方針
(工学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_engineering/)
(機械工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_mechanical/)
(都市建設工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_civil/)
(建築学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_architecture/)
(応用化学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_applied_chemistr/)
(情報工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_computer_science/)
(ロボット理工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_robot/)
(電気電子システム工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_electric/)
(宇宙航空理工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_astronautics_aeronautics/)
(電気システム工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_electrical/)
(電子情報工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_electronics/)

(概要)

【工学部】

入学選抜の方針

本学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。

求める人間像 1

(1)　本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 （知識・技能）

(2)　高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3)　工学を学ぶのに必要な高等学校における「数学」と「理科」の基礎学力を有している。

求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）

(4)　基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5)　自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6)　工学をはじめ科学技術全般に関心と学習意欲を持ち、工学技術領域を通して社会に貢献しようとする意欲を有している。

【機械工学科】
入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）
本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。
求める人間像 1
(1)　本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 （知識・技能）
(2)　高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3)　工学を学ぶのに必要な高等学校における「数学」と「理科」の基礎学力を有している。
求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）
(4)　基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5)　自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6)　機械工学をはじめ科学技術全般に強い関心と高い学習意欲をもち、機械工学技術領域を通して社会に貢献しようとする意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。
推薦入試
上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。
特別選抜入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【都市建設工学科】
入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）
本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。
求める人間像 1
(1)　本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 （知識・技能）
(2)　高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3)　工学を学ぶのに必要な高等学校における「数学」と「理科」の基礎学力を有している。
求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）
(4)　基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5)　自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6) 都市建設工学をはじめ科学技術全般に強い関心と高い学習意欲をもち、地域のデザインを通して地球環境の保全、人間社会の持続可能な発展、災害対策に関わる領域で社会に貢献しようとする意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。
推薦入試
上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。
特別選抜入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【建築学科】
入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）
本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。
求める人間像 1
(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 （知識・技能）
(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3) 工学を学ぶのに必要な高等学校における「数学」と「理科」の基礎学力を有している。
求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）
(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6) 建築学とともに人間・社会・芸術に強い関心と高い学習意欲をもち、建築設計・計画、建築環境・設備、建築構造、建築生産、建築史、都市計画に関わる領域を通して社会に貢献しようとする意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。
推薦入試
上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。
特別選抜入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【応用化学科】
入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。

求める人間像 1

(1)　本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 （知識・技能）

(2)　高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3)　工学を学ぶのに必要な高等学校における「数学」と「理科」の基礎学力を有している。

求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）

(4)　基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5)　自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）

(6)　化学をはじめ科学技術全般に強い関心と高い学習意欲をもち、化学計測、無機・有機およびナノ複合材料、エネルギー、環境などの領域を通して社会に貢献しようとする意欲がある。

学力入試

上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。

AO ポートフォリオ入試

上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。

推薦入試

上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。

特別選抜入試

上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【情報工学科】

入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。

求める人間像 1

(1)　本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 （知識・技能）

(2)　高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3)　工学を学ぶのに必要な高等学校における「数学」と「理科」の基礎学力を有している。

求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）

(4)　基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5)　自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）

(6)　コンピュータの仕組みや応用に強い関心と高い学習意欲をもち、高度情報化社会において情報科学、ソフトウェア、情報通信、ハードウェアに関わる領域を通して社会に貢献しようとする意欲がある。

学力入試

上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。

AO ポートフォリオ入試

上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。

推薦入試

上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。

特別選抜入試

上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【ロボット理工学科】

入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 （知識・技能）

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 工学を学ぶのに必要な高等学校における「数学」と「理科」の基礎学力を有している。

求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）

(6) ロボット理工学とともに、ものづくりに強い関心と高い学習意欲をもち、機械、電気、電子、情報工学、生体医工学などに関るロボット製作や工学デザイン領域を通して社会に貢献しようとする意欲がある。

学力入試

上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。

AO ポートフォリオ入試

上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。

推薦入試

上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。

特別選抜入試

上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【電気電子システム工学科】

入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

求める人間像 1

高等学校の教育課程を幅広く習得している。

求める人間像 2
本学の建学の精神および基本理念を理解し、他者と共に向上する意欲がある。
求める人間像 3
入学前教育として求められる教育プログラムに最後まで取り組むことができる。
求める人間像 4
電気電子システム工学をはじめ科学技術全般に強い関心と高い学習意欲をもち、電力・設備、電機・計測制御、材料・デバイス、システム・通信に関わる仕事に就く意欲がある。
求める人間像 5
(1) 数学と理科の基礎学力と応用的な力である計算能力・知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。
(2) 基礎学力と自らの人間力形成の軌跡（クラブ・課外活動、社会活動等）の実績を有し、ものごとに対して問題意識を持って自ら考え、その結果を説明することができる。
(3) 高校での学業やその他に十分な実績をもち、与えられた課題について工学的視点から論理的に考え、その結果を説明することができる。
(4) 海外帰国子女、外国人留学生、社会人で、与えられた課題について工学的視点から広く、柔軟に考え、その結果を説明することができる。
学力入試
上記の 5(1)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試
上記の 2～5(2)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。
推薦入試
上記の 1～5(1)、5(3)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。
特別選抜入試
上記の 2～5(1)、5(4)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【宇宙航空理工学科】
入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）
本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。

求める人間像 1
(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 （知識・技能）
(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3) 工学を学ぶのに必要な高等学校における「数学」と「理科」の基礎学力を有している。
求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）
(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6) 宇宙航空理工学とともに科学技術全般に強い関心と高い学習意欲をもち、制御理論や流体力学、材料力学などに関る航空機製造や宇宙に関係する領域を通して社会に貢献しようとする意欲がある。
学力入試

上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。

AO ポートフォリオ入試

上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。

推薦入試

上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。

特別選抜入試

上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

＊【電気システム工学科】
2018 年度入学より募集停止

＊【電子情報工学科】
2018 年度入学より募集停止

学部等名　経営情報学部

教育研究上の目的
（公表方法：https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/aim_business/）

（概要）

【経営情報学部】

豊かな教養、自立心と公益心とともに、企業経営と情報技術に関する基本的な考え方・知識・スキルとそれらを実社会で活用する能力、自ら学び続ける能力を身に付け、広く国際的視野から物事を考え実行する専門職業人/有識社会人となる有為の人間を育成する。

【経営総合学科】

経営総合学科は、経営、情報、会計、経済、法律等の諸分野にわたる基本的な考え方、知識、スキルを修得し、自立心、公益意識、広い視野から物事を考える力、行動力を備えて、企業や組織の発展に将来貢献する人材として社会に役立つ人間を育成する。

＊【経営情報学科】

情報システムおよび企業経営に関する基本的な知識を理解・修得し、社会組織における情報の特質と価値、情報システム並びにその果たす役割を理解し、企業情報や情報技術を活用して、将来以下のような人材として社会に役立つ人間を育成する。

1. 企業経営・企業会計を理解し、情報技術を効果的に企業活動に反映できる人材。
2. 企業経営・事業戦略・情報戦略を理解し、企業における最適な情報システムの設計・構築・維持・改良・運用およびシステムコンサルテーションが行える人材。
3. 情報技術を駆使して情報収集・分析を的確に行うことができ、戦略策定など、企業活動の中核を担える人間。

＊【経営学科】

経営、経済、法律、会計、情報等の諸分野にわたる基本的な考え方、知識、スキルを修得し、自立心、公益意識、広い視野から物事を考える力、行動力を備えて、将来以下のような人材として社会に役立つ人間を育成する。

1. 情報化社会において、企業等の組織的活動を発展に導くとともに社会的貢献の実現にも努める経営者。
2. 情報化社会における企業等の組織的活動において、自らの社会的価値観に立ちながら、経営者の構想と方針を理解し、専門的能力を活用してその実現に貢献する人間。
3. 情報化社会において、企業等の組織的活動を、社会的な立場から望ましい方向に導く有識者。

＊【経営会計学科】

企業会計の仕組みとその意味を理解・修得するとともに、企業経営に関する幅広い知識と基本的な情報技術を身に付け、将来以下のような会計専門職の人材として社会に役立つ人間を育成する。

1. 財務諸表の作成、企業経営に役立つ会計情報の整備など、会計専門職に従事する人材。
2. 会計学に関する基本的な理解を身に付け、その知識を活用しながら企業活動のさまざまな分野で活躍する人材。
3. 経営に関する基本的な理解を身に付け、行政や各種専門機関の立場から、会計情報に携わる専門家。

＊ は 2016 年度入学より募集停止。

卒業の認定に関する方針
（経営情報学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_business/）
（経営総合学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_management_synthesis/）
（経営情報学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_information_science/）
（経営学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_management/）
（経営会計学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_accountancy/）

（概要）

【経営情報学部】

方針概要

経営情報学部の課程を修め、必修等の条件を満たした124単位を修得し、現代社会に不可欠な経営学と情報科学の基礎・基盤的な素養と専門的知識を身につけた有識社会人として、以下に示した力を身に付けたものに対し、学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

経営学と情報科学の素養を備えた専門職業人／有識社会人として、調査・情報収集力、課題設定力、ICT活用力を学修効果として身に付け、グローバル化した経済において、多様な進展が求められる企業を始めとした様々な組織の発展に貢献することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

経営学と情報科学の素養を備えた専門職業人／有識社会人として、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付けた「直接対面対話能力」のあるリーダーとして国内のみならず、グローバル化した経済社会において貢献することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

経営学と情報科学の素養を備えた専門職業人／有識社会人として「ヒューマン・ネットワークの大切さ」を理解し、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、多様な人の立場を尊重し、協働で物事に対処することができる。

【経営総合学科】

方針概要

経営総合学科の課程を修め、必修等の条件を満たした124単位を修得し、企業経営と情報技術に関する基礎・基盤的な素養と専門的知識を身につけた有識社会人として、以下に示した力を身に付けたものに対し、学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

経営情報分野の素養を備えた専門職業人／有識社会人として、調査・情報収集力、課題設定力、ICT活用力を学修効果として身に付け、グローバル化した経済において、多様な進展が求められる企業を始めとした様々な組織の発展に貢献することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

経営情報分野の素養を備えた専門職業人／有識社会人として、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付けた「直接対面対話能力」のあるリーダーとして地域社会のみならず、グローバル化した経済社会において貢献することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

経営情報分野の素養を備えた専門職業人／有識社会人として「ヒューマン・ネットワークの大切さ」を理解し、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、多様な人の立場を尊重し、協働で物事に対処することができる。

＊【経営情報学科】

知識・理解

［1］ 情報技術、経営、会計に関する知識やスキルを身につけ社会に役立てることができる。

［2］ 情報技術や経営、会計を理解し、それらの専門知識を様々な分野で活用することができる。

思考・判断

［3］ 社会のルールを遵守し、人のために役立つという気持ちをもちながら、行動できる。

［4］ 物事に対して、正確な情報に基づいて自分なりに考え、判断できる。

関心・意欲・態度

［5］ 思考力と創造力を培うための知識とスキルを身につけている。

［6］ 膨大な情報から必要な情報を選択し、その情報より論理的に思考し、行動できる。

［7］ 他人の考え方を理解しながら、自分の考えをまとめ、コミュニケーションできる。

技能・表現

［8］ 経営情報システム、企業経営、企業会計に関する知識とスキルを活用できる。

［9］ 経営情報システムの専門家や情報システムに強いビジネスパーソン・経営指導者として、様々な分野で活躍することを目指した行動がとれる。

＊【経営学科】

知識・理解

［1］ 経営、経済、法律、情報、会計等に関する広範な知識習得し、これを活用することができる。

［2］ 基本的な教養を身につけたうえ、企業経営や組織行動に関する専門能力を活用して、社会の発展に貢献できる。

思考・判断

［3］ 自立心や公益意識を持ち、かつ社会的ルールを遵守し、自己責任のもと誠実に行動できる。

［4］ グローバルな広い視野から物事を深く掘り下げ、バランス感覚を備えた自らの判断を行うことができる。

関心・意欲・態度

［5］ 旺盛な好奇心をもって、構想力、指導力、説得力等を培うため、知識とスキルを深めることができる。

［6］ 計画を自ら立案し、これを実行するとともに、率先垂範の意思を持って行動できる。

［7］ 他人の考え方や立場を理解しながら自分の考えを構築し、これを他人に伝えることができる。

技能・表現

［8］ 情報化社会における企業経営や組織的活動の仕組みや機能を理解し、専門的スキルを実践的に応用できる。

［9］ 経営者・起業家や経営指導専門家として、また経営の分かるビジネスパーソンとして、様々な分野で活躍することを目指した行動がとれる。

＊【経営会計学科】
知識・理解
［1］ 会計、経営、情報技術に関する知識やスキルを身につけている。
［2］ 企業会計や経営を理解し、それらの専門知識を様々な分野で活用することができる。
思考・判断
［3］ 社会のルールを遵守して行動できる。
［4］ 物事に対して正確な情報に基づいて自分なりに考え、判断できる。
関心・意欲・態度
［5］ 思考力と創造力を培うための知識とスキルを身につけている。
［6］ 膨大な情報から必要な情報を選択し、その情報より論理的に思考し、行動できる。
［7］ 他人の考え方を理解しながら、自分の考えをまとめ、コミュニケーションできる。
技能・表現
［8］ 企業会計の仕組み、企業経営、コンピュータの活用法に関する知識とスキルを活用できる。
［9］ 企業会計の専門家や会計に強いビジネスパーソンとして、様々な分野で活躍することを目指した行動がとれる。

＊は2016年度入学より募集停止。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（経営情報学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_business/）
（経営総合学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_management_synthesis/）
（経営情報学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_information_science/）
（経営学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_management/）
（経営会計学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_accountancy/）

（概要）
【経営情報学部】
方針概要
経営情報学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、学部教育科目（学部コア科目Ⅰ・Ⅱ、学部基本科目、学部専門科目）を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。
科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。
① 教育内容
(1) 経営情報学部に主要な経営、情報、会計、経済、法律の５分野の履修を通して、幅広い知識および社会で必要とされる技能を修得し、自らのキャリア形成の方向付けができるよう、人間力を幅広く修得できるようにしている。
(2) 経営情報学部独自の専門職業人/有識者社会人として求められる「知識・技能の修得」のために、調査・情報収集力、課題設定力、ICT活用力を獲得できる即効性の

高い科目を学部基本科目を中心に体系的に配置している。
(3)　経営情報学部独自の素養を備えた専門職業人/有識者社会人として求められる思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付けられる科目を学部コア科目を中心に体系的に配置している。
(4)　経営情報学部独自の専門職業人/有識者社会人として求められる多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を身に付けた「社会人」となるべく、1年次から系統的に科目を配置している。

② 教育方法
(5)　学部教育科目のどれも、学力のほか、人間力が身に付くような教育方法を実施する。特に、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、ディスカッション力については、学部コア科目において指導強化する。
(6)　学部教員が、指導教授制のもとに学生カルテを活用して問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。4年間を通じた少人数教育において、ひとりの学生の学修プロセスを複数の教員で見守る体制をつくる。
(7)　学部学生の主体的な学びの力を伸ばすために、アクティブラーニングを取り入れる。すべての授業科目において、アクティブラーニングの要素を取り入れる工夫をすると同時に、学部コア科目や特定の学部基本科目において学生主体の授業運営を行う。

③ 教育評価
(8)　演習科目（ゼミナール）では、経営情報学部独自の専門職業人/有識者社会人として求められる思考力・判断力・表現力等が身に付いたかどうかについて、授業への参加の姿勢、プレゼンテーションやレポートの内容などを総合して評価する。
(9)　講義科目では、人間力の評価も含め、筆記試験をはじめ、討論、レポートやプレゼンテーション等の評価など、多様な評価方法の中から、それぞれの科目の特性に応じた評価方法を用いて学修成果を評価する。
(10)　卒業研究では4年間の学士課程での学修成果を卒業論文などで集大成し、経営情報学部独自の専門職業人/有識者社会人として求められる能力が身に付いたかどうかについて、卒業論文発表会などでの評価も含め、総合的に評価する。

【経営総合学科】
方針概要
経営総合学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、学部教育科目（学部コア科目Ⅰ・Ⅱ、学部基本科目、学部専門科目）を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容
(1)　「学修の基礎」となる経営、情報、会計、経済、法律の５分野の履修を通して、幅広い知識および社会で必要とされる技能を修得し、自らのキャリア形成の方向付けができるよう、人間力を幅広く修得できるようにしている。
(2)　経営情報分野の素養を備えた専門職業人/有識者社会人として求められる「知識・技能の修得」のために、調査・情報収集力、課題設定力、ICT活用力を獲得できる科目を学部基本科目を中心に体系的に配置している。
(3)　経営情報分野の素養を備えた専門職業人/有識者社会人として求められる思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付けられる科目を学部コア科目を中心に体系的に配置している。
(4)　経営情報分野の素養を備えた専門職業人/有識者社会人として求められる主体性をもって多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、コミュニケーション力、

ディスカッション力、傾聴・受信力を身に付けた「社会人」となるべく、1 年次から体系的・系統的に科目を配置している。

② 教育方法

(5)　各科目では、学力のほか、人間力が身に付くような教育方法を実施する。特に、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、ディスカッション力については、学部コア科目において、身に付けさせる。

(6)　指導教授制のもとに学生カルテを活用して、学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。4 年間を通じた少人数教育において、ひとりの学生の学修プロセスを複数の教員で見守る体制をつくる。

(7)　主体的な学びの力を伸ばすために、アクティブラーニングの要素を多く取り入れる。すべての授業科目において、アクティブラーニングの要素を少しでも取り入れる工夫をすると同時に、学部コア科目や特定の学部基本科目において学生主体の授業運営を行う。

③ 教育評価

(8)　各学年に配置されている演習科目（ゼミナール）では、専門職業人/有識者社会人として求められる思考力・判断力・表現力等が身に付いたかどうかについて、授業への参加の姿勢、プレゼンテーションやレポートの内容などを総合して評価する。

(9)　講義科目については、人間力の評価も含め、筆記試験をはじめ、討論、レポートやプレゼンテーション等の評価など、多様な評価方法の中から、それぞれの科目の特性に応じた評価方法を用いて学修成果を評価する。

(10)　4 年間の学士課程での学修成果を卒業論文などの卒業研究で集大成し、経営情報分野の素養を備えた専門職業人/有識者社会人として求められる能力が身に付いたかどうかについて、卒業論文発表会などでの評価も含め、総合的に評価する。

＊【経営情報学科】

カリキュラム概要

経営情報学科では、情報システムの仕組みとその意味内容を理解・修得するとともに、経営にかかわる情報システムに関する幅広い知識と基本的な技術を身につけ社会に役立つ人間として育成するためのカリキュラムを掲げています。例えば、「情報システム専門職の人材」、「情報システムの知識を活用しながら企業活動の様々な分野で活躍する人材」、「情報システムを理解して経営に携わる人材」です。

情報システム分野では経営情報システム、情報ネットワーク、データベース、プログラム等を、経営分野では、経営戦略、マーケティング等を、会計分野では、簿記原理、財務会計等を配し、さらに経済、法律分野の科目を配置し、5 つの分野からバランス良く幅広い学習ができるようにし、重要度の高い科目は必修科目に、それ以外は選択科目とし、ニーズに合わせて自由に選択できるようにしています。

これら以外に、1 年次のスタートアップセミナーや基礎ゼミナール、2 年次の入門ゼミナール、3 年次の専門ゼミナール、4 年次の卒業研究など一貫した少人数教育をはじめ、企業等での就業体験であるインターンシップを取り入れ、幅広い進路選択にも対応しています。

＊【経営学科】

カリキュラム概要

経営学科では、企業の経営者やビジネスの第一線で活躍する人材に必要な実践的な知識として、経営をはじめ、経済、法律、情報、会計などの各分野を体系的に学習します。具体的には、自ら課題を発見し解決できる、幅広い視野と知識、公益意識と遵法精神を身につけた人材の育成を狙いとして、「総合経営」、「人と組織」、「マーケティング」、「生産管理」、「経済」、「法律」、「演習等」などに区分して、効率的に学習できるように科目を配置しています。また、科目配置においては、基本的な科目や重要性の高い科目を必修科目に指定するとともに、各種の選択科目を用意しています。さらに、少人数教育を充実させるため、1 年次の「スタートアップセミナー」・

「基礎ゼミナール」から2年次の「入門ゼミナール」、3年次の「専門ゼミナール」、4年次の「卒業研究」へと連続性を確保しています。このほか、「自己開拓」、「社会人基礎知識」、「インターンシップ」などの科目により、幅広い進路選択にも対応しています。

*【経営会計学科】
カリキュラム概要
経営会計学科では、企業会計の仕組みとその意味内容を理解・修得するとともに、企業経営に関する幅広い知識と基本的な情報技術を身につけ社会に役立つ人間として育成するためのカリキュラムを掲げています。例えば、「会計専門職の人材」、「会計の知識を活用しながら企業活動の様々な分野で活躍する人材」、「経営を理解して会計情報に携わる人材」です。
会計分野では、財務会計、監査、管理会計などの区分を、経営分野では、総合経営、マーケティングなどの区分、さらに情報、経済、法律分野の科目を配置し、5つの分野から幅広く学べるようにし、重要度の高い科目を必修科目に、それ以外は選択科目として、ニーズに合わせて自由に選択できるようにしています。
これら以外に、1年次のスタートアップセミナーや基礎ゼミナール、2年次の入門ゼミナール、3年次の専門ゼミナール、4年次の卒業研究など一貫した少人数教育をはじめ、企業等での就業体験であるインターンシップを取り入れ、幅広い進路選択にも対応しています。

* は2016年度入学より募集停止。

入学者の受入れに関する方針
(経営情報学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_business/)
(経営総合学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_management_synthesis/)
(経営情報学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_information_science/)
(経営学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_management/)
(経営会計学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_accountancy/)

(概要)
【経営情報学部】
入学選抜の方針 (アドミッション・ポリシー)
本学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。
求める人間像 1
(1)本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 (知識・技能)
(2)高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3)経営学と情報学を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。
求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4)基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5)自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6)企業経営と情報に強い関心と高い学習意欲をもち、経営者や会社のキーパーソンとして強い意欲がある。または、情報システムの知識・技術に関わる領域や会計専門職や会計の知識に関わる領域を通して社会に貢献しようとする意欲がある。

【経営総合学科】
入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）
本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。
求める人間像 1
(1)本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 （知識・技能）
(2)高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3)経営学と情報学を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。
求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）
(4)基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5)自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6)企業経営と情報に強い関心と高い学習意欲をもち、経営者や会社のキーパーソンとして強い意欲がある。または、情報システムの知識・技術に関わる領域や会計専門職や会計の知識に関わる領域を通して社会に貢献しようとする意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。
推薦入試
上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。
特別選抜入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【経営情報学科】
2016 年度入学より募集停止

【経営学科】
2016 年度入学より募集停止

【経営会計学科】
2016 年度入学より募集停止

学部等名　国際関係学部

教育研究上の目的
（https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/aim_international/）

（概要）

【国際関係学部】

社会科学ならびに人文科学の立場から、国際関係・国際文化の動向・諸要因を政治・経済・社会・文化等の諸分野について総合的・包括的、グローバルかつローカルな視点から考察し、国際化する社会のさまざまな現場で、実際に活躍できる有為の人間を育成する。

【国際学科】

国際社会の政治・経済・社会・文化現象を社会科学・人文科学の立場を中心として考察し、国際社会の動向や諸要因の分析、国際開発や政策研究等の諸問題、人類の多様な文化的価値の解明、他文化理解やコミュニケーション能力の向上等について総合的・包括的に教育研究し、英語・中国語を中心とした外国語の修得とともに国際的な知識や視野を備え、国際社会で幅広く活躍できるグローバル人材を育成する。

＊【国際関係学科】

国際社会の政治・経済現象を社会科学の立場を中心として考察し、国際社会の動向や諸要因の分析、国際開発や政策研究等の諸問題を総合的・包括的に教育研究して、国際的な知識・視野を備え、幅広く社会で活躍できる人間を育成する。

＊【国際文化学科】

国際社会の社会・文化現象を人文科学の立場を中心として考察し、人類の多様な文化的価値の解明、多文化理解やコミュニケーション能力の向上等、国際的な知識・視野を備え、幅広く社会で活躍できる人間を育成する。

＊【中国語中国関係学科】

中国語による十分なコミュニケーション能力を身に付けた上で、中国の経済・社会・政治・文化や日中関係など、国際社会の中で中国が取り結ぶ諸関係についての知識・視野を備え、この分野を中心として幅広く社会で活躍できる人間を育成する。

＊ は 2016 年度入学より募集停止。

卒業の認定に関する方針
（国際関係学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_international/）
（国際学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_international_studies/）
（国際関係学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_relations/）
（国際文化学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_cultures/）
（中国語中国関係学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_china/）

（概要）

【国際関係学部】

方針概要

国際関係学部が学科において定める課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、国際化する社会の様々な現場で活躍できる能力を身に付けた有識社会人として、次の力を付けた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

世界各国・地域の人々の生活や社会制度に関する幅広い知識と、英語・中国語をはじめとする語学力と共に、傾聴・受信力、クリティカル思考力、コミュニケーション力を身に付け、環境の変化に柔軟に適応しながら、自らの意見を述べ、行動することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

文化や制度の多様性についての理解と、教員・学生との意見交換や討論を通じて獲得したコミュニケーション力、プレゼンテーション力、課題設定力、企画・計画力、クリティカル思考力により、自らが直面する諸問題を正確に分析し、適切に対処することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

異なる言語や文化的背景を持つ他者と自己との比較により得た自己理解力、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を活用し、多様な価値観を尊重しながら自らの主体性を損なうことなく、新しい物事や方法論を創出することができる。

【国際学科】

方針概要

国際学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、国際化する社会の様々な現場で活躍できる能力を身に付けた有識社会人として、次の力を付けた者に対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

世界各国・地域の人々の生活や社会制度に関する幅広い知識と、英語・中国語をはじめとする語学力と共に、傾聴・受信力、クリティカル思考力、コミュニケーション力を身に付け、環境の変化に柔軟に適応しながら、自らの意見を述べ、行動することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

文化や制度の多様性についての理解と、教員・学生との意見交換や討論を通じて獲得したコミュニケーション力、プレゼンテーション力、課題設定力、企画・計画力、クリティカル思考力により、自らが直面する諸問題を正確に分析し、適切に対処することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

異なる言語や文化的背景を持つ他者と自己との比較により得た自己理解力、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を活用し、多様な価値観を尊重しながら自らの主体性を損なうことなく、新しい物事や方法論を創出することができる。

＊【国際関係学科】

知識・理解

［1］ 国際関係に関する広い知識を持ち、国際社会で歴史的に、あるいは現代的に生起する出来事を読み解くことができる。

思考・判断

［2］ 国際関係的な観点から、多面的に物事を考えることができる。

［3］ 国際的な情報を自ら入手し、読み解き、解決策を探ることができる。

関心・意欲・態度

［4］ 日常的に国際的な事象・報道などに関心を抱き、それらが企業や生活に及ぼす影響を説明できる。
［5］ 世界の言語を自主的、継続的に学習できる。
技能・表現
［6］ 国際政治、国際経済、国際開発協力に関する知識を活用できる。
［7］ 国際関係の知識を背景として英語による適切なコミュニケーションを行うことができる。

＊【国際文化学科】
知識・理解
［1］ 他文化に対する広い知識を持ち、それを偏見なく活かすことができる。
［2］ 他文化と出会ったときに、これを偏見なく理解しようと努めることができる。
［3］ 文化の持つ価値を客観的に認識することができる。
思考・判断
［4］ 自らの信条を大切にしながらも、文化の異なる他者の考えにも耳を傾け、その文化、習慣などに配慮しながら、その場における最善の問題解決法を得ることができる。
［5］ 他文化にかかることがらを、東西問題だけでなく南北問題としても理解し、適切に判断して行動に役立てることができる。
［6］ 広い視野を持ち、世界の大きな動きの中に自分を位置づけることができる。
関心・意欲・態度
［7］ 他文化の優れている点などを、偏見なく積極的に取り入れ、仲介することができる。
［8］ 社会の状況に応じた文化のあるべき形について、積極的に考え、情報発信できる。
［9］ 文化の持つ価値について理解し、守るべきものは積極的に守ろうと努めることができる。
技能・表現
［10］ 英語、あるいはその他の言語を用いて、適切なコミュニケーションを行うことができる。
［11］ 文化の異なる相手に対して、筋道を立てて自らの考えを伝え、理解してもらうことができる。
［12］ 他文化に関する知識、経験、および外国語能力を活かして、多文化共生社会で責任感を持って行動できる。

＊【中国語中国関係学科】
知識・理解
［1］ 社会科学、人文科学の基礎知識を踏まえ、中国の政治、ビジネス、文化や社会について解釈することができる。
［2］ アジアや世界の中でグローバルな視点から中国を位置づけて説明することができる。
思考・判断
［3］ 自らの設定した問題意識に基づいて、中国を含めた国際社会や国際ビジネスについての事柄を適切に分析することができる。
［4］ 現地で得た経験や情報に基づいて、中国にまつわる諸問題を的確に判断し、解決することができる。
関心・意欲・態度
［5］ 海外で発生した事柄に常に関心を持ち、専門職業人として国際社会の現地・現場において活躍できる。
［6］ 異なる言語や文化を持つ人々と協調し、共生することができる。
技能・表現

［7］ 中国語の充分かつ実践的な能力を身につけ、コミュニケーションを行うことができる。
［8］ 中国語を用いて中国語圏の情報を適切に手に入れることができる。

＊ は 2016 年度入学より募集停止。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（国際関係学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_international/）
（国際学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_international_studies/）
（国際関係学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_relations/）
（国際文化学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_cultures/）
（中国語中国関係学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_china/）

（概要）
【国際関係学部】
方針概要
国際関係学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、学科基礎科目、学科専門科目、学科応用科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。
① 教育内容
(1) 学科基礎科目には、以降の学修の基盤となる導入科目、エリアごとに世界を学ぶ地域研究科目、国際英語科目、中国語科目、地域言語科目を配当し、コミュニケーション力、傾聴・受信力、クリティカル思考力の基盤形成を可能としている。
(2)学科専門科目には、政治経済・多文化共生・世界と日本に関する専門科目と、ビジネスシーンで活用できるアドバンスト英語・中国語科目を配当、より高度なコミュニケーション力、傾聴・受信力、クリティカル思考力を獲得できる科目配置を行っている。
(3) 学科応用科目には、教員や他の学生との協働によるプロジェクトや演習、海外留学、フィールドワーク、インターンシップ等の学外活動に関する科目を配当し、自己理解力、課題設定力、企画・計画力、ディスカッション力の向上を可能としている。
(4) 卒業研究では、これまでに獲得した能力のすべてを最大限に活用し、主に論文形式による成果物を作成、提出する。この過程を通じて、社会で活用できる総合的な実践力を身に付け、本学科のディプロマ・ポリシーが掲げる要件を満たしていく。
② 教育方法
(5) 各科目では、重視しているコミュニケーション力、プレゼンテーション力、ディスカッション力、課題設定力、傾聴・受信力、クリティカル思考力のうち、2 つの指定した力が身に付くような教育方法を実施する。
(6) 指導教授制、学生カルテの活用とともに、各学期に配当した演習等により、入学から卒業まで少人数教育を実施することで、教員が学生個々のキャリア形成も見据えた学修上のニーズを共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
(7) 主体的な学びの力を伸ばすために、実践（アクティブラーニング）の要素を多く取り入れる。
③ 教育評価

(8)　各科目で達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。
(9)　人間力を評価し、足らない部分は指導・強化する。
(10)　4年間の学修成果を卒業研究（アクティブラーニング）で行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【国際学科】
方針概要
国際学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、学科基礎科目、学科専門科目、学科応用科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容
(1)　学科基礎科目には、以降の学修の基盤となる導入科目、エリアごとに世界を学ぶ地域研究科目、国際英語科目、中国語科目、地域言語科目を配当し、コミュニケーション力、傾聴・受信力、クリティカル思考力の基盤形成を可能としている。
(2)　学科専門科目には、政治経済・多文化共生・世界と日本に関する専門科目と、ビジネスシーンで活用できるアドバンスト英語・中国語科目を配当、より高度なコミュニケーション力、傾聴・受信力、クリティカル思考力を獲得できる科目配置を行っている。
(3)　学科応用科目には、教員や他の学生との協働によるプロジェクトや演習、海外留学、フィールドワーク、インターンシップ等の学外活動に関する科目を配当し、自己理解力、課題設定力、企画・計画力、ディスカッション力の向上を可能としている。
(4)　卒業研究では、これまでに獲得した能力のすべてを最大限に活用し、主に論文形式による成果物を作成、提出する。この過程を通じて、社会で活用できる総合的な実践力を身に付け、本学科のディプロマ・ポリシーが掲げる要件を満たしていく。
② 教育方法
(5)　各科目では、重視しているコミュニケーション力、プレゼンテーション力、ディスカッション力、課題設定力、傾聴・受信力、クリティカル思考力のうち、2つの指定した力が身に付くような教育方法を実施する。
(6)　指導教授制、学生カルテの活用とともに、各学期に配当した演習等により、入学から卒業まで少人数教育を実施することで、教員が学生個々のキャリア形成も見据えた学修上のニーズを共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
(7)　主体的な学びの力を伸ばすために、実践（アクティブラーニング）の要素を多く取り入れる。
③ 教育評価
(8)　各科目で達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。
(9)　人間力を評価し、足らない部分は指導・強化する。
(10) 4年間の学修成果を卒業研究（アクティブラーニング）で行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

＊【国際関係学科】
カリキュラム概要
国際関係学科では、「国際的にあてになる人間」の育成を目指して国際人としての教養（international literacy）と専門的英語力向上に向けたカリキュラムを配置しています。1年次の少人数ゼミ「スタートアップ・セミナー」と「基礎演習」で学習技法の基礎を修得し、2年次からは3つの専門プログラム（「国際政治」「国際経済」「国際開発協力」）に分かれて「国際政治学」「国際金融論」「NGO/NPO論」などを学びつつ、社会科学の知見を総合的に駆使して分析・解決策を探る複眼的思考力を養います。2年次演習科目「プレ演習A・B」ではプレゼンスキルの修得、「進級論文」

作成を行い、ポートフォリオ手法を用いて達成度記録を蓄積していきます。また、オリジナル教材を活用した全学年対象「国際関係学科共通テスト」で達成度を確認します。3～4 年次の専門ゼミ「演習 A・B」「卒業研究」では事例研究・フィールドワークを実施しつつ卒業論文を完成させます。1～4 年次にわたって「英語」を集中的に学ぶことはもとより、独・仏・西・中・韓など「地域言語科目」で世界言語への入門を図ります。

＊【国際文化学科】
カリキュラム概要
国際文化学科では「国内外の多文化共生社会において「活きる人間」を育成する」ことを目標にカリキュラムを構成しています。そこでは学部共通科目の「地域研究科目」群を履修することにより養われる『文化の多様性認識能力』、学科専門科目の「地域言語科目」群の科目を履修することで高められる『言語コミュニケーション能力』、さらに「学科基礎科目」「学科基盤科目」「学科発展科目」群の履修を通して身につけてゆく『他文化理解能力』の 3 つの能力を育成します。これらの能力を演習科目、海外留学、インターンシップなどを通して総合させながら『実践的問題解決能力』につなげてゆきます。こうして身につけた実践力を、「文化価値の創造」「文化の伝達、仲介」「文化の維持、保存」という 3 つの方向性を念頭に想定される多文化共生社会の様々なシチュエーションで活かすことができるようにします。

＊【中国語中国関係学科】
カリキュラム概要
中国語中国関係学科では、中国語という言語自体の特性について学ぶほか、充分かつ実践的なコミュニケーション能力を身につけるため、1 年次から 3 年次においては集中的に中国語の授業を配置し、中国語検定試験や HSK などの資格取得を目指します。1 年次には必修科目として中国・北京市の協定校での短期研修を行います。希望者にはさらに協定校への長期派遣留学プログラムも用意しています。
中国を現代の国際社会の中でグローバルに位置づけて理解するとともに、中国国内の諸問題をローカルに考察するため、社会科学と人文科学両分野の基礎的な知識や学問研究の方法を身につけるための授業を準備しています。また、必要に応じて海外における調査研究活動を行うことがあります。「政治」、「ビジネス」、「文化や社会」の主要な 3 つの専門分野から総合的に「いまの中国」が学べるカリキュラム構成になっています。卒業研究では各自の研究テーマや専門領域についての 4 年間の学習の集大成である卒業論文を作成します。

＊ は 2016 年度入学より募集停止。

入学者の受入れに関する方針
（国際関係学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_international/）
（国際学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_international_studies/）
（国際関係学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_relations/）
（国際文化学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_cultures/）
（中国語中国関係学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_china/）

（概要）

【国際関係学部】

入学選抜の方針

本学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。

求める人間像 1

(1)本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 （知識・技能）

(2)高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3)国際関係や他文化を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。

求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）

(4)基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5)自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）

(6)世界各国・地域の人々の生活や社会制度、英語や中国語などの外国語、国際関係に強い関心と世界の動きを多面的に理解する学習意欲をもち、積極的に他者とコミュニケーションを図り、多文化共生社会や国際政治・国際経済・国際協力に関わる分野で社会に貢献しようとする意欲がある。

【国際学科】

入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。

求める人間像 1

(1)本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 （知識・技能）

(2)高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3)国際関係や他文化を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。

求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）

(4)基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5)自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）

(6)世界各国・地域の人々の生活や社会制度、英語や中国語などの外国語、国際関係に強い関心と世界の動きを多面的に理解する学習意欲をもち、積極的に他者とコミュニケーションを図り、多文化共生社会や国際政治・国際経済・国際協力に関わる分野で社会に貢献しようとする意欲がある。

学力入試

上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。

AO ポートフォリオ入試

上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。

推薦入試

上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。

特別選抜入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【国際関係学科】
2016 年度入学より募集停止

【国際文化学科】
2016 年度入学より募集停止

【中国語中国関係学科】
2016 年度入学より募集停止

学部等名　人文学部

教育研究上の目的
（https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/aim_humanities/）

（概要）

【人文学部】

人間の言語、心理、社会・文化、歴史などの事象や活動を対象とする最先端の研究成果を提供し、教育の課程を通じて、学生の自発性や独創性を促し、豊かな教養をもった品位ある人格を育成する。

【日本語日本文化学科】

世界の中の日本という視点から、日本語や日本文化を深く理解し、国際社会の中での日本文化の意義を探求し、あわせてそのための読解力、思考力、表現力の練磨をとおして教養ある社会人を育成する。

【英語英米文化学科】

高度な英語運用能力を養い、英語圏の言語、社会・文化に対する深く的確な知識と理解力をもち、積極的に国際社会に参加できる逞しい人間を育成する。

コミュニケーション学科 現代のメディア･コミュニケーションについての理論と実践的技術を学び、情報の収集、吟味、加工・編集、発信のプロセスを深く理解し、高度情報社会で自立的な判断ができる人間を育成する。

【心理学科】

基礎的な研究方法や技術を学び、認知、教育・文化、発達・社会、臨床などの各分野の専門知識を深く理解し、また統合し、こころの問題に対処できる力量をもった健全で成熟した社会人を育成する。

【歴史地理学科】

あらゆる事象や問題を「歴史的経緯」と「地理的視野」をあわせて統合的に考察・学習し、現代を生きてゆくために必要な深い洞察力と見識、歴史学的・地理学的センスを身に付けた人間を育成する。

卒業の認定に関する方針
（人文学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_humanities/）
（日本語日本文化学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_japanese/）
（英語英米文化学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_english/）
（コミュニケーション学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_communications/）
（心理学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_psychology/）
（歴史地理学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_history/）

（概要）

【人文学部】

方針概要

人文学部では、各学科学位プログラムの課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、人間や文化を探求する自発性や創造性、豊かな教養をもった品位ある人格の形成を目指し、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能
社会人として身の周りの人間や文化を知るために、他者から学ぶ傾聴・受信力を身に付けることで社会で必要とされる人文学の知識を所有でき、ICT 活用力などをもつことで知識を分析、整理、統合する技能を駆使できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
人間や文化についての知識・技能を活用するために企画・計画力、クリティカル思考力を向上させ、物事を的確に判断することができ、かつ、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を身に付け、その内容を正確に表現できる。
③主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
人文学の素養を備えた社会人として人間や文化を客観視するために自己理解力やディスカッション力を身に付けることで、主体性をもって多くの人々と協働し、学び続ける態度を身に付けることができる。
④広い関心・自律的意欲
たくましい社会人として人間や文化について調査・情報収集力を身に付けることで、幅広い関心をもつことができ、自ら課題設定力をもつことで、その課題を深く探求しようとする自律的意欲をもつことができる。

【日本語日本文化学科】
方針概要
日本語日本文化学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、世界の中の日本という視点から、日本語や日本文化を深く理解し、国際社会の中での日本文化の意義を探求するための読解力、思考力、表現力を修得した有識社会人として、次の力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
日本語・日本文学・日本文化を考究するために、他者から学ぶ力である傾聴・受信力をもつことで豊かな人文学の知識を所有でき、さらに、ICT 活用力などをもつことでその知識を分析、整理、統合する技能を駆使することができる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
日本語・日本文学・日本文化をより深く理解するために企画・計画力をもち、クリティカル思考力を磨くことにより思考力を高め、コミュニケーション力やプレゼンテーション力をもって、他者に的確に表現することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
日本語・日本文学・日本文化を客観視し、自己理解力を深め、更にディスカッション力をもつことで、他者と協働して学ぶ態度ができ、さらに学んだことを生かして社会に貢献する姿勢をもつことができる。
④ 広い関心・自律的意欲
日本語・日本文学・日本文化について、調査・情報収集力を身に付け、幅広い関心をもつことができ、かつ、関心をもつことに対しての自らの課題設定力を駆使し、その課題を深く探求しようとする自律的意欲をもつことができる。

【英語英米文化学科】
方針概要
英語英米文化学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、英語圏の言語・文化についての深い知識と高い英語コミュニケーション能力を備えた「たくましいグローバル人材」として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
英語圏の言語・文化についての深い知識と高い英語コミュニケーション能力を備えた職業人・社会人として、調査・情報収集力、ICT 活用力を備え、自分の持つ知識・技能を国内・外の多文化共生社会に還元できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

グローバルな見地からの発想力・判断力・表現力を備えた職業人・社会人として、クリティカル思考力、プレゼンテーション能力、課題設定力を身に付け、物事を批判的・論理的に捉え日英両言語で議論することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

多様な価値観を尊重しながらも、日本という基軸に立ち、主体性をもってグローバル社会で活躍する職業人・社会人として、ディスカッション力、企画・計画力を活用し、協働して物事に対処することができる。

④ 広い関心・自律的意欲

英語圏の言語・文化についての広い関心と自律的意欲を備えた職業人・社会人として、自己理解力、傾聴・受信力、責任と自覚をもって高いレベルで物事を達成しようという意欲的な態度と行動力をもつことができる。

【コミュニケーション学科】

方針概要

コミュニケーション学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、優れたコミュニケーション・デザインやコミュニティ・デザインなどで社会の文化情報環境の向上に寄与できる「文化情報デザイナー」として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

他者から学ぶ傾聴・受信力でコミュニケーション・デザイン、コミュニティ・デザインの基礎的知識を身に付け、ICT 活用力でメディア情報やメディア文化を分析するための諸アプローチの技能を駆使することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

高い企画・計画力とクリティカル思考力で情報の価値や真偽を調査して判断でき、情報を的確に表現するコミュニケーション力、プレゼンテーション力をもって責任ある情報発信を行うことができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

自己理解力とディスカッション力をもって他者と協働して学ぶことができ、情報格差の少ない社会を実現するコミュニケーション・デザイン、コミュニティ・デザインで社会に貢献する姿勢をもつことができる。

④ 広い関心・自律的意欲

高い調査・情報収集力をもってグローバルな視点から様々な情報に幅広く関心を抱き、課題設定力を駆使して文化情報環境に関する課題を深く探求し、解決しようとする自律的意欲をもつことができる。

【心理学科】

方針概要

心理学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、心理学に基づいた問題解決ができる専門家・社会人として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

社会で役立つ心理学の知識を備え、調査・情報収集力を駆使して問題を発見し、ICT 活用力によって問題を分析することで正確に把握し解決法を模索することができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

クリティカル思考力、企画・計画力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を獲得し、説得力をもって現代社会における心理学的な課題への解決法を提案できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

自己理解力に基づいて自己の立場を明確にしつつ、多様な人の立場を尊重し、ディスカッション力を駆使して協働で心理学的な課題に対処して社会に貢献する姿勢をもつことができる。

④ 広い関心・自律的意欲
傾聴・受信力や課題設定力を獲得し、幅広い関心や視野から現代社会の心理学的な課題を系統立てて捉え、自ら解決する意欲をもつことができる。

【歴史地理学科】
方針概要
歴史地理学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、あらゆる事象や問題を歴史的経緯と地理的視野をあわせて総合的に考察し、現代を生きぬくために必要な深い洞察力と見識を身に付けた人物として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
他者から学ぶ柔軟な傾聴・受信力をもって、歴史的経緯と地理学的視点から、過去および現在の様々な事象や問題についての深い知識を身に付け、ICT 活用力によってその知識を分析、整理、統合する技能を駆使することができる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
過去および現在の様々な事象や問題について、歴史的経緯と地理学的視点から、調査・分析する企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、高いコミュニケーション力、プレゼンテーション力をもってその成果を社会に提供することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
歴史的経緯と地理学的視点から、過去および現在の様々な事象や問題を客観的に把握し、深い自己理解力と高いディスカッション力をもって他者と協働し、社会に貢献する姿勢をもつことができる。
④ 広い関心・自律的意欲
各地域の様々な過去および現在の事象に広く関心をもち、歴史的経緯や地理学的視点に即して自ら深く探求できる課題設定力、調査・情報収集力を身に付け、その課題を解決するための意欲をもつことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
(人文学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_humanities/)
(日本語日本文化学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_japanese/)
(英語英米文化学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_english/)
(コミュニケーション学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_communications/)
(心理学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_psychology/)
(歴史地理学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_history/)

(概要)
【人文学部】
方針概要
本学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、以下のような教育内容、方法で授業を実施し、教育評価を行う。ナンバリングによりカリキュラムの体系をわかりやすく示す。全学共通教育科目、人文学部共通教育科目、学科横断的教科（グローバル人文教養プログラム）などを体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせ、授業を開講する。
① 教育内容
(1) 社会人として必要な知識・技能の修得のために、コース別に傾聴・受信力、ICT

活用力が獲得できる科目を体系的に配置している。
(2) 人文学の知識・技能を社会に出てから十分に活用する思考力・判断力・表現力の修得のために、コース別に企画・計画力、クリティカル思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力が獲得できる科目を体系的に配置している。
(3) 人文学の素養を備えた社会人として主体性をもって多様な人間と協働し、学び続ける態度の修得のために、コース別にディスカッション力、自己理解力が獲得できる科目を体系的に配置している。
(4) 変動する社会を生き抜く人間として人間性と文化に対する広い関心・自律的意欲の修得のために、コース別に課題設定力、調査・情報収集力が獲得できる科目を体系的に配置している。
② 教育方法
(5) 各科目はディプロマ・ポリシーに定めた身に付けるべき力のうちの 2 つの力が付くような教育方法を実施する。
(6) 指導教授制を敷くとともに、学生カルテを活用して、各学科教員が問題を共有して、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
(7) 主体的に問題解決に取り組める力を育むため、アクティブラーニング(実践的活動を通しての学修)の要素を多く取り入れる。
③ 教育評価
(8) 各科目で達成目標・到達度を明確にする。
(9) 各科目で定めた、身に付けるべき力の達成度を評価し、未達成の部分は補充指導・強化する。
(10) 学期途中で形成的評価を行い、学修、教え方の両面を調整する。
(11) 4 年間の学修成果を卒業研究（アクティブラーニング）で行い、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【日本語日本文化学科】
方針概要
日本語日本文化学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、人文学部共通教育科目、日本語日本文化学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系やコースの意味を明確にしている。
本学科には、基礎能力の修得を基盤とする以下の 3 コースが設置されている：
【言語分野コース】日本語について深く学修し、国語教員、日本語教師、司書、一般企業、大学院などの進路を目指す。
【文学分野コース】日本文学について深く学修し、国語教員、日本語教師、司書、一般企業、大学院などの進路を目指す。
【文化分野コース】日本文化について深く学修し、国語教員、日本語教師、司書、学芸員、一般企業、大学院などの進路を目指す。
① 教育内容
(1) 日本語、日本文学、日本文化の 3 領域に関する幅広い知識・技能の修得のために、コース別に傾聴・受信力、ICT 活用力が獲得できる科目を体系的に配置している。
(2) 日本語、日本文学、日本文化の 3 領域に関する思考力・判断力・表現力の修得のために、コース別に企画・計画力、クリティカル思考力およびコミュニケーション力、プレゼンテーション力が獲得できる科目を体系的に配置している。
(3) 日本語、日本文学、日本文化の幅広い知識を持った社会人として協働して学ぶ態度・社会に貢献する姿勢の修得のために、コース別にディスカッション力、自己理解力が獲得できる科目を体系的に配置している。
(4) 日本語、日本文学、日本文化の 3 領域に関する幅広い知識を持った社会人としての広い関心・自律的意欲を修得するために、コース別に課題設定力、調査・情報収集力が獲得できる科目を体系的に配置している。

② 教育方法

(5) 各科目はディプロマ・ポリシーで定めた身に付けるべき力のうち、2 つの力が付くような教育方法を実施する。

(6) 指導教授制を敷くとともに、学生カルテを活用して、各学科教員が問題を共有して、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(7) 主体的に問題解決に取り組める力を育むため、アクティブラーニング(実践的活動を通しての学修)の要素を多く取り入れる。

(8) 少人数ゼミでのきめ細かな教育、手厚い個別指導を行う。

③ 教育評価

(9) 各科目で達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。

(10) 各科目で定めた、身に付けるべき力の達成度を評価し、未達成の部分は補充指導・強化する。

(11) 学期途中で形成的評価を行い、フィードバックし、学修・教え方の両面を調整する。

(12) 4 年間の学修成果を卒業研究（アクティブラーニング）で行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【英語英米文化学科】

方針概要

英語英米文化学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、人文学部共通教育科目、英語英米文化学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系やコースの意味を明確にしている。

本学科では、卒業後目指す進路別に取得するのにふさわしい科目を提示した以下の３つの教育内容のコースを配置して科目取得のモデルを示している：

【言語学コース】英語運用能力修得に加えて、言語の仕組みを中心に学修し、英語を必要とする一般企業、通訳・翻訳、大学院などの進路を目指す。

【英語教育学コース】英語運用能力修得に加えて、言語の学習論・教育論を中心に学修し、英語を必要とする一般企業、英語教員、大学院などの進路を目指す。

【英米文化コース】英語圏の文学・歴史・文化や多文化間コミュニケーションを中心に学修し、一般企業、大学院などの進路を目指す。

①教育内容

(1) グローバル社会に生きる職業人・社会人として求められる言語・文化についての深い知識と高い英語コミュニケーション能力、調査・情報収集力、ICT 活用力が修得できる科目を体系的に配置している。

(2) グローバルな見地からの発想力・判断力・表現力を備えた職業人・社会人として、クリティカル思考力、プレゼンテーション能力、課題設定力を身につけ、物事を批判的・論理的に捉えることができる科目を体系的に配置している。

(3) 多様な価値観を尊重しながらも、日本という基軸に立ち、主体性を持ってグローバル社会で活躍する職業人・社会人であるために、日英両言語でのディスカッション力、企画・計画力を修得できる科目を体系的に配置している。

(4) 英語圏の言語・文化についての広い関心と自律的意欲を備えた職業人・社会人として、自己理解力、傾聴・受信力、責任と自覚を持って高いレベルで物事を達成しようという意欲的な態度と行動力をもつことができる科目を体系的に配置している。

② 教育方法

(5) 各科目はディプロマ・ポリシーで定めた身に付けるべき力のうち、2 つの力が付くような教育方法を実施する。また、指導教授制を敷くとともに、学生カルテを活用して、各学科教員が問題を共有して、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(6) アクティブラーニング(実践的活動を通しての学修)の要素を多くの授業に取り入れる。特に英語によるコミュニケーションを学修する科目群では、学びの主体は学

生にあることを強く意識して、自ら考え、発表し、まとめるといった一連の学修活動を英語で行う。
(7) 長期海外研修をディプロマ・ポリシー実現に向けた実践・応用の場としてとらえ、海外で英語を使いながら、双方向型・統合型の学修機会を提供する。
(8) 高い英語運用能力を獲得するために、英語で学ぶ科目、様々な留学プログラム、ICT 利用の英語学習課題、自主研究、留学生との「英語ランチ」、学会・講演会などの学修の場を提供し、必要に応じて授業と連動させる。

③ 教育評価

(9) 各科目で達成目標・到達点を明確にし、成果を評価する。各個人が学修の到達度がわかり、今後どのように学んでいけばよいかが容易に理解できるような診断的な教育評価を行う。
(10) 英語の運用能力に関しては、卒業までに 6 回の TOEIC 試験の受験を義務づけ、世界レベルで自分の英語力を把握する。また国際的に汎用性の高い「自分の英語」が確立できているか、日々の英語パフォーマンスで確認する。
(11) 上記教育内容に記された身に付けるべき力の達成度を評価し、十分に達成していない部分は指導・強化する。
(12) 4 年間の学修成果としての卒業研究で行い、学科教員全体でこれを評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【コミュニケーション学科】

方針概要

コミュニケーション学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通教育科目、人文学部共通教育科目、コミュニケーション学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系やコースの意味を明確にしている。
本学科では、卒業後に目指す進路によって以下の 3 つのコースを履修モデルとして示して履修すべき科目を提示している。
【文化情報デザイン資格取得コース】中学／高校教員・学芸員・司書・日本語教員などの進路を目指す。
【文化情報デザインクリエーターコース】実写・アニメ・Web 制作などの進路を目指す。
【文化情報デザイン力に長けた良き一般市民コース】一般企業などの進路を目指す。

① 教育内容

(1) コミュニケーション・デザインとコミュニティ・デザインの基礎的知識、及び、メディア情報やメディア文化を分析する諸アプローチの技能の修得のために、コース別に傾聴・受信力、ICT 活用力が獲得できる科目を体系的に配置している。
(2) 情報の価値や真偽を読み取れる思考力・判断力、及び、的確な形で責任ある情報発信を行える表現力の修得のために、コース別に企画・計画力、クリティカル思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力が獲得できる科目を体系的に配置している。
(3) 情報格差を削減するコミュニケーション・デザインとコミュニティ・デザインの構築に向けて、協働して学ぶ態度・社会に貢献する姿勢の修得のために、コース別に自己理解力、ディスカッション力が獲得できる科目を体系的に配置している。
(4) グローバルな視点からの様々な情報に対する幅広い関心、及び、文化情報環境に関する課題を深く探求し、解決しようとする自律的意欲の修得のために、コース別に調査・情報収集力、課題設定力が獲得できる科目を体系的に配置している。

② 教育方法

(5) 各科目はディプロマ・ポリシーで定めた身に付けるべき力のうち、2 つの力が付くような教育方法を実施する。
(6) 指導教授制を敷くとともに、学生カルテを活用して、各学科教員が問題を共有し

て、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
(7) 主体的に問題解決に取り組める力を育むため、アクティブラーニング(実践的活動を通しての学修)の要素を多く取り入れる。とりわけ、プロジェクトを推進する科目においては、学内外の他者との実践的協働作業を取り入れる。

③ 教育評価

(8) 各科目で達成目標・到達度を明確にし、学生の伸びを評価する。
(9) 各科目で定めた、身に付けるべき力の達成度を評価し、未達成の部分は補充指導・強化する。
(10) 学期途中で形成的評価を行い、フィードバックし、学修、教え方の両面を調整する。
(11) 4 年間の学修の集大成として提出される卒業研究プロジェクト（アクティブラーニング）のポートフォリオから、ディプロマ・ポリシーに定めた能力の修得が実現できたかどうかを判断する。

【心理学科】

方針概要

心理学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、人文学部共通教育科目、心理学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系やコースの意味を明確にしている。
本学科では、卒業後目指す進路別に取得するのにふさわしい以下の 4 つのコースを配置している：
【心理専門家コース】心理系公務員、大学院進学、カウンセラー、公認心理師を目指す。
【心理専門社会人コース】一般企業への就職、一般公務員、司書を目指す。
【心理専門教育系コース】教職、教育系企業、教育系公務員への就職を目指す。
【心理ジェネラリストコース】一般企業への就職を目指す。

① 教育内容

(1) 現代社会における課題に対して、心理学研究法を駆使した調査・情報収集・分析するための知識・技能を修得すべく、コース別に調査・情報収集力および ICT 活用力が獲得できる科目を体系的に配置している。
(2) 現代社会における課題に対して、心理学に基づく説得力を持った解決法を提案するための思考力・判断力・表現力が得られるように、全学生がクリティカル思考力、企画力・計画力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力が身に付く科目を体系化している。
(3) 多様な人の立場を尊重し、協働して学ぶ態度、社会に貢献する姿勢を育成するために、全学生が自己理解力およびディスカッション力が身に付く科目を体系化している。
(4) 心理学的視点から現代社会の課題を系統立てて捉え、自ら解決するための広い関心・自律的意欲の修得のために、コースごとに傾聴・受信力および課題設定力が獲得できる科目を体系的に配置している。

② 教育方法

(5) 各科目はディプロマ・ポリシーで定めた身に付けるべき力のうち、2 つの力が付くような教育方法を実施する。
(6) 指導教授制を敷くとともに、学生カルテを活用して、各学科教員が問題を共有して、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
(7) 主体的に問題解決に取り組める力を育むため、アクティブラーニング(実践的活動を通しての学修)の要素を多く取り入れる。

③ 教育評価

(8) 各科目で達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。

(9) 各科目で定めた､身に付けるべき力の達成度を評価し､未達成の部分は補充指導･強化する。
(10) 学期途中で形成的評価を行い、フィードバックし、学習、教え方の両面を調整する。
(11) 4 年間の学修成果を卒業研究（アクティブラーニング）で行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【歴史地理学科】
方針概要
歴史地理学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、人文学部共通教育科目、歴史地理学科専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系やコースの意味を明確にしている。
本学科では、以下の 2 つの教育内容のコースを配置している：
【歴史学コース】歴史学と地理学を共に学び、歴史学を専門的に学修する。
【地理学コース】歴史学と地理学を共に学び、地理学を専門的に学修する。
① 教育内容
(1) 現代社会の事象や問題を歴史学的、地理学的視点から考察し、様々な文章及び史資料から情報を読み取る知識・技能を修得するために、コース別に傾聴力・受信力、ICT 活用力が獲得できる科目を体系的に配置している。
(2) 現代社会の事象や問題を歴史学的、地理学的視点から考察し、解決方法を示す思考力・判断力・表現力を修得するために、コース別に企画・計画力、クリティカル思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力が獲得できる科目を体系的に配置している。
(3) 史資料の保存・活用や地域の状況把握・活性化などの諸活動に関心をもち、様々な問題を解決する社会人として協働して学ぶ態度･社会に貢献する姿勢の修得のために、コース別にディスカッション力、自己理解力が獲得できる科目を体系的に配置している。
(4) 歴史学的・地理学的センスを身に付けた社会人としての広い関心・自律的意欲を修得するために、コース別に課題設定力、調査・情報収集力が獲得できる科目を体系的に配置している。
② 教育方法
(5) 各科目はディプロマ・ポリシーで定めた身に付けるべき力のうち、2 つの力が付くような教育方法を実施する。
(6) 指導教授制を敷くとともに、学生カルテを活用して、各学科教員が問題を共有して、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
(7) 主体的に問題解決に取り組める力を育むため、アクティブラーニング(実践的活動を通しての学修)の要素を多く取り入れる。特に、フィールドワークや史料読解の演習では、その要素を重視する。
(8) 少人数ゼミで、きめ細やかな教育、手厚い個別指導を行う。
③ 教育評価
(9) 各科目で達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。
(10) 各科目で定めた、身に付けるべき力の達成度を評価し、未達成の部分は補充指導・強化する。
(11) 学期途中で形成的評価を行い、フィードバックし、学修、教え方の両面を調整する。
(12) 4 年間の学修成果を卒業研究（アクティブラーニング）で行い、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

入学者の受入れに関する方針
（人文学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_humanities/）
（日本語日本文化学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_japanese/）
（英語英米文化学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_english/）
（コミュニケーション学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_communications/）
（心理学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_psychology/）
（歴史地理学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_history/）

（概要）

【人文学部】

入学選抜の方針

本学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 （知識・技能）

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 人間や文化に関る領域を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。

求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）

(6) 人間や文化に関る分野に強い関心と高い学習意欲をもち、人文学の素養を身に付けたたくましい社会人として、社会に貢献しようとする意欲がある。

【日本語日本文化学科】

入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 （知識・技能）

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 日本語・日本文学・日本文化をはじめ人間や文化を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。

求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）

(6) 日本語・日本文学・日本文化をはじめ人間や文化に強い関心と高い学習意欲をもち、日本の言語や文化に関する深い知識と理解力を活かすことのできる領域を通して

社会に貢献しようとする意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。
推薦入試
上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。
特別選抜入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【英語英米文化学科】
入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）
本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。
求める人間像 1
(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 （知識・技能）
(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3) 英語圏の言語・文化をはじめ人間や文化を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。
求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）
(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6) 英語圏の言語・文化をはじめ人間や文化に強い関心と高い学習意欲をもち、本格的な英語運用能力と異文化理解力を活かすことのできる領域を通して社会に貢献する意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。
推薦入試
上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。
特別選抜入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【コミュニケーション学科】
入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）
本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。

求める人間像 1
(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 (知識・技能)
(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3) メディア情報・地域社会をはじめ人間や文化を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。
求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)
(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)
(6) メディア情報・地域社会をはじめ人間や文化に強い関心と高い学習意欲をもち、高度なコミュニケーション力と情報文化デザイン力を活かすことのできる領域を通して社会に貢献する意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。

推薦入試
上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。
特別選抜入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【心理学科】
入学選抜の方針 (アドミッション・ポリシー)
本学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。
求める人間像 1
(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 (知識・技能)
(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3) 人の「こころ」をはじめ人間や文化を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。
求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)
(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)
(6) 人の「こころ」をはじめ人間や文化に強い関心と高い学習意欲をもち、「こころ」に関する問題を論理的に解明し、表現する力を活かすことのできる領域を通して社会に貢献する意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試

上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。

推薦入試

上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。

特別選抜入試

上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【歴史地理学科】

入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 （知識・技能）

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 歴史や地理をはじめ人間や文化を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。

求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）

(6) 歴史や地理をはじめ人間や文化に強い関心と高い学習意欲をもち、歴史学・地理学の専門知識と研究方法を活かすことのできる領域を通して社会に貢献する意欲がある。

学力入試

上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。

AO ポートフォリオ入試

上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。

推薦入試

上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。

特別選抜入試

上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

学部等名　応用生物学部

教育研究上の目的
（https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/aim_biology/）

（概要）

【応用生物学部】

現代の生物科学の爆発的な発展の状況を受け、21 世紀のバイオ産業すなわち生物の機能を応用して人間生活に有用な物質生産や自然環境保全および食育環境の向上を目的とする産業および民政部門で活躍する職業人を育成する。

【応用生物化学科】

バイオサイエンスとバイオテクノロジーを基盤として、微生物や動植物の多様な生物機能の利用技術を支え、発展させるとともに、先端の生物科学の情報にも精通し、人類の生存に有用な手段を提供し、広くバイオ産業界で活躍しうる人間を育成する。

【環境生物科学科】

環境に関わるバイオサイエンスとバイオテクノロジーを基盤として、環境の状況を科学的に評価し、循環型社会の実現と地球環境問題を解決する能力のある人間を育成するとともに、あらゆる産業・社会分野において環境問題に極めて意識の高い職業人・技術者・社会人を育成する。

【食品栄養科学科】

最先端のバイオサイエンス、バイオテクノロジーに関する基礎教育を基盤として、現代の食を取り巻く種々の状況・問題を理解、解決するための知識や技術を習得し、食品産業界のみではなく、医薬品・健康産業や生物生産業など広い分野で活躍できる「食と健康」に関するプロフェッショナルを育成する。

卒業の認定に関する方針
（応用生物学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_biology/）
（応用生物化学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_biochemistry/）
（環境生物科学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_environment/）
（食品栄養科学科　食品栄養科学専攻：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_food_nutrition/）
（食品栄養科学科　管理栄養科学専攻：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_health_nutrition/）

（概要）

【応用生物学部】

方針概要

応用生物学部の課程を修め、124 単位を修得し必修等の条件を満たしたうえで、グローバルな視野に立った教養と応用生物学に関する専門知識・技能を修得し、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

応用生物学に取り組む専門職業人や有識社会人として活躍するために社会で必要とされる知識・技能、調査・情報収集力、課題設定能力を修得し、持続的社会の実現に貢献できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

応用生物学分野に取り組む専門職業人や有識社会人として、知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力を修得し、リーダーとして地域社会に貢献できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
応用生物学の知識や技能を担保としたコミュニケーション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度が身に付いている。

【応用生物化学科】
方針概要
応用生物化学科の課程を修め、124 単位を修得し必修等の条件を満たしたうえで、「遺伝子と生物機能」に関する基本的な考え方・知識・スキルとそれらを実社会で活用する能力、そして自ら学び続ける能力を身に付けた、専門職業人・有識社会人として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
「遺伝子と生物機能」を理解する基盤となる自然科学の知識と技術を身に付けるとともに、専門職業人・有識社会人として必要な情報調査収集力、課題設定力、情報通信技術の活用力等々の知識・技能を身に付け、様々な分野で活用できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
「遺伝子と生物機能」を活用する専門職業人・有識社会人として、知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力を修得し、リーダーとして地域社会に貢献できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
「遺伝子と生物機能」を活用する専門職業人・有識社会人として、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度が身に付いている。

【環境生物科学科】
方針概要
環境生物科学科の課程を修め、124 単位を修得し必修等の条件を満たしたうえで、「環境生物学（生態系における個体の生物学）」に関連する高度な専門知識や技術を理解し、それらを実社会で活用する能力、さらに自ら学び続ける能力を有した有識社会人として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
「環境生物学」を理解する基盤となる自然科学の知識と技術を身に付けるとともに、専門職業人・有識社会人として活躍するために要求される知識・技能、調査・情報収集力、課題設定力を修得し、生物多様性を担保した持続可能な社会の実現に貢献できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
「環境生物学」に関わる専門職業人・有識社会人として、知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力を修得し、リーダーとして地域社会に貢献できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
「環境生物学」に関わる専門職業人・有識社会人として、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度が身に付いている。

【食品栄養科学科　食品栄養科学専攻】
方針概要
食品栄養科学科食品栄養科学専攻の課程を修め、124 単位を修得し必修等の条件を満たしたうえで、グローバルな視野に立った教養と「食」と「栄養」に関する専門知識・技能を修得し、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
食産業に従事する専門職業人や有識社会人として活躍するために社会で必要とされる知識・技能、調査・情報収集力、課題設定能力を修得し、「安全で美味しく、栄養価の高い食品」を安定して提供していくことのできる社会の実現に貢献できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

食産業に従事する専門職業人や有識社会人として、知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力を修得し、リーダーとして地域社会に貢献できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
食産業に従事する専門職業人や有識社会人として、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度が身に付いている。

【食品栄養科学科　管理栄養科学専攻】
方針概要
食品栄養科学科管理栄養科学専攻の課程を修め、124 単位を修得し必修等の条件を満たしたうえで、バイオサイエンスおよびバイオテクノロジーを基盤とした、21 世紀型の管理栄養士に必要な知識と技術を身に付けた有識社会人として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
栄養管理を通した健康保持・増進や疾病予防・改善に強い 21 世紀型の管理栄養士として社会で必要とされる知識・技能、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、健康長寿社会の実現に貢献できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
栄養管理を通した健康保持・増進や疾病予防・改善に強い 21 世紀型の管理栄養士として、知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力を修得し、リーダーとして健康長寿社会の実現に貢献できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
栄養管理を通した健康保持・増進や疾病予防・改善に強い 21 世紀型の管理栄養士として、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度が身に付いている。

教育課程の編成及び実施に関する方針
(応用生物学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_biology/)
(応用生物化学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_biochemistry/)
(環境生物科学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_environment/)
(食品栄養科学科　食品栄養科学専攻：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_food_nutrition/)
(食品栄養科学科　管理栄養科学専攻：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_health_nutrition/)

(概要)
【応用生物学部】
方針概要
応用生物学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、応用生物学部共通教育科目、応用生物学部各学科の学科専門科目等を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。
① 教育内容
(1) 応用生物学の基礎となる科目は、1 年次に履修するように配置し、化学、生物学を中心とした自然科学の基礎科目を学び、それらの履修を通して社会で必要とされる知識・技能修得の基盤を身に付け、以降の方向付けができるようにしている。
(2) 2、3 年次に履修する科目は、応用生物学に関する知識・技術により社会で活躍できる専門職業人や有識社会人として求められる調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力が獲得できるように、体系的に配置している。
(3) 4 年次に履修する科目は、応用生物学に取り組む専門職業人や有識社会人として、

それぞれに求められるクリティカル思考力、企画・計画力、プレゼンテーション力を身に付けられるように体系化している。
(4) 応用生物学の知識や技能を基にコミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力修得のため、主体性をもち多様な人と協働し学ぶ態度を育成し科学的方法論による論理的なコミュニケーション能力が得られるよう科目を配置している。

② 教育方法

(5) 各科目は、知識・技能以外の複数の能力が身に付くような教育方法を実施する。
(6) 各学年次に指導教授制を敷くとともに、出席状況などの学生カルテを活用して学部教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
(7) 主体的な学びの力を伸ばすために、実践（アクティブラーニング）の要素を多く取り入れる。

③ 教育評価

(8) 各科目で達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。
(9) 知識・技能以外の能力修得の達成度を評価し、足らない部分は指導・強化する。
(10) 4 年間の学修成果を「卒業研究」で行い、各学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【応用生物化学科】

方針概要

応用生物化学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、応用生物学部共通教育科目、応用生物化学科専門科目および応用生物化学科関連科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 「遺伝子と生物機能」を学ぶ上で基礎となる科目は 1 年次に履修するように配置し、化学、生物学を中心とした自然科学の基礎科目を学び、それらの履修を通して社会で必要とされる知識・技能修得の基盤を身に付け、以降の方向付けができるようにしている。
(2) 2、3 年次に履修する科目は、「遺伝子と生物機能」に関する知識・技術により社会で活躍できる専門職業人や有識社会人として求められる調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力が獲得できるように、体系的に配置している。
(3) 4 年次に履修する科目は、「遺伝子と生物機能」の活用に取り組む専門職業人や有識社会人として、それぞれに求められるクリティカル思考力、企画・計画力、プレゼンテーション力を身に付けられるように体系化している。
(4) 「遺伝子と生物機能」に関する知識・技能を基礎に、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を修得するために、主体性をもち多様な人と協働し学ぶ態度が育成できる科目を配置している。

② 教育方法

(5) 各科目は、知識・技能以外の複数の能力が身に付くような教育方法を実施する。
(6) 各学年次に指導教授制を敷くとともに、出席状況などの学生カルテを活用して学部教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
(7) 主体的な学びの力を伸ばすために、実践（アクティブラーニング）の要素を多く取り入れる。

③ 教育評価

(8) 各科目で達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。
(9) 知識・技能以外の能力修得の達成度を評価し、足らない部分は指導・強化する。
(10) 4 年間の学修成果を「卒業研究」で行い、各学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【環境生物科学科】

方針概要

環境生物科学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、応用生物学部共通教育科目、環境生物科学科専門科目および環境生物科学科関連科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 化学、生物学を中心とした自然科学の基礎科目を1年次に配置し、「環境生物学（生態系における個体の生物学）」に関する知識・技能の基盤を身に付け、以降の方向付けができるようにしている。

(2) 2、3年次に履修する科目は、「環境生物学」に関わる専門職業人や有識社会人として活躍するために求められる調査・情報収集力、課題設定力、ICT活用力を獲得できるよう体系的に配置している。

(3) 4年次に履修する科目は、「環境生物学」に関わる専門職業人や有識社会人として、それぞれに求められるクリティカル思考力、企画・計画力、プレゼンテーション力を身に付けられるよう体系化している。

(4) 「環境生物学」に関する知識・技能を基礎として、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を修得するために、主体性をもち多様な人と協働し学ぶ態度が育成できる科目を配置している。

② 教育方法

(5) 各科目は、知識・技能以外の複数の能力が身に付くような教育方法を実施する。

(6) 各学年次に指導教授制を敷くとともに、出席状況などの学生カルテを活用して学部教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(7) 主体的な学びの力を伸ばすために、実践（アクティブラーニング）の要素を多く取り入れる。

③ 教育評価

(8) 各科目で達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。

(9) 知識・技能以外の能力修得の達成度を評価し、足らない部分は指導・強化する。

(10) 4年間の学修成果を「卒業研究」で行い、各学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【食品栄養科学科　食品栄養科学専攻】

方針概要

食品栄養科学科食品栄養科学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、応用生物学部共通教育科目、食品栄養科学科食品栄養科学専攻専門科目および関連科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 「食」と「栄養」に関する基礎となる科目は1年次に配置し、化学、生物学を中心とした自然科学の基礎科目を学ぶとともに、社会で必要とされる知識・技能修得の基盤を身に付け、以降の方向付けができるようにしている。

(2) 2、3年次に履修する科目は、「食」と「栄養」に関する知識・技術により社会で活躍できる専門職業人や有識社会人として求められる調査･情報収集力､課題設定力､ICT活用力が獲得できるように、体系的に配置している。

(3) 4年次に履修する科目は、食産業に従事する専門職業人や有識社会人として、それぞれに求められるクリティカル思考力、企画・計画力、プレゼンテーション力を身に付けられるように体系化している。

(4) 食産業に従事するための知識・技能を基に、コミュニケーション力、ディスカッ

ション力、傾聴・受信力、自己理解力とともに、主体性をもち多様な人と協働して学ぶ態度が育成できる科目を配置している。

② 教育方法

(5) 各科目は、知識・技能以外の複数の能力が身に付くような教育方法を実施する。

(6) 各学年次に指導教授制を敷くとともに、出席状況などの学生カルテを活用して学部教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(7) 主体的な学びの力を伸ばすために、実践（アクティブラーニング）の要素を多く取り入れる。

③ 教育評価

(8) 各科目で達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。

(9) 知識・技能以外の能力修得の達成度を評価し、足らない部分は指導・強化する。

(10) 4 年間の学修成果を「卒業研究」で行い、各学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【食品栄養科学科　管理栄養科学専攻】

方針概要

食品栄養科学科管理栄養科学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、応用生物学部共通教育科目、食品栄養科学科管理栄養科学専攻専門科目および関連科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 化学、生物学を中心とした自然科学の基礎科目を学んだ 21 世紀型の管理栄養士を育成するため、基礎となる科目を 1 年次に配置し、以降の方向付けができるようにしている。

(2) 2、3 年次に履修する科目は、栄養管理に関する知識・技術により社会で活躍できる 21 世紀型管理栄養士として求められる調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力が獲得できるよう体系的に配置している。

(3) 4 年次に履修する科目は、21 世紀型管理栄養士として、それぞれに求められるクリティカル思考力、企画・計画力、プレゼンテーション力を身に付けられるように体系化している。

(4) 栄養管理の知識・技能を基礎として、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を修得するために、主体性をもち多様な人と協働し学ぶ態度が育成できる科目を配置している。

② 教育方法

(5) 各科目は、知識・技能以外の複数の能力が身に付くような教育方法を実施する。

(6) 各学年次に指導教授制を敷くとともに、出席状況などの学生カルテを活用して学部教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(7) 主体的な学びの力を伸ばすために、実践（アクティブラーニング）の要素を多く取り入れる。

③ 教育評価

(8) 各科目で達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。

(9) 知識・技能以外の能力修得の達成度を評価し、足らない部分は指導・強化する。

(10) 4 年間の学修成果を「卒業研究」で行い、各学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

入学者の受入れに関する方針

（応用生物学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_biology/）

（応用生物化学科：

https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_biochemistry/)
(環境生物科学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_environment/)
(食品栄養科学科　食品栄養科学専攻：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_food_nutrition/)
(食品栄養科学科　管理栄養科学専攻：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_health_nutrition/)

(概要)

【応用生物学部】

入学選抜の方針

本学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) バイオサイエンス・バイオテクノロジーや食や栄養の分野に関る領域を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

(6) バイオサイエンス・バイオテクノロジーや食や栄養分野に強い関心と高い学習意欲をもち、バイオ・食品・栄養・健康に関る領域を通して社会に貢献する意欲がある。

【応用生物化学科】

入学選抜の方針 (アドミッション・ポリシー)

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) 植物、動物、微生物のバイオサイエンスとバイオテクノロジー分野に関る領域を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

(6) 植物、動物、微生物のバイオサイエンスとバイオテクノロジーに強い関心と高い学習意欲をもち、医療や医薬品・食品などのバイオサイエンスとバイオテクノロジー分野に関わる領域を通して社会に貢献する意欲がある。

学力入試

上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。

AO ポートフォリオ入試

上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。

推薦入試

上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。

特別選抜入試

上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【環境生物科学科】

入学選抜の方針　(アドミッション・ポリシー)

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) バイオサイエンスおよびバイオテクノロジーを応用した「環境生物学（生態系における個体の生物学）」に関る領域を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。

求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)

(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。

(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。

求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)

(6) バイオサイエンスおよびバイオテクノロジーを応用した環境生物学に強い関心と高い学習意欲をもち、環境評価や環境問題の解決に関わる領域を通して社会に貢献する意欲がある。

学力入試

上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。

AO ポートフォリオ入試

上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。

推薦入試

上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。

特別選抜入試

上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【食品栄養科学科　食品栄養科学専攻】

入学選抜の方針　(アドミッション・ポリシー)

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 (知識・技能)

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3)「食」や「栄養」の分野に関る領域を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。
求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)
(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)
(6)「食」や「栄養」に強い関心と高い学習意欲をもち、食品科学と栄養科学に関わる領域を通して社会に貢献する意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。
推薦入試
上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。
特別選抜入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【食品栄養科学科　管理栄養科学専攻】
入学選抜の方針 (アドミッション・ポリシー)
本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。
求める人間像 1
(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 (知識・技能)
(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3)「食」と「健康」に関る分野に関る領域を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。
求める人間像 3 (思考力・判断力・表現力)
(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 (主体性・多様性・協働性)
(6)「食」と「健康」に強い関心と高い学習意欲をもち、国家資格としての管理栄養士に関わる領域を通して社会に貢献する意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。
推薦入試
上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。
特別選抜入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選

抜します。

学部等名　生命健康科学部

教育研究上の目的
（https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/aim_life_health/）

（概要）

【生命健康科学部】

生活習慣病の拡大や新型感染症の増加など 21 世紀型の健康・医療に関する諸課題に対して、豊かな人間性とともに医学と生命科学の基礎を修得し、十分なバイオ・創薬・医用工学技術あるいは保健・看護学を基盤とした専門的技術を身に付けて、学際的な新たな立場で対応できる有能な人間を育成することを通じて社会に貢献する。

【生命医科学科】

豊かな人間性の涵養教育および医学と生命科学の基礎教育を徹底した上で、21 世紀型の疾病と健康不安のしくみを解明し、これを予防し診断・治療するための薬物、資材、機器、技術を開発する研究者、技術者、ならびに生活・職場環境を保健予防の視点で保全する専門家、ならびに関連学問領域の教育研究者の候補を育成する。

【保健看護学科】

看護学の専門教育ならびに医学と生命科学の基礎的教育を通じて、豊かな人間性を備え、人間の尊厳と権利を擁護でき、人々に信頼される実践力をもち、保健・医療・福祉チームにおいて、国際社会の動向を見据えたグローバルな視野でコラボレーション、 リーダーシップを発揮できる看護師、保健師を育成する。

【理学療法学科】

医科学・医療・福祉を総合的に捉えた障害者支援科学を教育研究し、豊かな人間性を備え、医学の進歩と医療技術の高度化・専門分化や障害者の増加と高齢化社会における病気の重度化・重複化などの諸問題に対応できる専門職業人としての理学療法士を養成する。

【作業療法学科】

医科学・医療・福祉を総合的に捉えた障害者支援科学を教育研究し、豊かな人間性を備え、医学の進歩と医療技術の高度化・専門分化や障害者の増加と高齢化社会における病気の重度化・重複化などの諸問題に対応できる専門職業人としての作業療法士を養成する。

【臨床工学科】

医科学・医療を総合的に捉えた上で、最先端の医療機器の操作・維持管理について教育研究し、豊かな人間性を備え、幅広い総合性と高い専門性を修得して、医学の進歩と医療技術の高度化・専門分化や高齢化社会における病気の重度化・重複化などの諸問題に対応できる専門職業人としての臨床工学士を養成する。

【スポーツ保健医療学科】

人間の健康の保持・増進と疾病予防等の病気に関する十分な知識を備えた上で、現代病の発症予防と健康の増幅に有用な水泳、エアロビクス運動、レクリエーションなどの健康運動（健康・生涯スポーツ等）の理論と実技を習得し、その知識・技術を科学的・医学的根拠に基づいて的確に活用して、中高年者、心身の障害者、その他の理由で身体運動が不活発な者を主な対象とした「健康運動」の安全かつ効果的な実践を適切に指導できる「健康運動を活用する保健医療の推進者」としての専門性を備えた人材を育成する。

卒業の認定に関する方針
（生命健康科学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_life_health/）

(生命医科学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_medicine/)
(保健看護学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_nursing/)
(理学療法学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_physical_therapy/)
(作業療法学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_occupational_therapy/)
(臨床工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_clinical_engineering/)
(スポーツ保健医療学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_sports/)

(概要)

【生命健康科学部】

方針概要

各学科の課程を修め、必修等の条件を満たした単位を修得し、各学科独自の教育理念を身に付けた有識社会人として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

各学科独自の教育目標から、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、それぞれの医療専門職として活躍できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

各学科独自の教育目標から、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、リーダーとして職域あるいは地域社会に貢献することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

各学科独自の教育目標から、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、多様な人の立場を尊重し、協働で物事の対処ができる。

【生命医科学科】

方針概要

生命医科学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 128 単位を修得し、以下の 3 種類の領域それぞれの能力を十分に身に付けたと判断された者に学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、21 世紀の疾病構造を把握しその病態解明や予防・治療のために生命医科学の基礎を修得しており、豊かな人間性と修得した生命医科学を基盤として、健康予防の重要性を正しく伝えることができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、生命医科学の知識やその技術の背景を説明することができ、その知識や技術を活用できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、生命医科学の知識やその技術の修得を通じて、人々の健康に関心をもち、科学的根拠に基づいた健康予防対策を講じることができる。

【保健看護学科】

方針概要

保健看護学科の課程を修め、必修などの条件を満たした 130 単位を修得し、ヘルスプロモーションの理念に基づき対応できる高度な専門性を備えた看護師・保健師および

養護教諭として、以下に示す力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
看護の知と技の修得により、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、人々の健康と生活に関する問題に対して、科学的根拠をもとに判断し解決できる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
自律性を高め、保健・医療・福祉チームにおける多職種との協働の重要性を理解し、ディスカッション力、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、人々の健康に関する問題に対して、科学的根拠をもとに判断し解決できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
命の尊厳を理解し、心のふれあいを重視し、自己啓発力を高める中で、コミュニケーション力、自己理解力を身に付け、多様な価値観をもって社会で生活する人々の尊厳と権利を擁護できる。

【理学療法学科】
方針概要
理学療法学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 128 単位を修得し、専門職業人の理学療法士をめざすものとして、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
理学療法士として必要な基本的知識・技能を修得することにより多様な疾患・障がいを理解し、またそのために必要な情報収集力を身に付け、最新医療に必要な知識・技能向上のために課題設定をして自己研鑽ができる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
チーム医療の中で得られる多くの情報から問題点を総合的に判断し、自身の考えを患者やチーム内で説明でき、実際に行動に移すことができる。その際、ICT 活用力も駆使して様々なデータを有効活用できる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
医療チーム内および患者やその家族との会話や討論を通して傾聴・受信力を発揮し、自己理解力をもとに、自身とは異なる多様な人の立場を尊重し、同時に自身の考えもしっかりもって協働して医療に従事できる。

【作業療法学科】
方針概要
作業療法学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 128 単位を修得し、作業療法士に必要な専門知識・技術と豊かな人間性をもつ有識社会人として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
医療技術の進歩や社会構造の変化の中で活躍できる作業療法士として調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、医療・保健・福祉の分野から社会に貢献することができる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
医療・保健・福祉の実践家として、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、リーダーシップを発揮して地域社会に貢献することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
リハビリテーションを担う専門職の一員として、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活かし、対象者や他職種の立場を尊重し、生活に一番近い医療専門職として物事に対処できる。

【臨床工学科】
方針概要

臨床工学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 128 単位を修得し、専門職業人の臨床工学技士をめざすものとして、以下に示す項目の能力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

臨床工学技士に必要とされる、医学・工学・医用工学の知識や技能を修得でき、さらに、医療人として必要とされる幅広い教養をもった豊かな感性、人間への深い洞察力、倫理観、生命の尊厳についての深い認識を身に付けることができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

患者やチーム医療のスタッフから得られる多くの情報を関連付けて考察し、総合的に問題点を判断できる。また、臨床工学に関する知識や技術の背景を説明することができ、その知識や技術を医療人として応用できる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

チーム医療のスタッフ、患者やその家族と十分なコミュニケーション力を発揮し、チーム医療の一員としての役割を果たすことができる。修得した臨床工学体系を基礎として、臨床工学の役割を正しく語ることができる。

【スポーツ保健医療学科】

方針概要

スポーツ保健医療学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 128 単位を修得し、国民の生活の質（QOL）の向上に役立つ能力を身に付けた有識社会人として、以下に示した力を身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得し、健康社会の実現に貢献できる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として、プレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、リーダーとして地域社会に貢献することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、多様な人の立場を尊重し、協働で物事に対処できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（生命健康科学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_life_health/）
（生命医科学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_medicine/）
（保健看護学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_nursing/）
（理学療法学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_physical_therapy/）
（作業療法学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_occupational_therapy/）
（臨床工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_clinical_engineering/）
（スポーツ保健医療学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_sports/）

（概要）

【生命健康科学部】

方針概要

生命健康科学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、理学療法学科、作業療法学科、臨床工学科では指定規則に則った教育内容を、生命医科学科、保健看護学科、スポーツ保健医療学科ではいくつかのコースを配置して授業を実施し、教育評価を行う。カリキュラムの体系を示すために、ナンバリングを行い、カリキュラム構造をわかりやすくし、コースの意味を明確にしている。

① 教育内容

学修の基礎となる全学共通教育科目と学部教育科目の履修を通して幅広い知識を修得する。自らのキャリア形成の方向付けができるようにするとともに、各学科で必要な基礎力を幅広く修得できるようにしている。

また、各学科の教育目標に定められている知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性をもち多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、1年次から体系的・系統的に科目を配置している。

② 教育方法

各科目では、学科の教育目標に定められた力が付くような教育方法を実施する。指導教授制を敷くとともに個々の学生に対しては、学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

主体的な学びの力を伸ばすために、実践（アクティブラーニング）の要素を多く取り入れる。

③ 教育評価

各科目で達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。また、各科目で修得する基礎力の達成度を評価し、足らない部分は指導・強化する。

さらに、4年間の学修成果を卒業研究（アクティブラーニング）で行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【生命医科学科】

方針概要

生命医科学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、学部共通科目、生命健康科学基盤科目、学科専門科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系やコースの意味を明確にしている。臨床検査技師コースは、臨床検査技師国家試験受験資格を付与するためのコースで、別に定める3年次までの指定科目の履修と臨床検査技師コース前試験の合格が本コースに進むために必修である。

① 教育内容

(1) 学修の基礎となる基本的学修方法を修得できるよう初年次教育から始まり、医科学基礎の修得のため、学部共通科目さらに各種の生命健康科学基盤科目を開講し、生命倫理、人体の構造と機能および病態、ならびに社会的背景と医の原点を理解させる。

(2) 課題設定・解決力のある研究・技術者、教育研究者の育成を目指し、学科専門科目群を開講し、医科学基礎と高度専門領域を修得させる。指定する要件を満たせば臨床検査技師の国家試験受験資格を得る。

(3) 学科の教育目標を満たすために、十分な思考力、判断力、表現力等の能力を涵養し、プレゼンテーション力、企画力、計画力、クリティカル思考力が身に付けられる科目を体系化している。

(4) 学科の教育目標を満たし、主体性をもって多様な人間と協働して学ぶ態度を育成するため、コミュニケーション力、傾聴・受信力、自己理解力を身に付けた有識職業人となるべく、1年次から体系的、系統的に科目を配置している。

② 教育方法

(5) 各科目では、その目的とする能力、知識が身に付くようにシラバスにその内容を明記し、初回の授業時に具体的に説明し、その説明に沿った教育方法を実施する。
(6) 指導教授制を敷くとともに、学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
(7) 主体的な学びの力を伸ばすため、アクティブラーニングの要素を多く取り入れる。

③ 教育評価

(8) 各科目で達成目標・到達点を明確にし、学生の成長を評価する。
(9) 各項目の基礎力の達成度を評価し、足らない部分は指導・強化する。
(10) 4 年間の学修成果を卒業研究(アクティブラーニング) に結実させ、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【保健看護学科】

方針概要

保健看護学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、学部共通科目、生命健康科学基盤科目、学科専門科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系やコースの意味を明確にしている。本学科では、看護師国家試験受験資格を得ることができ、さらに、それぞれ別に定める所定の科目を履修することで保健師国家試験受験資格と養護教諭一種免許状が取得できるコースがある。

① 教育内容

(1) 1 年次に人体の構造、機能、疾病と、看護介入科目の基礎を修得する。2 年次に人の発達段階と健康段階に応じた看護の知識を修得する。3 年次に看護の専門的技術を修得する。3 年次後半から 4 年次に、保健・医療・福祉施設の臨地実習を行い実践能力を修得する。
(2) 看護の基盤となる、幅広い教養と専門的知識・技能を修得し、人々の健康と生活に関する問題に対して、科学的根拠をもとに判断し解決できるために、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力が獲得できる科目を体系的に配置している。
(3) 看護専門職者として、自ら考え実践する自律性を養い、同時に、保健・医療・福祉チームにおけるコラボレーションの重要性を理解する中で、ディスカッション力、自己理解力、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付けるために科目を配置している。
(4) ケアとキュアに対応する看護職になるための科目を配置している。看護に必要な科学的知識を修得し、命の尊厳と心のふれあいを重視し、コミュニケーション力を身に付け、社会で生活する人々の尊厳と権利を擁護できる看護職の育成を目指して科目を配置している。

② 教育方法

(5) 全学共通教育科目では、広い教養と豊かな人間性について学修する。学部共通科目と生命健康科学基盤科目では、人体の構造、機能、疾病および保健医療に関する知識を学修する。学科専門科目は看護学専門領域の知識と技術、人間関係、看護倫理などを学修する。
(6) 保健・医療・福祉機関での臨地実習により、社会で活動する専門家やサービスを受けている患者など様々な人々と接する機会を持つことで実践的な能力を高めていく。また災害時や国際的な活動をめざした科目を学修することで視野を広げる。
(7) 学生は主体的に学修計画を立案し、自律的な学修によって社会の期待に応えられる看護職者に育つことが期待される。 本学科では「保健看護学科教育目標形成評価表」を用いて、学生の成長・発展を段階的に確認し、指導教授を中心とした学修支援を行う。
(8) 国家資格に必要な専門的知識を 1 年次から段階的に学べるようにカリキュラム

が組まれている。3 年次、4 年次では国家試験対策講義および国家試験関係のテストを計画的に行い、自己評価と関係教員との面接を活用して、学修計画の立案を行う。

③ 教育評価

(9) 講義・演習においては各教科の達成目標・到達点を明確にし、学生の成長を客観的に評価する。

(10) 実習については、出席状況、実習記録の内容と提出状況、実習への取り組み、実習態度などから総合的に評価する。

(11) 卒業研究では、主体的に文献検索と文献の検討、研究論文のクリティーク（評論）、論文の作成と発表を行い、課題設定力、プレゼンテーション力、調査・情報収集力、ICT 活用力などからディプロマ・ポリシーが実現できたかどうか総合的に評価する。

【理学療法学科】

方針概要

理学療法学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、学部共通科目、生命健康科学基盤科目、理学療法学科・作業療法学科共通専門基礎科目、学科専門科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 学修の基礎となる全学共通教育科目の履修により、幅広い知識を修得するのみならず、社会人として必要な教養や社会への適応性を培うための様々な基本的能力を幅広く修得することができるようにしている。

(2) 医療で必要となる基本的知識、技能を修得し、調査・情報収集力を身に付け、常に最新医療に必要な知識・技能の向上や課題設定ができるように生命健康科学基盤科目および理学療法学科・作業療法学科共通専門基礎科目を体系的に配置している。

(3) 多様な情報を総合的に考察・判断し、実際に行動計画に移すことができるように、学科専門科目の中に多様かつ段階的な演習・実習を配置している。ICT 活用力も駆使して様々なデータを有効活用できるような研究法も取り入れている。

(4) 医療関係者、患者およびその家族と十分な会話や討論に傾聴・受信力を発揮し、自己理解力をもとに自身の考えも発信しつつ、自身とは異なる考え方を尊重できるように臨床実習の他、各種実習、演習を段階的に組んでいる。

② 教育方法

(5) 各科目について、会話力・課題設定力・企画計画力・ICT 活用力などの医療人として必要な行動力を身に付けられるようにシラバスにその内容を明記し、初回授業においても、その内容を具体的に説明し、その説明に沿って授業を展開する。

(6) 主体的な学びの力を伸ばすために、ICT の活用を図りつつ、授業前の予習と授業後の復習の実行を指導することにより、実践（アクティブラーニング）の習慣化を目指す。

(7) 指導教授制を敷くとともに、学年進行に即した個人目標達成表を活用して、上記アクティブラーニングの習慣化が進んでいることを確認する。さらに、学科教員が個々の学生の問題点を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

③ 教育評価

(8) 学期ごとに各科目において、学生がその達成目標に到達できたか否かを明確にし、個人目標達成表に従って、個々の学生の学修的進歩を評価する。

(9) 各科目に指定された到達目標を学修したことを確認したうえで、会話力・課題設定力・企画計画力・ICT 活用力など医療人として必要な知識、技術がどの程度達成できているかを各時点で評価し、不足する部分は、指導教員と授業担当教員協働で、指導・強化する。

(10) 生命健康科学基盤科目、理学療法学科・作業療法学科共通専門基礎科目、学科

専門科目で得られた知識・技能を統合・整理できる能力が修得できたか否かを総合臨床実習、卒業研究の達成度で評価し、教員全体でディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【作業療法学科】

方針概要

作業療法学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、学部共通科目、生命健康科学基盤科目、理学療法学科・作業療法学科共通専門基礎科目、学科専門科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 学修の基礎となる初級レベルにナンバリングされた全学共通教育科目、生命健康科学基盤科目の多くを 1、2 年次に配置し、幅広い知識を修得できるようにしている。

(2) 初年次から初級レベルにナンバリングされた理学療法学科・作業療法学科共通専門基礎科目、学科専門科目や臨床実習によって作業療法の専門性に触れ、自らのキャリア形成の方向付けができるようにしている。

(3) 作業療法士に必要な調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力、企画・計画力、クリティカル思考力が獲得できるように中級・上級レベルの学科専門科目を系統的に配置している。

(4) 医療・保健・福祉の現場で求められる協働する能力を育成するために、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力が身に付く科目や臨床実習を系統的に配置している。

② 教育方法

(5) 各科目では、職業人・医療人として履修によって身に付けてほしいコミュニケーション力、クリティカル思考力などの基礎力を明確にして、必要な教育を実施する。

(6) 指導教授制を敷き、定期的な個人面談を実施し、その記録を教員間で共有することで、学生の課題解決に向けての支援を行い、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(7) 作業療法士の国家試験受験資格の取得に必要な科目を 1 年次から系統的に配置している。また、4 年次には国家資格に必要な専門知識の強化のために、国家試験に向けたアクティブラーニングを支援し、外部テストを用いた学習成果の確認を行う。

(8) 学年ごとに臨床の現場に触れ、体験を通して学ぶための臨床実習を配置し、学科専門科目を中心とする学内教育との総合化を行う。

③ 教育評価

(9) 各科目で達成目標・到達点を明確にし、学生の学修成果を評価する。

(10) 職業人・医療人として必要な基礎力の達成度を評価し、不足している部分は指導・強化する。

(11) 各科目での評価の他に 4 年間の学修成果を総合臨床実習、卒業研究を通して評価を行い、学科教員全体でディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判定する。

【臨床工学科】

方針概要

臨床工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、学部共通科目、生命健康科学基盤科目、学科専門基礎科目、学科専門科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系を明確にしている。

① 教育内容

(1) 学修の基礎となる全学共通教育科目の履修により、臨床工学技士をめざすものとして、また社会人としても必要な教養や社会力を養うために、幅広い知識を修得でき

るようにしている。
(2) 臨床工学技士に必要とされる、医学・工学・医用工学の基本的な知識、技能を修得でき、かつ調査・情報収集力を身に付け、常に最新医療に必要な知識・技能の向上や課題設定ができるよう、生命健康科学基盤科目および学科専門基礎科目を体系的に配置している。
(3) 医療に必要な多様な情報を関連付けて考察し、総合的に問題点を判断ができるように、学科専門科目の中に多様かつ段階的な演習・実習を配置している。同時に、ICT活用力も駆使して様々なデータを有効活用できるよう、臨床工学研究法、卒業研究などを段階的に取り入れている。
(4) チーム医療のスタッフとして、患者およびその家族との対応時に十分なコミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を発揮できるように、各種実習、演習を毎年段階的に配置している。
② 教育方法
(5) 各科目では、医療人・社会人として必要な教養や社会力が身に付くような教育を実施する。
(6) 指導教授制を敷くとともに個々の学生に対しては、学科教員が問題を共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。
(7) 主体的な学びの力を伸ばすために、実践（アクティブラーニング）の要素を多く取り入れる。
③ 教育評価
(8) 各科目で達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。
(9) 職業人・医療人として必要な基礎力の達成度を評価し、足らない部分は指導・強化する。
(10) 4 年間の学修成果を総合臨床実習、卒業研究で行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【スポーツ保健医療学科】
方針概要
本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、学部教育科目（学部共通科目、生命健康科学基盤科目、学科専門科目）を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施し、教育評価を行う。科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行うとともにカリキュラムマップによってカリキュラムの体系やコースの意味を明確にしている。コースには、健康運動・スポーツ指導者コース、救急救命士コース、ジェネラリストコースを置く。前者 2 つのコースは、それぞれ健康運動・スポーツ指導者養成、救急救命士養成を目的とし、ジェネラリストコースは、初歩的な健康運動・スポーツ、救急救命の知識・技術を幅広く修得することを目的とする。
① 教育内容
(1) 学修の基礎となる全学共通教育科目では、主体的な学びを通して社会人として必要な幅広い知識を修得し、自らのキャリア形成の方向付けができるようにするとともに、調査・情報収集能力、課題設定能力等の基礎力を幅広く修得できるようにしている。
(2) 学部教育科目では、健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として必要な知識・技能の修得のために、コース別に調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力等が獲得できる科目を体系的に配置している。
(3) 学部教育科目では、健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として必要な思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、コース別にプレゼンテーション力、企画・計画力、クリティカル思考力等が身に付けられる科目を体系化している。
(4) 学部教育科目では、健康運動・スポーツ、救急救命の技術を活用する専門家・社会人として多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、コース別にコミュニケー

ション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力等の基礎力が修得できる科目を配置している。

② 教育方法

(5) 各科目では、社会人として必要な調査・情報収集力、課題設定力等の基礎力が身に付くような教育方法を実施する。

(6) 各学生には必ず1名の教員が指導担当につき、学生カルテを活用して、問題を教員間で共有し、ディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(7) 主体的な学びの力を伸ばすために、実践（グループワーク）の要素を多く取り入れる。

(8) 救急救命士の国家試験受験資格の取得に必要な科目を1年次から体系的・系統的に配置している。また、4年次には国家資格に必要な専門的知識の能力確認のために模擬テストの導入や国家試験対策のための時間を設ける。

③ 教育評価

(9) 各科目で達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。

(10) 調査・情報収集力、課題設定力等の基礎力の達成度を評価し、足らない部分は指導・強化する。

(11) 4年間の学修成果を卒業研究で行い、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

入学者の受入れに関する方針

(生命健康科学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_life_health/)

(生命医科学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_medicine/)

(保健看護学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_nursing/)

(理学療法学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_physical_therapy/)

(作業療法学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_occupational_therapy/)

(臨床工学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_clinical_engineering/)

(スポーツ保健医療学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_sports/)

(概要)

【生命健康科学部】

入学選抜の方針

本学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 （知識・技能）

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。

(3) ひとの健康を維持・促進する医療・疾病予防・介護福祉などに関わる領域を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。

求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）
(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6) ひとの健康を維持・促進する医療・疾病予防・介護福祉などに強い関心と高い学習意欲をもち、生命健康領域を通して社会に貢献する意欲がある。

【生命医科学科】
入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）
本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。
求める人間像 1
(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 （知識・技能）
(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3) 病気の予防や健康の維持増進の分野を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。
求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）
(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6) 病気の予防や健康の維持増進に対して強い関心と病気や健康不安の仕組みに学習意欲をもち、臨床検査、または薬物・資材・機器・医療技術の開発・研究および販売等を通して社会に貢献する意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。
推薦入試
上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。
特別選抜入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【保健看護学科】
入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）
本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。
求める人間像 1
(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 （知識・技能）
(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3) ひとの尊厳と権利、ひとの暮らしと健康の分野を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。

求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）
(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6) ひとの尊厳と権利、ひとの暮らしと健康に強い関心と高い学習意欲をもち、看護の専門職として他職種と協働し社会に貢献する意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。
推薦入試
上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。
特別選抜入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【理学療法学科】
入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）
本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。
求める人間像 1
(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 （知識・技能）
(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3) 医学・生命科学、理学療法学を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。
求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）
(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6) 医学・生命科学、理学療法学に強い関心と高い学習意欲をもち、理学療法に関わる領域を通して社会に貢献する意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。
推薦入試
上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。
特別選抜入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【作業療法学科】
入学選抜の方針　（アドミッション・ポリシー）
本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。
求める人間像 1
(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 （知識・技能）
(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3) 身体・精神の両面にわたるリハビリテーションを学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。
求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）
(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6) 身体・精神の両面にわたるリハビリテーションに強い関心と高い学習意欲をもち、作業療法士に関わる領域で社会に貢献する意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。
推薦入試
上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。
特別選抜入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【臨床工学科】
入学選抜の方針　（アドミッション・ポリシー）
本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。
求める人間像 1
(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 （知識・技能）
(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3) 工学と医学が重なる領域を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。
求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）
(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6) 工学と医学が重なる領域に強い関心と高い学習意欲をもち、臨床工学技士に関わる領域で社会に貢献する意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜

します。
AO ポートフォリオ入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。

【スポーツ保健医療学科】
入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）
本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。
求める人間像 1
(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 （知識・技能）
(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3) スポーツや保健医療（医学）が重なる領域を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。
求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）
(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6) スポーツや保健医療（医学）に強い関心と高い学習意欲をもち、スポーツ医学を国民の生活の質（QOL）の向上に役立てる領域を通して社会に貢献する意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。
推薦入試
上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。
特別選抜入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

学部等名　現代教育学部

教育研究上の目的
（https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/aim_education/）

（概要）
【現代教育学部】
次世代教育、特に、家庭、学校、地域社会における教育の重要性を基本とし、次代を担う乳幼児、児童生徒の健全な育成を中心的課題として広く教育研究を行い、もって人格形成基盤を体系的に支援することができる優れた教育者、保育者を養成し、社会の期待と発展に寄与することを目的とする。

【幼児教育学科】
乳幼児期の人間形成の基盤作りを専門的に支援・指導する専門職業人を養成する。その基本的な教育目標は、保育士資格と幼稚園教諭一種免許の取得を可能とし、その資格・免許を基に複雑で変化の激しい環境の下で生じる個別的な課題の解決に向けて創造的に実践できる人材を育成する。

【現代教育学科】
児童生徒の成長発達、教育、支援について学際的に教育研究して、「次世代教育」のあり方についての理論と技能を修得し、社会が求める多様な教育実践と教育支援活動を積極的に推進する人材を育成する。

卒業の認定に関する方針
（現代教育学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_education/）
（幼児教育学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_early_childhood/）
（現代教育学科　現代教育専攻：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_contemporary_education/）
（現代教育学科　中等教育国語数学専攻：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_secondary_education/）

（概要）
【現代教育学部】
方針概要
現代教育学部の課程を修め、必修等の条件を満たした124単位を修得し、保育・教育のありかたについての理論と技能を身に付けた専門職業人となるべく、次に示す能力・資質などを身に付けたものに対し学位を授与する。
① 社会で必要とされる知識・技能
調査・情報収集力、課題設定力、ICT活用力を獲得し、子どもの成長発達、保育・教育について研究を行うことができる。
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力
企画・計画力、クリティカル思考力を身に付け、保育・教育系や社会が求める多様な保育・教育実践と支援に貢献することができる。
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度
コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力、自己理解力を活用し、保育・教育のありかたについて、多様な人の立場を尊重し、協働で物事に対処できる。

【幼児教育学科】
方針概要

幼児教育学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、保育・幼児教育のありかたについての理論と技能を身に付けた専門職業人となるべく、次に示す基礎的な能力・資質などを身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

調査・情報収集力（必要な情報を調査・収集し、選択・分析する力）、課題設定力（修得した知識・技能をもとに、物事を観察し、課題を設定する力）、ICT 活用力を獲得し、乳幼児の成長発達、保育・幼児教育について研究を行うことができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

企画・計画力（課題解決についての見通しを持ち、指導計画を立てる力）、クリティカル思考力（物事を客観的に観察・思考し、結論を導く力）を身に付け、保育機関・家庭や地域・社会が求める多様な保育・幼児教育実践と支援に貢献することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

コミュニケーション力、ディスカッション力（テーマに沿って円滑に議論を進める力）、傾聴・受信力（他者の考えを正確に受けとめる力）、自己理解力を活用し、保育・幼児教育のありかたについて、多様な人の立場を尊重し、協働で物事に対処できる。

【現代教育学科　現代教育専攻】

方針概要

現代教育学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、「次世代教育」のありかたについての理論と技能を身に付けた専門職業人となるべく、次に示す基礎的な能力・資質などを身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

調査・情報収集力（必要な情報を調査・収集し、選択・分析する力）、課題設定力（修得した知識・技能をもとに、物事を観察し、課題を設定する力）、ICT 活用力を獲得し、児童生徒の成長発達、教育について研究を行うことができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

企画・計画力（課題解決についての見通しを持ち、企画・計画を立てる力）、クリティカル思考力（物事を客観的に観察・思考し、結論を導く力）を身に付け、学校・地域や家庭・社会が求める多様な教育実践と支援に貢献することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

コミュニケーション力、ディスカッション力（テーマに沿って円滑に議論を進める力）、傾聴・受信力（他者の考えを正確に受けとめる力）を活用し、「次世代教育」のありかたについて、多様な人の立場を尊重し、協働で物事に対処できる。

【現代教育学科　中等教育国語数学専攻】

方針概要

現代教育学科の課程を修め、必修等の条件を満たした 124 単位を修得し、「次世代教育」のありかたについての理論と技能を身に付けた専門職業人となるべく、次に示す基礎的な能力・資質などを身に付けたものに対し学位を授与する。

① 社会で必要とされる知識・技能

調査・情報収集力（必要な情報を調査・収集し、選択・分析する力）、課題設定力（修得した知識・技能をもとに、物事を観察し、課題を設定する力）、ICT 活用力を獲得し、児童生徒の成長発達、教育について研究を行うことができる。

② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力

企画・計画力（課題解決についての見通しを持ち、企画・計画を立てる力）、クリティカル思考力（物事を客観的に観察・思考し、結論を導く力）を身に付け、学校・地域や家庭・社会が求める多様な教育実践と支援に貢献することができる。

③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度

コミュニケーション力、ディスカッション力（テーマに沿って円滑に議論を進める力）、傾聴・受信力（他者の考えを正確に受けとめる力）を活用し、「次世代教育」

のありかたについて、多様な人の立場を尊重し、協働で物事に対処できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（現代教育学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_education/）
（幼児教育学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_early_childhood/）
（現代教育学科　現代教育専攻：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_contemporary_education/）
（現代教育学科　中等教育国語数学専攻：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_secondary_education/）

（概要）
【現代教育学部】
方針概要
本学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、次のような教育内容のコースを配置して授業を実施し、教育評価を行う。ナンバリングとカリキュラムマップ（教育課程系統図）によってカリキュラムの体系を分かりやすく示し、コースの意味を明確化する。
① 教育内容
(1)　学修の基礎となる保育・教育学、教育心理学領域の履修を通して、幅広い知識を修得し、自らのキャリア形成の方向付けができるようにしている。
(2)　保育・教育についての理論と技能を身に付けた専門職業人として求められる知識・技能の修得のために、調査・情報収集力、課題設定力、ICT 活用力を獲得できる科目を体系的に配置している。
(3)　多様化する保育・教育の場で貢献するため、思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、企画・計画力、クリティカル思考力を身に付けられる科目を体系的に配置している。
(4)　保育・教育のありかたについて、主体性をもち多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を身に付けた専門職業人となるべく、1 年次から体系的・系統的に科目を配置している。
② 教育方法
(5)　主体的な学びの力を伸ばすために、アクティブラーニングの要素を多く取り入れる。
(6)　言語表現・芸術表現・身体表現の体系的な学びを通して、創造的な表現力の向上を図る。
(7)　学外の教育・保育機関と連携して、正課・正課外において乳幼児・児童生徒と関わり、保育・教育実習や体験活動を通して個々の実践力の向上を図る学修を、1 年次から 4 年次にかけて体系的に取り入れる。
③ 教育評価
(8)　各科目で達成目標・到達点を明確にし、学生の伸びを評価する。
(9)　学修の達成度を評価し、不足する部分は指導し、強化する。
(10)　4 年間の学修成果を卒業研究で集大成し、各学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【幼児教育学科】
方針概要
本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、次のような教育内容のコースを配置して授業を実施し、教育評価を行う。ナンバリングとカリキュラ

ムマップ（教育課程系統図）によってカリキュラムの体系を分かりやすく示し、コースの意味を明確化する。
幼児教育学科履修モデル
Ａ：保育・幼児教育コース（保育士資格、幼稚園教諭免許状取得）
Ｂ：保育重点コース（保育士資格取得）
Ｃ：幼児教育重点コース（幼稚園教諭免許状取得）
① 教育内容
(1) 学修の基礎となる保育・教育学、教育心理学領域の履修を通して、幅広い知識を修得し、自らのキャリア形成の方向付けができるようにしている。
(2) 保育・幼児教育についての理論と技能を身に付けた専門職業人として求められる知識・技能の修得のために、調査・情報収集力（必要な情報を調査・収集し、選択・分析する力）、課題設定力（修得した知識・技能をもとに、物事を観察し、課題を設定する力）、ICT 活用力を獲得できる科目を体系的に配置している。
(3) 多様化する保育・幼児教育の場で貢献するため、思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、プレゼンテーション力、企画・計画力（課題解決についての見通しを持ち、指導計画を立てる力）、クリティカル思考力（物事を客観的に観察・思考し、結論を導く力）を身に付けられる科目を体系的に配置している。
(4) 保育・幼児教育のありかたについて、主体性をもち多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、コミュニケーション力、ディスカッション力（テーマに沿って円滑に議論を進める力）、傾聴・受信力（他者の考えを正確に受けとめる力）を身に付けた専門職業人となるべく、1 年次から体系的・系統的に科目を配置している。
② 教育方法
(5) 主体的な学びの力を伸ばすために、アクティブラーニングの要素を多く取り入れる。また、学修課題に合わせた適切な授業形態（講義、演習、実習など）を系統的に組み合わせた教育課程を展開することで学生の主体的な学びを促す。
(6) 創造的表現力を高めるために、音楽・造形・身体・言語表現を体験的・統合的に学ぶ機会を取り入れる。
(7) 正課・正課外教育において、保育・幼児教育の場で適用できる指導力・実践力を高めるため、幼稚園、保育所、子育て支援センター等の保育・幼児教育機関と連携を取りながら 1 年次から 4 年次まで系統的に体験的学修の機会を設ける。
③ 教育評価
(8) 各科目で授業の主旨や達成目標・到達点を明確にし、ディプロマ・ポリシーに照らして学生の伸びを客観的・多面的に評価する。
(9) 各科目の評価を総合して、学修の達成度を総括的に評価し、不足する部分を重点的に指導・強化することで、学生一人ひとりのディプロマ・ポリシーの実現を図る。
(10) 3 年次のゼミナールでの研究成果を踏まえ、4 年間の学修成果を卒業研究で集大成し、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【現代教育学科　現代教育専攻】
方針概要
本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、次のような教育内容のコースを配置して授業を実施し、教育評価を行う。ナンバリングとカリキュラムマップ（教育課程系統図）によってカリキュラムの体系を分かりやすく示し、コースの意味を明確化する。
現代教育専攻履修モデル
Ａ：小学校教育重点コース
Ｂ：小学校教育＋中学校理科教育コース
Ｃ：小学校教育＋特別支援教育コース
中等教育国語数学専攻履修モデル
Ｄ：中学校国語教育コース

Ｅ：中学校数学教育コース

① 教育内容

(1) 学修の基礎となる教育学、教育心理学領域の履修を通して、幅広い知識を修得し、自らのキャリア形成の方向付けができるようにしている。

(2) 教育についての理論と技能を身に付けた専門職業人として求められる知識・技能の修得のために、調査・情報収集力（必要な情報を調査・収集し、選択・分析する力）、課題設定力（修得した知識・技能をもとに、物事を観察し、課題を設定する力）、ICT活用力を獲得できる科目を体系的に配置している。

(3) 多様化する教育の場で貢献するため、思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、企画・計画力（課題解決についての見通しを持ち、企画・計画を立てる力）、クリティカル思考力（物事を客観的に観察・思考し、結論を導く力）を身に付けられる科目を体系的に配置している。

(4) 教育のありかたについて、主体性をもち多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、コミュニケーション力、ディスカッション力（テーマに沿って円滑に議論を進める力）、傾聴・受信力（他者の考えを正確に受けとめる力）を身に付けた専門職業人となるべく、1年次から体系的・系統的に科目を配置している。

② 教育方法

(5) 主体的な学びの力を伸ばすために、アクティブラーニングの要素を多く取り入れる。また、ICTを活用した授業指導力を高めるため、積極的にICTを取り入れ、様々な活用方法について習熟を図る。

(6) 言語表現力を充実させるとともに、芸術・身体表現の体験的な学びを通して、創造的な表現力を高める。

(7) 地域の教育委員会など教育関係機関との連携のもと、学校現場で学習・生活支援を行う活動を通して、実践的な指導力を培う。

③ 教育評価

(8) 各科目で授業の主旨や達成目標を明確にし、ディプロマ・ポリシーに照らして学生の伸びを客観的・多面的に評価する。

(9) 各科目の評価を総合して、学修の達成度を総括的に評価し、不足する部分を重点的に指導・強化することで、学生一人ひとりのディプロマ・ポリシーの実現を図る。

(10) 3年次のゼミナールでの研究成果を踏まえ、4年間の学修成果を卒業研究で集大成し、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

【現代教育学科　中等教育国語数学専攻】

方針概要

本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、次のような教育内容のコースを配置して授業を実施し、教育評価を行う。ナンバリングとカリキュラムマップ（教育課程系統図）によってカリキュラムの体系を分かりやすく示し、コースの意味を明確化する。

現代教育専攻履修モデル

Ａ：小学校教育重点コース

Ｂ：小学校教育＋中学校理科教育コース

Ｃ：小学校教育＋特別支援教育コース

中等教育国語数学専攻履修モデル

Ｄ：中学校国語教育コース

Ｅ：中学校数学教育コース

① 教育内容

(1) 学修の基礎となる教育学、教育心理学領域の履修を通して、幅広い知識を修得し、自らのキャリア形成の方向付けができるようにしている。

(2) 教育についての理論と技能を身に付けた専門職業人として求められる知識・技能の修得のために、調査・情報収集力（必要な情報を調査・収集し、選択・分析する力）、

課題設定力（修得した知識・技能をもとに、物事を観察し、課題を設定する力）、ICT活用力を獲得できる科目を体系的に配置している。
(3) 多様化する教育の場で貢献するため、思考力・判断力・表現力等の能力が得られるように、企画・計画力（課題解決についての見通しを持ち、企画・計画を立てる力）、クリティカル思考力（物事を客観的に観察・思考し、結論を導く力）を身に付けられる科目を体系的に配置している。
(4) 教育のありかたについて、主体性をもち多様な人と協働して学ぶ態度を育成するために、コミュニケーション力、ディスカッション力（テーマに沿って円滑に議論を進める力）、傾聴・受信力（他者の考えを正確に受けとめる力）を身に付けた専門職業人となるべく、1年次から体系的・系統的に科目を配置している。

② 教育方法

(5) 主体的な学びの力を伸ばすために、アクティブラーニングの要素を多く取り入れる。また、ICTを活用した授業指導力を高めるため、積極的にICTを取り入れ、様々な活用方法について習熟を図る。
(6) 言語表現力を充実させるとともに、芸術・身体表現の体験的な学びを通して、創造的な表現力を高める。
(7) 地域の教育委員会など教育関係機関との連携のもと、学校現場で学習・生活支援を行う活動を通して、実践的な指導力を培う。

③ 教育評価

(8) 各科目で授業の主旨や達成目標を明確にし、ディプロマ・ポリシーに照らして学生の伸びを客観的・多面的に評価する。
(9) 各科目の評価を総合して、学修の達成度を総括的に評価し、不足する部分を重点的に指導・強化することで、学生一人ひとりのディプロマ・ポリシーの実現を図る。
(10) 3年次のゼミナールでの研究成果を踏まえ、4年間の学修成果を卒業研究で集大成し、学科教員全体で評価し、ディプロマ・ポリシーが実現できたかどうかを判断する。

入学者の受入れに関する方針
（現代教育学部：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_education/）
（幼児教育学科：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_early_childhood/）
（現代教育学科　現代教育専攻：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_contemporary_education/）
（現代教育学科　中等教育国語数学専攻：
https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_secondary_education/）

（概要）

【現代教育学部】

入学選抜の方針

本学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。

求める人間像 1

(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。

求める人間像 2 （知識・技能）

(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3) 乳幼児および児童生徒の教育に関わる領域を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。

求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）
(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6) 乳幼児および児童生徒の保育・教育に強い関心と高い学習意欲をもち、保育や教育などの専門職業人として社会に貢献する意欲がある。

【幼児教育学科】
入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）
本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。
求める人間像 1
(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 （知識・技能）
(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3) 乳幼児の保育・教育に関わる領域を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。

求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）
(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6) 乳幼児の保育・教育に強い関心と高い学習意欲をもち、幼稚園教諭・保育士・保育教諭などの専門職業人として社会に貢献する意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験、大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実習・演習および面接によって選抜します。
推薦入試
上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。
特別選抜入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文および面接によって選抜します。

【現代教育学科　現代教育専攻】
入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）
本専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。
求める人間像 1
(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 （知識・技能）
(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3) 児童生徒の教育に関わる領域を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。

求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）
(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6) 児童生徒の教育に強い関心と高い学習意欲をもち、小学校教諭・中学校理科教諭・特別支援学校教諭などの専門職業人として社会に貢献する意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験および大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査、講義・実技・演習および面接によって選抜します。
推薦入試
上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。
特別選抜入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文及び面接によって選抜します。

【現代教育学科　中等教育国語数学専攻】
入学選抜の方針 （アドミッション・ポリシー）
本専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、以下の「求める人間像」を備えた人を求めます。
求める人間像 1
(1) 本学の建学の精神および基本理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある。
求める人間像 2 （知識・技能）
(2) 高等学校の教育内容を幅広く学修している。
(3) 中学校教育に関わる領域を学ぶために必要な基礎的な学力を有し、知識の応用力・論理的思考力などを身に付けている。
求める人間像 3 （思考力・判断力・表現力）
(4) 基礎学力を応用する力やものごとを論理的に思考する力を有している。
(5) 自分の考えを伝えるための表現力・コミュニケーション力を有している。
求める人間像 4 （主体性・多様性・協働性）
(6) 中学校教育に強い関心と高い学習意欲をもち、中学校国語教諭および中学校数学教諭などの専門職業人として社会に貢献する意欲がある。
学力入試
上記の(3)、(4)を重視し、個別筆記試験および大学入試センター試験の点数によって選抜します。
AO ポートフォリオ入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、ポートフォリオ審査，講義・実技・演習および面接によって選抜します。
推薦入試
上記の(1)、(2)、(5)、(6)を重視し、書類審査、小論文および面接によって選抜します。
特別選抜入試
上記の(1)、(3)～(6)を重視し、書類審査・小テスト・小論文及び面接によって選抜します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/know/organization/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	4人	－					4人
工学部	－	83人	27人	18人	1人	3人	132人
経営情報学部	－	20人	4人	6人	1人	0人	31人
国際関係学部	－	15人	3人	5人	0人	0人	23人
人文学部	－	36人	16人	8人	0人	0人	60人
応用生物学部	－	27人	12人	6人	1人	12人	58人
生命健康科学部	－	41人	22人	12人	7人	8人	90人
現代教育学部	－	17人	12人	6人	1人	0人	36人
人間力創成総合教育センター	－	13人	6人	11人	2人	1人	33人
付置研究所	－	25人	9人	9人	14人	11人	68人
その他	－	3人	0人	0人	0人	0人	3人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	367人	367人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://www.chubu.ac.jp/about/faculty/index.html

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
工学部	880 人	855 人	97.2%	3,352 人	3,491 人	104.1%	16 人	4 人
経営情報学部	300 人	317 人	105.7%	1,212 人	1,237 人	102.1%	6 人	1 人
国際関係学部	140 人	144 人	102.9%	570 人	556 人	97.5%	5 人	0 人
人文学部	400 人	402 人	100.5%	1,620 人	1,708 人	105.4%	10 人	1 人
応用生物学部	360 人	357 人	99.2%	1,452 人	1,501 人	103.4%	6 人	2 人
生命健康科学部	360 人	348 人	96.7%	1,440 人	1,493 人	103.7%	0 人	0 人
現代教育学部	160 人	160 人	100%	648 人	651 人	100.5%	4 人	0 人
合計	2,600 人	2,583 人	99.3%	10,294 人	10,637 人	103.3%	47 人	0 人

（備考）

b.卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
工学部	747 人 (100%)	74 人 (9.9%)	661 人 (88.5%)	12 人 (1.6%)
経営情報学部	277 人 (100%)	0 人 (0.0%)	264 人 (95.3%)	13 人 (4.7%)
国際関係学部	129 人 (100%)	2 人 (1.6%)	114 人 (88.4%)	13 人 (10.1%)
人文学部	345 人 (100%)	9 人 (2.6%)	307 人 (89.0%)	29 人 (8.4%)
応用生物学部	341 人 (100%)	29 人 (8.5%)	302 人 (88.6%)	10 人 (2.9%)
生命健康科学部	361 人 (100%)	13 人 (3.6%)	328 人 (90.9%)	20 人 (5.5%)
現代教育学部	180 人 (100%)	3 人 (1.7%)	169 人 (93.9%)	8 人 (4.4%)
合計	2380 人 (100%)	130 人 (5.5%)	2145 人 (90.1%)	105 人 (4.4%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

進学先：中部大学大学院、岐阜大学大学院　ほか

就職先：中部電力㈱、スズキ㈱、ＪＲ東海、名古屋鉄道㈱、清水建設㈱、㈱ジェイテクト、アイシン精機㈱、㈱名古屋銀行、東海東京フィナンシャル・ホールディングス㈱、東濃信用金庫、ヤマザキマザック㈱、山崎製パン㈱、ミヨシ油脂㈱、第一生命保険㈱、春日井市民病院、国土交通省、農林水産省、警視庁、春日井市役所、名古屋市役所、名古屋市消防局、愛知県警察本部、愛知県公立学校教諭、岐阜県公立学校教諭　ほか

（備考）

c.修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	921 人 (100%)	675 人 (73.3%)	122 人 (13.2%)	124 人 (13.5%)	0 人 (0%)
経営情報学部	331 人 (100%)	249 人 (75.2%)	46 人 (13.9%)	36 人 (10.9%)	0 人 (0%)
国際関係学部	155 人 (100%)	110 人 (71.0%)	21 人 (13.5%)	24 人 (15.5%)	0 人 (0%)
人文学部	388 人 (100%)	303 人 (78.1%)	45 人 (11.6%)	40 人 (10.3%)	0 人 (0%)
応用生物学部	376 人 (100%)	327 人 (87.0%)	26 人 (6.9%)	23 人 (6.1%)	0 人 (0%)
生命健康科学部	403 人 (100%)	325 人 (80.6%)	56 人 (13.9%)	22 人 (5.5%)	0 人 (0%)
現代教育学部	195 人 (100%)	177 人 (90.8%)	7 人 (3.6%)	11 人 (5.6%)	0 人 (0%)
合計	2,769 人 (100%)	2,166 人 (78.2%)	323 人 (11.7%)	280 人 (10.1%)	0 人 (0%)

（備考）
・中途退学者数には、除籍者を含む。
・各学部の転部人数は、以下の通り。
工学部　転入：4名　転出：1名、　経営情報学部　転入：0名　転出：2名
国際関係学部　転入：2名　転出：0名、　人文学部　転入：5名　転出：1名
応用生物学部　転入：0名　転出：3名、　生命健康科学部　転入：1名　転出：7名
現代教育学部　転入：2名　転出：0名

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
【様式第２号の３より再掲】
各科目担当者には、大学で定めたシラバス作成要領（刊行物）を配付し、この要領に基づいたシラバスの作成を依頼している。
シラバスの作成は、本学の Web システムを使用して、教員が各自入力する。

また、各担当者がシラバスを作成した後、各学部・学科において、第三者の教員によるシラバス内容の点検を実施している。要領で定めた内容と齟齬があった場合は、点検者からの指摘に応じて担当教員が修正を行っている。

第三者による点検実施および内容の修正が完了後、新年度のオリエンテーション実施日の１週間～10 日前を目処にシラバスを公表している。
（新年度オリエンテーション：3 月下旬）

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
【様式第２号の３より再掲】
各教員には、シラバス作成要領において、シラバスの“成績の評価方法”の項目に、どのような観点・方法により評価するかを示し、またその評価方法が全体（100%）に占める割合を明示している。
（例：レポート等の提出物：50%、期末試験：50%など）

また、シラバスの“成績の評価基準”の項目に、評価方法で示した観点・方法で測定した学修成果に対して、どのような基準で成績をつけるのかを明示している。
また、シラバスの第三者点検を行い、シラバスに記載された評価方法が適正であるか学部・学科において確認している。

卒業の要件は本学学則（第１８条）において定められている。
また、各学部・学科において、「卒業の認定に関する方針」を定めている。
卒業の判定は、学生の成績を事務（教務支援課）において集計し、卒業判定資料を作成した後、学部の教授会で「卒業の認定に関する方針」に基づいて卒業の認定可否が審議され、その審議結果に基づいて学長が決定している。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
工学部	機械工学科	124 単位	有	1 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	電気システム工学科	124 単位	有	1 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	電子情報工学科	124 単位	有	1 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	都市建設工学科	124 単位	有	1 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	建築学科	124 単位	有	1 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	応用化学科	124 単位	有	1 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	情報工学科	124 単位	有	1 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	ロボット理工学科	124 単位	有	1 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	電気電子システム工学科	124 単位	有	1 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	宇宙航空理工学科	124 単位	有	1 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
経営情報学部	経営総合学科	124 単位	有	1 期　20 単位 2 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	経営情報学科	124 単位	有	1 期　20 単位 2 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	経営学科	124 単位	有	1 期　20 単位 2 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	経営会計学科	124 単位	有	1 期　20 単位 2 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
国際関係学部	国際学科	124 単位	有	1 期　20 単位

				2 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	国際関係学科	124 単位	有	1 期　20 単位 2 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	国際文化学科	124 単位	有	1 期　20 単位 2 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	中国語中国関係学科	124 単位	有	1 期　20 単位 2 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
人文学部	日本語日本文化学科	124 単位	有	1 期　20 単位 2 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	英語英米文化学科	124 単位	有	1 期　20 単位 2 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	コミュニケーション学科	124 単位	有	1 期　20 単位 2 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	心理学科	124 単位	有	1 期　20 単位 2 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	歴史地理学科	124 単位	有	1 期　20 単位 2 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
応用生物学部	応用生物化学科	124 単位	有	1 期　20 単位 2 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	環境生物科学科	124 単位	有	1 期　20 単位 2 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	食品栄養科学科 食品栄養科学専攻	124 単位	有	1 期　20 単位 2 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	124 単位	有	1 期～6 期　26 単位 7 期～8 期　20 単位
生命健康科学部	生命医科学科	128 単位	有	1 期～6 期　26 単位 7 期～8 期　20 単位
	保健看護学科	130 単位	有	1 期～6 期　26 単位 7 期～8 期　20 単位
	理学療法学科	128 単位	有	1 期～6 期　26 単位 7 期～8 期　20 単位
	作業療法学科	128 単位	有	1 期～6 期　26 単位 7 期～8 期　20 単位
	臨床工学科	128 単位	有	1 期～6 期　26 単位 7 期～8 期　20 単位
	スポーツ保健医療学科	128 単位	有	1 期～6 期　26 単位 7 期～8 期　20 単位
現代教育学部	幼児教育学科	124 単位	有	1 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	現代教育学科 現代教育専攻	124 単位	有	1 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位
	現代教育学科 中等教育国語数学専攻	124 単位	有	1 期～6 期　24 単位 7 期～8 期　20 単位

ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）	公表方法：
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）	公表方法：

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www3.chubu.ac.jp/student_life/facilities/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
工学部	機械工学科 都市建設工学科 建築学科 応用化学科 情報工学科 ロボット理工学科 電気電子システム工学科 宇宙航空理工学科	2020年度 930,000円 2021年度 940,000円 2022年度 950,000円 2023年度 960,000円	2020年度 280,000円	2020年度 410,000円 2021年度 420,000円 2022年度 430,000円 2023年度 440,000円	施設設備費・教育充実費
経営情報学部	経営総合学科	2020年度 730,000円 2021年度 740,000円 2022年度 750,000円 2023年度 760,000円	2020年度 280,000円	2020年度 370,000円 2021年度 380,000円 2022年度 390,000円 2023年度 400,000円	施設設備費・教育充実費
国際関係学部	国際学科	2020年度 770,000円 2021年度 780,000円 2022年度 790,000円 2023年度 800,000円	2020年度 280,000円	2020年度 370,000円 2021年度 380,000円 2022年度 390,000円 2023年度 400,000円	施設設備費・教育充実費
人文学部	日本語日本文化学科 英語英米文化学科 コミュニケーション学科 心理学科 歴史地理学科	2020年度 770,000円 2021年度 780,000円 2022年度 790,000円 2023年度 800,000円	2020年度 280,000円	2020年度 370,000円 2021年度 380,000円 2022年度 390,000円 2023年度 400,000円	施設設備費・教育充実費
応用生物学部	応用生物化学科 環境生物科学科 食品栄養科学科 食品栄養科学専攻	2020年度 930,000円 2021年度 940,000円 2022年度 950,000円 2023年度 960,000円	2020年度 280,000円	2020年度 410,000円 2021年度 420,000円 2022年度 430,000円 2023年度 440,000円	施設設備費・教育充実費

	食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	2020 年度 930,000 円 2021 年度 940,000 円 2022 年度 950,000 円 2023 年度 960,000 円	2020 年度 280,000 円	2020 年度 410,000 円 2021 年度 420,000 円 2022 年度 490,000 円 2023 年度 440,000 円	施設設備費・教育充実費・修学諸費
生命健康科学部	生命医科学科	2020 年度 990,000 円 2021 年度 1,000,000 円 2022 年度 1,010,000 円 2023 年度 1,020,000 円	2020 年度 280,000 円	2020 年度 580,000 円 2021 年度 710,000 円 2022 年度 720,000 円 2023 年度 730,000 円	施設設備費・教育充実費・修学諸費
	保健看護学科	2020 年度 960,000 円 2021 年度 970,000 円 2022 年度 980,000 円 2023 年度 990,000 円	2020 年度 280,000 円	2020 年度 460,000 円 2021 年度 590,000 円 2022 年度 600,000 円 2023 年度 610,000 円	施設設備費・教育充実費・修学諸費
	理学療法学科	2020 年度 960,000 円 2021 年度 970,000 円 2022 年度 980,000 円 2023 年度 990,000 円	2020 年度 280,000 円	2020 年度 460,000 円 2021 年度 540,000 円 2022 年度 550,000 円 2023 年度 610,000 円	施設設備費・教育充実費・修学諸費
	作業療法学科	2020 年度 960,000 円 2021 年度 970,000 円 2022 年度 980,000 円 2023 年度 990,000 円	2020 年度 280,000 円	2020 年度 460,000 円 2021 年度 540,000 円 2022 年度 550,000 円 2023 年度 610,000 円	施設設備費・教育充実費・修学諸費
	臨床工学科	2020 年度 930,000 円 2021 年度 940,000 円 2022 年度 950,000 円 2023 年度 960,000 円	2020 年度 280,000 円	2020 年度 440,000 円 2021 年度 520,000 円 2022 年度 530,000 円 2023 年度 590,000 円	施設設備費・教育充実費・修学諸費
	スポーツ保健医療学科	2020 年度 880,000 円 2021 年度 890,000 円 2022 年度 900,000 円 2023 年度 910,000 円	2020 年度 280,000 円	2020 年度 410,000 円 2021 年度 520,000 円 2022 年度 530,000 円 2023 年度 540,000 円	施設設備費・教育充実費・修学諸費

現代教育学部	幼児教育学科 現代教育学科 現代教育専攻 現代教育学科 中等教育国語数学専攻	2020年度 720,000円 2021年度 730,000円 2022年度 740,000円 2023年度 750,000円	2020年度 280,000円	2020年度 370,000円 2021年度 420,000円 2022年度 430,000円 2023年度 440,000円	施設設備費・教育充実費・修学諸費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

多様な価値観をもった学生一人ひとりが自ら学び成長することを意識し、充実した学生生活を送るために学修に専念できる環境を整備している。例えば、コモンズセンター、学習支援室、図書館や総合情報センターなどを多角的・自発的な学習の「場」として提供するとともに学内ICT環境を整え学生の修学を支援している。また、指導教授制を設けることにより、多様な学生・障がいのある学生への修学支援、成績不振の学生、留年者および休学・退学希望者などの状況を把握し、早期ケアを含めた具体的な対応や対策を講じている。

b.進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

入学後から卒業まで教職員一体となって学生の進路支援を構築している。支援体制として各学科のキャリア開発担当教員で構成されるキャリア委員会があり、キャリア支援、就職支援プログラムについて審議を経て、キャリア支援課が実施している。

正課外では、1年生から参加できる各種資格取得講座の開設、2年生文系学部には、ガイダンス、OB・OGとの交流会や企業見学会等を実施している。3年生には業界・企業研究会、履歴書作成講座、面接対策講座など全10回にわたる就職ガイダンスと、筆記試験対策講座を全8回開催し、個別相談を随時実施している。４年生には学内企業説明会を複数回実施し、個別相談、カウンセリング、面接練習、求人紹介を随時おこない、必要に応じて教員、学生相談室と連携し、支援を行っている。

正課では、3年生教育課目に「インターンシップＡ」（集中事前指導）、「インターンシップＢ」（夏期集中）を配置し、ガイダンス、申込受付、マッチングから報告会開催まで対応する。

Ｃ－ＮＥＴ（中部大学進路支援システム）の登録により、学生は様々な支援行事への申込、スケジュールの確認、18,000社を超える求人情報の検索・閲覧を行ったり、卒業生の就職先企業情報や活動体験記の閲覧機能を活用している。

c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

学生の抱える様々な身体と心の問題に対処するため、健康増進センター（学生相談室、保健管理室など）と学生部および学生が所属する組織が、有機的に機能するような体制で取り組んでいる。また、学生の人間的成長と自立を促すために、クラブ活動、ボランティア活動、ピアサポート活動などの支援を実施し、各種プログラムの充実を図るとともに、スポーツや文化の振興に向けて、健全な課外活動に対する支援体制を整備している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/